

コンサルティングの現場

ジャパン・ギネス・サービス代表 清水流美

前回に引き続き、" 3100m のナイアガラ花火 " をギネス申請した、福岡県柳川市のコンサルティング実況中継です。

前回では、間違ってイベント前に認定証が届いてしまった！の種明かしをしましたね。

バックナンバーはこちら <http://www.guinness.ne.jp/merumaga/index.htm>

さて、ビックリするようなことが立て続けに起ったのですが、3100m のナイアガラ花火は、予定通り 2003 年 8 月 24 日に実施され、見事成功に終わりました。

そして・・・

今度は、申請書類の作成です。

事前にかなり入念に準備をされていたので、とてもスムーズに進みました。数日のうちには、申請書類に関してちょっとした質問があり（例えば、ビデオのまとめ方や、証明書類の選び方など・・・）、稀に見る速さです。

ひとつ、こんなご相談がありました。

「事前予告では、3100m ですが、実測値は 3125.79m だった。どうすれば良いか」

こういうケースは、イベントの場合、結構あります。

当社では、ギネス社が書類を見る際に混乱しないように、値を揃えています。

ただし、新聞記事などは、内容を変えるのは考え物。

その場合には、なぜ数値が違うのか、という説明を入れることにしています。

でも、こういう事は、お客様には気が回らない部分でもありますので、当社で書類の翻訳・調整をするときにチェックをしをしています。

さて、そうこうしているうちに、ご担当者が苦心して揃えた書類が出来上がりました。次回は、その書類が当社に届いてから申請書類が完成するまでをご報告します。

## ギネス申請 裏話

コンサルティングの現場  
合資会社ピット代表 清水流美

前回に引き続き、”3100mのナイアガラ花火”をギネス申請した、福岡県柳川市のコンサルティング実況中継です。

前回では、申請書類が大体揃った・・・という段階までお話をしましたね。  
バックナンバーはこちら

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20031208.txt>

さて、私どもでは、コンサルティング開始時に、ギネス社へ提出する書類のリストアップをします。案件によってこの提出書類は異なりますので、これが結構な作業です。

でも、大変なのは私どもだけではありません。お客様にとっても、初めて聞くような書類を一から作らなくてはならなかったり、これまた大変な仕事です。そこで、お客様が慣れていないような書類に関しては、参考のためにサンプルをお渡ししています。その結果、”これ、ギネス申請書類としては全然ならないよ～！仕方ない、作り直してもらえないか・・・”という事態になることも随分減りました。

2003年8月24日のイベントが終わり、約1ヶ月後。

ご担当者から、申請に使う資料一式が送られてきました。これからは本格的に当社の経験の見せ所です。

まずは、どっさりとした資料の中から、申請に使うものと使わないものを選び分けます。さらに、日英セットで提出するもの、日本語のみでOKなもの、英語のみの方がよいもの・・・という作業を開始。

すると、中には必須提出書類なのに、揃っていないものもあつたりして・・・すぐに連絡を取って、追加送付をしてもらうことに。それほど時間もかからず届きました。いつも迅速な対応、有難いことです。

「以前申請したときの認定証が届いたが、名前などが間違っていた」ことを知らせる書面も同時に作り、見事、申請書類の完了！！

翻訳の際には、どうしても確認すべきことが沢山出てきます。  
そういった連絡のやり取りにも、本当に迅速に答えていただきました。

そして、全ての書類を一旦ご担当者へ。  
確認していただいてから、ギネス社へ送付していただきます。  
その方が ” 自分たちがやったんだ ~ ” という実感が沸きますしね。

ところで・・・  
どの書類に記録達成者の直筆サインが必要で、また、どの書類には不要か・・・  
について、少し迷われた部分があったようです。初めてのことですから、難しいですね。

そうこうしているうちに、ビッグニュース！（清水よりお知らせ～）  
VOL.12で、このナイアガラに関して、間違った認定証が届いたという話をしましたが・・・覚えていない方は、バックナンバーをチェック！！  
<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20031201.txt>

柳川市では、以前にも大規模なナイアガラを実施し、それを申請したのが、今になって認定証が届いたけど、内容がかなり間違っていた、というアレです。

実は、申請書類と一緒に、その間違いをギネス社に伝えたのですが、早速きちんとした認定証が送られてきたそうです。皆さん、お喜びでした。  
これで弾みをつけて、今回のナイアガラも認定を取りたいですね～！！

コンサルティングの現場（ナイアガラ）は、今日で終わりです。

## ギネス申請 裏話 コスモス編（第2回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 コスモス編（第2回）」をお届けしてまいります。

先週は記録の内容と記録を達成した岡山県北房町のコスモスサミット実行委員会の簡単なお紹介をさせていただきました。

そう、3.75メートルの草丈のコスモスを”世界一草丈の高いコスモスの花”として申請されたんですね。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040119.txt>

今週からは、申請にいたるまでのいろいろなエピソードを数回に分けてご紹介していきます。

この件に関して初めて私どもにお問い合わせをいただいたのは、2003年4月のことでした。「今年（2003年）の秋に、ジャンボコスモスを作ってギネス記録に申請したい！」というご相談で、当初はコスモスの草丈と花びらの大きさの2点で記録に挑戦したいとのことでした。目標は、草丈が5メートル、花びらの直径が20センチ。記録達成の予定時期は2003年10月。

そして、当時ご心配されていたのが、「実際のところ成功するかどうか分からないので、申請書類作成まで含めたサポートを申し込んでも無駄になってしまうのではないか・・・」ということでした。

そこで、まずはギネス・ワールド・レコーズ社への提出書類の作成以外のサポート（必要な手配や資料についてのアドバイス、記録を立証するためのサポートなど）をさせていただくことになりました。

サポートを申し込みされ、事務手続きをしている間にも、コスモスはすくすくと成長し、のんびりとはしてられない事態が発生！！「とにかく成長の様子を写真に撮っておいてください！」と、成長の記録を残しておいてもらうことにしました。

ところが・・・！！！！

思わぬことが起こってしまいました！

ギネス記録申請はあきらめなければならないのか？！

何？何が起こったの？！ドキドキドキ。。。

続きは来週のメルマガでお届けします。楽しみに！

#### ギネス申請 裏話 コスモス編（第4回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 コスモス編（第4回）」をお届けしてまいります。

岡山県北房町のコスモスサミット実行委員会の皆さんが、3.75メートルの草丈のコスモスを”世界一草丈の高いコスモスの花”として申請された際のエピソードを紹介しています。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（コスモス編はvol.15～です！）

天候の影響などで失敗に終わりあきらめるしかないと思っていたコスモスのギネス申請でしたが、思わぬところで大きく育っているコスモスを発見し、そのコスモスでギネス申請をしよう！と決定したところまで、先週お話ししました。

申請することを決定したら、次は申請のための準備をしなくてはなりません。今回のコスモスは草丈の長さで世界記録を目指すものですから、その草丈の長さを計る必要があります。そこで、まずは、当社から計測に関するアドバイスをしました。

植物の大きさに関しては、ギネス・ワールド・レコード社が定めた「植物の記録を申請するときのルール」があり、そこには”花の大きさ”や”茎の長さ”についての記述もありました。当然、そのルールに従って計測を行ってまいります。

ですが、いざ計測！となってみると、ルールに明記されていない部分での疑問が出てきてしまいました・・・。

なぜなら、このジャンボコスモス、丈が高いだけでなく、花自体も大きいので

す。花の部分が大きいということはつまり、「重い」ということで、普通にしていると重さのために頭がたれてしまう・・・。

「自然のまま（頭がたれたままで）高さを測る」

「支えをして伸ばし、その高さを測る」

一体どちらがいいの～？？？という疑問が生じてしまったのです。。。

そこで今回は、両方の長さを計測し、記録を残しておいていただくようにご提案をしました。

このコスモスの申請の場合に限った事ではありませんが、ギネス申請の準備をしよう！となると、本当にさまざまな疑問が生じてきたりするんですよね。だから、大変！かもしれません。でも、大変であればあるほど、申請を完了したときの達成感も増していくのでしょうね。そしてその記録が認定されたら...！もうこれ以上の喜びはありませんよね！！

今週はここまででお終いにし、来週は申請完了までのお話をお届けします。どうぞお楽しみに！

#### ギネス申請 裏話 コスモス編（第5回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 コスモス編（第5回）」をお届けしてまいります。

岡山県北房町のコスモスサミット実行委員会の皆さんが、3.75メートルの草丈のコスモスを”世界一草丈の高いコスモスの花”として申請された際のエピソードを紹介しています。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（コスモス編は vol.15～です！）

ギネス申請準備のために大きく育ったコスモスの草丈の長さの計測を行って・・・、というところまで先週お話ししました。

この記録挑戦、「ギネス申請 裏話 コスモス編（第2回）」で書いていたように、最初にお問い合わせをいただいたときは、コスモスの草丈と花びらの大きさの2点で記録に挑戦したいということだったんですね。

それが、天候などの影響で大事に育てていたコスモスがダメになってしまい、あきらめていたところ大きく成長しているコスモスを見つけ……。そのコスモスで草丈については申請を決めたのですが、花びらの大きさについては、残念ながら断念することになってしまいました。

ですが、まったくダメになってしまったとあきらめていたのが、草丈に関してだけでも申請を行うことになったのです！あとは、申請書類の準備です。

計測の結果も含めて準備していただいた資料を当社に送っていただき、その後は当社でその資料を申請資料として提出できる形に整えていきます。ギネス社に、記録の内容と達成者に関する内容を、正確かつ魅力的に伝えるため、細かいことでも準備段階に生じた疑問はお客様と確認を取っていきます。

そしてついに完成！ギネス社へそのまま送れるように準備した書類一式をお客様へ送付し、お客様から直接ギネス社へ発送していただきます。

数日後……。お客様から「ギネス社へ発送しました！」とのご連絡をいただいて、申請完了！あとは、認定されるかどうか、楽しみに待つのみです！

今回は、当初目標とされていた大きさに及ばずの記録でしたが、申請を行ったことを地域のPRポイントとしてどんどん活用していただければと思います。毎年恒例の企画として行えば、話題にもなりますし、町の活性化につながりそうですね。

岡山県北房町の「コスモスの花研究会」のウェブサイトでは、北房町に咲くコスモスの写真や、今回の記録挑戦の様子をご覧いただけます。「コスモスってこんなにいろんな種類があるんだ～」なんて勉強にもなりますよ。ぜひ一度ご覧になってみてください。

「コスモスの花研究会」ウェブサイト

<http://www.izumi-kk.co.jp/framepage1.htm>

当社ウェブサイトでもご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/now/index.htm>

(他の記録もご紹介していますので、そちらもどうぞご覧ください)

ところで、このコスモス、万田酵素を使って育てています。

ん? 「万田酵素」といえば・・・、どこかで聞いたことが・・・。

ジャンボ大根だ!! <http://www.sekaikiroku.com/get/daikon.htm>

「ギネス申請 裏話 コスモス編」今回は最終回です。

次回からは、「JR 全駅初下車記録編」をお届けします。どうぞお楽しみにお待ちください!

#### ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編 (第1回)

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編 (第1回)」をお届けしてまいります。

2002年2月21日、一本の電話が・・・。

その電話で、なんともビックリ! な記録を聞かされたのです。

その内容は・・・「JRの全駅下車を完了したので、ギネス申請してみたい」ということでした!

お電話を下されたのは、鉄道愛好家の男性で、お名前は杉原巨久さん。

早速当社で申請のサポートをさせていただくことになりました。

さて、今回はまず、その記録の内容をご紹介します。

当時53歳の杉原さんの達成した偉大な記録とは・・・。

-----  
期間は、1999年6月2日～2002年1月20日

総駅数 4642 駅に及ぶ、JR 全駅下車

期間 964 日中、所要日数は 297 日間

東京駅から開始し、広島駅で終了しました!  
-----



お仕事をされている杉原さんは、お仕事を終わってからの夜間や休日を利用して全国の JR の駅を訪問されました。

鉄道愛好家のなかには、「乗りつぶし」という記録に挑戦される方がたくさんいらっしゃるそうです。「乗りつぶし」というのは、日本国内の鉄道の全ての路線で乗車を目指したもので、全ての駅に下車するわけではないとのこと。

杉原さんが達成された記録は「乗りつぶし」ではなく、全ての駅に下車するという記録でした。「乗りつぶし」だけでも途方もない時間がかかるに違いないのに、なおかつ全ての駅に降り立ったということは、「すごい！！」としか言いようがありません！

もちろん、鉄道愛好家の方の中には、全駅下車という記録に挑戦し達成された方が他にもいらっしゃるだろうと思います。杉原さんは今回、「記録達成にかかった時間は最短である」と確信し、申請を行われました。

ギネス申請を行うまで、そして申請後の実に波乱万丈なエピソードの数々。それは、来週以降数回にわたってお届けしてまいります！どうぞお楽しみにお待ちくださいね！

#### ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第 2 回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第 2 回）」をお届けしてまいります。

先週は鉄道愛好家の杉原巨久さんという男性からのお電話で、ビックリする内容の記録を伺った！というところまでお届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040223.txt>

さて、これから実際の申請の準備を開始することになるのですが、まずは「記録のタイトル」を考えなければなりません。

"JR 線全駅乗下車"といっても、タイトルをどうするかとなると、いろいろな切

り口が考えられます。杉原さんはタイトルにこだわり、以下の二つのタイトルを候補にあげました。

「最短の JR 線全駅乗下車」

「初の JR 線全駅乗下車」

当社でも記録のタイトルは重要だと考えています。通常は、認定されるようにと、インパクト性などを検討してタイトルをつけますが、この記録の場合には、どちらにしてもインパクトはばっちりです。タイトルの決定は記録達成者である杉原さんに一任しました。

その結果、杉原さんが決定したのは「JR 線全駅初下車記録！」となりました。

さあ、次は記録を証明するための申請書類の準備です。杉原さんは、ご自分の記録挑戦の詳細をしっかりと残しておられました。なんととっても JR 全駅分ですから、その量はかなり膨大なものです！

その資料をどのようにまとめていったか・・・。  
その詳細については、来週のメルマガでお届けします。お楽しみに！

#### ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第3回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第3回）」をお届けしてまいります。

鉄道愛好家の杉原巨久さんが、「JR 全駅初下車記録」をギネス記録に申請することを決め、記録のタイトルを決定したところまで先週はご紹介しました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（JR 全駅初下車記録編は vol.20～です！）

さて、次に検討すべきことは「どんな書類を提出するのか」ということです。

杉原さんは、下車駅ごとに、日記のように記録ノートをつけ、もちろんビデオや写真も撮っておられました。そして、下車記録（下車日時、線名、会社名、

駅名などなど)をリストにして、エクセルデータでまとめた資料も丁寧に作っておられました。

私どもでは、まずお客様がどのような資料を持っておられるかを伺い、その中から申請資料にふさわしいものを選んだり、あるいは、新たに資料を作ってもらおうよう提案させていただいたりします。

今回の杉原さんの場合は、すごく悩みました！

なぜなら・・・

記録ノートは8冊。

ビデオテープは2時間のものが61本。

下車記録をまとめたエクセルデータは、A4用紙66枚。

とにかく、その量は半端ではありません。

単純に考えれば、全部提出したらいいと思いますが、これだけの量の資料を送ってこられたらギネス社側でどんなことになってしまうか・・・、などを考慮すると、抜粋して提出するほうがいいのではないかと考えました。

そういったことを杉原さんとも相談し、”抜粋して提出”することに決めました。その他、記録の内容を紹介するオリジナルの資料も作成し、4ヶ月のコンサルティング期間を経て、申請書類が完成！ギネス社へ送付をしました！

ご参考に！ = = = = = 【個人の方の申請で難しいこと】

記録申請を行う場合は、第三者の方に記録内容を確認していただき「間違いのない」という文書を書いていただく必要があります。

その「第三者」、ギネス社の規定や、私どもの経験をふまえて、決めていくのですが、どうしても、一般的に言う「おえらい方」になります。個人の方は、この部分で少し難しいと感じられる場合があります。

杉原さんも同じことを感じられたと思います。実際にご相談を受けたこともありました。でも、出来ないことはないのです！最終的には、2名の方に依頼され、その2名の方は、杉原さんの記録を裏付けるにふさわしい文書を書いてく

ださいました！

さて、ギネス社への送付は無事終わりましたが・・・。  
しばらくして、ギネス社から杉原さんに連絡がありました！  
どんな内容だったのでしょうか？それはまた来週をお楽しみに～！

#### ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第4回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第4回）」をお届けしてまいります。

鉄道愛好家の杉原巨久さんが、「JR 全駅初下車記録」の記録をまとめた申請書類をギネス社に送付したところまで先週はご紹介しました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（JR 全駅初下車記録編は vol.20～です！）

ギネス社への申請書類送付から3ヶ月が過ぎた2002年9月24日のこと・・・

杉原さんから連絡が来ました！  
ギネス社から書類が届いたので読んで欲しいとのことでした。

その書類には、以下のようなことが書かれてありました。

このような種類の記録は、今のところありません。

検討を進めるために、次の書類を送ってください。

- ・旅のログブック
- ・記録申請の際に使う基本書類（書き込んで返送してください）

まずは、ギネス社がいう「旅のログブック」とはどのようなものを意味しているのか、という疑問が生じました。

杉原さんは、旅の記録ノート（日記）をつけておられました。そして、そのまとめをエクセルで簡単にしておられました。

もともとの日記はノート8冊分です。

果たしてこれを全て英語に訳して提出する必要があるのだろうか。

当初ギネス社に資料を送ったときには、ノートの部分訳を提出していました。それは、面倒くさいから部分訳にしたというわけではもちろんなくて、もしノートを全部訳して提出して、ギネス社はその全てに目を通すのだろうか・・・という疑問があったからです。

この件に関しては、いろいろと検討をしました。

杉原さんも、大切な記録のことなので真剣です。

その結果、以下のものを提出することに決定しました。

- ・ 下車駅の記録をまとめたリストの全訳  
（駅名などを、ギネス社にわかるように表記しなおしたもの）
- ・ 記録申請の際に使う基本書類  
（ギネス社から送られてきたもの）

もちろん、認定を受ける可能性を高めるために、資料をまとめるときには、当社の経験上のノウハウを最大に詰め込みます。

その後、資料の準備を開始し、再度ギネス社への送付を完了します。

ですが、さらに驚くべきことが起こるのです！

その詳細は来週お届けいたします！どうぞ楽しみに～。

#### ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第5回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 JR 全駅初下車記録編（第5回）」をお届けしてまいります。

鉄道愛好家の杉原巨久さんが、「JR 全駅初下車記録」の申請のため、ギネス社への2度目の書類の送付を行うことになった・・・というところまで先週はお届けしました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>  
( JR 全駅初下車記録編は vol.20 ~ です！ )

さて、1 度目の申請書類提出後、ギネス社から連絡があり、追加での 2 度目の書類提出を行うことになったわけですが、2 度目の書類をギネス社に送付したのが 2002 年 10 月 23 日のことでした。

世界各地から記録申請書類が集まってくるギネス社ですから、日々多忙を極めていることでしょう。ですので、ギネス社に分かりやすいように、前回ギネス社から送られてきた手紙のコピーも忘れずに添えて無事申請書類送付を完了しました。

今回送付したのは以下の書類です。

- ・ 下車駅の記録をまとめたリストの全訳  
( 駅名などを、ギネス社にわかるように表記しなおしたもの )
- ・ 記録申請の際に使う基本書類  
( ギネス社から送られてきたもの )

その後・・・、ずいぶんと待ちました。そして、2003 年 4 月 21 日、杉原さんから久しぶりにご連絡をいただきました。半年が過ぎ、やっとギネス社から返答があったとのこと。

その返答の内容に・・・驚きました！

今回ギネス社から送られてきた書類には、「ノート（杉原さんがつけていた日記のこと）の全訳が欲しい」と書いてあるではないですか。

ノートに関しては、これまでに部分訳をギネス社に送付していました。全 8 冊という大量の資料ですから、部分訳のみを提出したということは、ギネス社にも伝わっているはずですよ。

それを全訳が欲しいと言ってくるということは、ギネス社のほうで本格的に検討を進めるために必要だということなのでしょう。

この件について、杉原さんとも何度も話し合い、「やはり、認定の可能性があ

るのなら、やりたい」という杉原さん本人の意思を尊重して、ノートの翻訳を開始することにしました。

ギネス社が「全訳」と言ってきているのだから、言葉どおり「全て」を翻訳しなければならない。大量の資料ですからどんなに急いでもかなりの日数を要してしまいます。

さらに、ノートの全訳にプラスして、ギネス社に分かりやすいようにと追加で他にもいくつか資料を送ることにしました。ちなみに、ビデオ・テープ(全部で61本!)も送付することにしました。

1日でも早く資料を送付できるようにと、杉原さんと当社とで役割分担をし、資料作成を進めました。

さてさて、無事資料を完成して送付することが出来るのでしょうか~?!  
来週をどうぞお楽しみに!

#### ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編(第1回)

今週からは、「ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編」をお届けしてまいります。本日は第1回目!

先週まで、「JR全駅初下車記録編」として杉原巨久さんの記録申請の様子をお届けしてきました。

今週からは、杉原さんの更なる挑戦をお届けしてまいります!今回のタイトルをご覧くださいになったら分かるでしょうか?そうです!杉原さんは、JR全駅初下車記録の申請を行っている最中も、続けておられたのです!日本国内の鉄道全駅に下車するという挑戦を!!

先週までの「JR全駅初下車記録編」の内容をご覧くださいたい方は、バックナンバーをご覧くださいいただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

(JR全駅初下車記録編はvol.20~です!)

杉原さんのJR全駅下車記録の申請書類が揃い、杉原さんからギネス社への発送が完了したのが、昨年、2003年の8月のことでした。

JR 全駅下車の申請準備などをしているときに、私鉄にも挑戦しているというお話は杉原さんから伺っていました。そして、JR の分の申請資料の発送を終えたときも、まさに私鉄への挑戦の真っ最中だったのです。

その時点では杉原さんはまだ、私鉄も含めた記録をギネス社へ改めて申請するかどうかは決めておられませんでした。ただ、私鉄に関しても何とか全駅下車を達成しようと、お仕事の休みの日を利用して、全駅下車の完了を目指してがんばっておられました。

そして、杉原さんはついに日本国内の私鉄の駅にも全て下車するという記録（ロープウェイを除く）を達成します。その達成予定日は 2003 年 10 月 14 日（なんと「鉄道の日」）だったのですが、杉原さんのご都合で、少し遅れてしまいました。でも、2003 年 10 月 19 日に無事、最終駅に下車されました！！（最後に降り立つ駅となったのは、福井県、えちぜん鉄道 勝山永平寺線の勝山駅だったそうです）

総駅数は JR も含めて 9649 駅、JR の駅から初めて 4 年 4 ヶ月 17 日間での記録達成です。所要日数は 490 日！これだけのことをやり遂げた杉原さんの情熱には、ただ「すごい！」の一言です。

さて、JR 全駅下車記録のギネス申請は完了していました。私鉄も含めた日本国内鉄道全駅初下車記録の申請を行うのかどうか。その時点では、まだ JR の方の申請の結果も分かっていませんでしたから、杉原さんも迷われました。しかしここでもやはり杉原さんの情熱が、更なるギネス記録申請を決意させました。

2003 年も終わりに近い頃、杉原さんから正式にサポートのお申し込みを受け、再度、新たな申請資料の準備が始まったのです。

準備の模様については、来週のメルマガでお届けしますので、どうぞお楽しみにお待ちくださいー！



## ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編（第3回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編」をお届けしてまいります。本日は第3回目！

先週のメルマガでは、JRに引き続き日本国内の私鉄の駅に全て下車するという記録を達成した杉原巨久さんが、私鉄の駅も含めて「日本国内鉄道全駅初下車記録」としてギネス記録に申請することを決意し、さあ、申請書類の準備を始めよう！というところまでお届けしました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（日本国内鉄道全駅初下車記録編はvol.26～、  
JR全駅初下車記録編はvol.20～です！）

申請書類の準備を開始するにあたり、最初に行ったのが、駅名を全て英語表記にするという作業です。今回の下車記録の総駅数9649駅のうち、私鉄分として新たに申請資料を作成するのは、5001駅分です。

それだけの量の駅名を英語表記にするのですから、一通り作業するだけでも大変な時間がかかります。まずは、杉原さんが駅名はもちろん鉄道会社名や路線名を含めたデータを英語表記にしてくださいました。

それを私どもで入力ミス等がないか再度チェックします。時々意識が遠のきそうになりながらも何とかチェックを終えたというような状況でした。

それにしても、本当に細かく、丁寧に記録を残しておられた杉原さんには驚かされるほどです。そのデータを見ているだけでも杉原さんの気合いが伝わってくるようで、「がんばらなければ！」と思わずにはいられないのでした。

さてさて、英語表記のチェックが終わったといっても、まだこれはほんの始まりに過ぎません。そうです、杉原さんが各駅で記録をつけていたノートの翻訳があるんです！

大学ノート2ページ分を1枚の用紙にコピーしたものが418ページ分！前回のJR

全駅下車記録のときも同じくらいの量がありました。

つまり・・・、どうがんばっても結構な日数がかかってしまうということです。

それぞれの駅に関する記録を英語に直し、ひたすら入力し続ける。確かに大変なことで、最近視力が落ちてきたと感じる翻訳担当の私は、仕事を終えて家へ帰る道々、普段は見える看板の字がぼやけて見えなくなっていることに気づきショックを受けてしまうのでした。

(次の日にはちゃんと見えるようになっていたりするんですね。よっぽど目が疲れてしまっていたということなんでしょうね)

ですが、杉原さんの記録ノートは時々起こるアクシデントなどでいい具合に楽しませてもらえるので、それが時には気分転換になり、JR全駅の記録のときもそうでしたが、さほど辛いというような感情はなく、終りに近づいてくると、「終わってしまうのか・・・」と淋しさを覚えたりもしました。

翻訳がかかわること以外の申請書類の準備には、杉原さんも非常に積極的に協力してくださったので、その協力がなかったら・・・と考えると恐ろしくなりますが、おかげさまで翻訳に励むことが出来ました！

さあ、杉原さんの記録申請はどうなっていくのか！

来週のメルマガをどうぞお楽しみにー！

ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編 (第4回)

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編」をお届けしてまいります。本日は第4回目！

JR に引き続き日本国内の私鉄の駅に全て下車するという記録を達成した杉原巨久さんが、私鉄の駅も含めて「日本国内鉄道全駅初下車記録」としてギネス記録に申請することを決意されました。

先週のメルマガでは、申請書類の準備にまつわる裏話をご紹介いたしました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

(日本国内鉄道全駅初下車記録編は vol.26 ~、  
JR 全駅初下車記録編は vol.20 ~ です！)

「日本国内鉄道全駅初下車記録」のギネス記録申請用の書類準備ですが、バタバタしながらも先日無事終わることが出来、私どもが準備を担当した分の書類は杉原さんのもとへと旅立っていきました！

後は、杉原さんがご準備してくださった資料とともにイギリスのギネス・ワールド・レコーズ社へと発送していただくだけです。そしてその後は審査の結果を待つだけです！

もちろん私どもはうれしい結果を心待ちにしているのですが、いいお知らせが届きましたら、メルマガを読んで下さっている皆さんにももちろんお知らせいたしますので、楽しみになさってくださいね！

杉原さんの成し遂げた記録がすごいことだというのは、記録のタイトルを見ていただければお分かりいただけるかと思いますが、その記録を達成しただけにとどめておかず、さらにギネス記録にも申請したということで、新聞やテレビなどのメディアの注目度も高まりました。

杉原さんご自身でも新聞社やテレビ局に記録達成の通知を送られるなどの働きかけをされ、最終到着駅で複数のメディアからの取材を受けられました。

そして、私どものウェブサイトでも杉原さんの記録をご紹介させていただいていることから、メディアの方から杉原さんに関する問い合わせをいただき、実際にテレビ番組でも紹介されました。

私どもも、もちろんその番組は見させていただきました。（きゃーきゃー騒ぎながら・・・）記録の達成、そして申請を行うということは、もちろん記録の達成者であり申請者でもある杉原さんの努力や熱意がなければ実現できなかったことですが、私どものサポートが少しでも役に立ち、その結果として新聞やテレビでも注目され取り上げられたのであれば、これ以上の喜びはありません。

メディアからの注目を集めた理由には、「ギネス記録」というキーワードがあったということもあげられるように思います。杉原さんのように個人の方の場合は「人生の記念に」と申請を考えられるのが大半ではないかと思いますが、これが企業の場合でしたら、想像を絶するようなPR効果が期待できるでしょうね。

さて、ここでひとつうれしいお知らせです！

杉原さんがメディアから注目を集めている！というお話を上にご紹介しましたが、実は、ゴールデンウィーク中に、杉原さんがテレビに出演されます！

\*\*\*\*\*

5月5日（水） 午後8時～午後10時

NHK BS2 および BS hi にて

BS15周年企画 生放送 [鉄道バラエティー]

出発！列島縦断 鉄道12000キロの旅

\*\*\*\*\*

ぜひご覧になってみてください。私どもも今から楽しみにしています！

（といってもBS放送を見ることが出来ない私は、後日ビデオ録画したものを見させていただくのですが・・・）

さて、JR全駅初下車記録編、日本国内鉄道全駅初下車記録編と続けて杉原さんの記録をご紹介してきましたが、来週が最終回となります！

杉原さんのこの記録挑戦に対する思いをご紹介します。

どうぞお楽しみに！

## ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編（第5回）

先週に引き続き、「ギネス申請 裏話 日本国内鉄道全駅初下車記録編」をお届けしてまいります。本日は第5回目！

JRに引き続き日本国内の私鉄の駅に全て下車するという記録を達成した杉原巨久さんが、私鉄の駅も含めて「日本国内鉄道全駅初下車記録」としてギネス記録に申請することを決意されました。

先週のメルマガでは、ギネス記録に申請したことで杉原さんが新聞やテレビなどでたくさん紹介されたことについてお伝えしました。

先週までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（日本国内鉄道全駅初下車記録編はvol.26～、

JR全駅初下車記録編はvol.20～です！）

「JR全駅初下車記録編」「日本国内鉄道全駅初下車記録編」として杉原巨久さんのギネス記録申請の裏話をお届けして参りましたが、今回がとうとう最終回です！

少し前に当メルマガでもお知らせしましたが「日本国内鉄道全駅初下車記録」の申請準備をしている最中に、「JR全駅初下車記録」のギネス記録認定証が届きました！

そのお知らせをいただいてからしばらく経って、杉原さんからのファックスが届きました。それは、A4用紙2枚分にわたるもので、ギネス記録に認定されたことを親しい友人や関係者の方にお知らせする内容のものでした。

「ご参考までに・・・」と私どものところへも送って下さったのですが、そこに書かれてあった杉原さんのギネス記録申請に関する思いを、少しでもになりますが、ご紹介いたします。「」で囲ってある部分は杉原さんの文章をそのまま引用させていただきました。

まず、このすごい記録を達成することとなる旅の始まりについて・・・

「ふりかえってみますと、時刻表で見る数多くの駅、街がどんなところだろうと小さいときから思っていましたし、元々好きな鉄道と旅の何かの一区切りとして、全駅を見てやろうと心に決めてからは休みなしに出かけました。」

土日を利用して、根気強く旅を続けられた杉原さん、広島駅で JR 全駅下車を完了したときはまったくギネス申請など考えておらず、ビデオや日誌への記録も会社を定年退職後にゆっくりと見ようと思っておられたそうです。

それがふとしたきっかけでギネス記録のことを聞き、申請することを決意されました。

申請書類等の準備でいちばん大変だったのは、杉原さんの記録を「間違いないです」と、客観的に立証してくれる方を探すことだったと書かれています。これだと思ふ人に依頼してみても断られたり、大変ご苦労されたそうですが、毎日利用する駅の前で演説をしている国会議員の方をお願いをしてみたところ、その国会議員の方は、これまでに何の面識もなかった杉原さんを信用し、証人となることを承諾してくださったんだそうです。（このエピソードには私も驚きました！）

そして、最初に申請書類を送った後、結局さらに2回追加の資料を送ることになったのですが、ギネス社から連絡が来たことについて、杉原さんは・・・

「今まではるか高い雲の上の存在で一生何の縁もないと思っていたギネス社から言ってきたのですから、私もびっくりしました。旅日誌（注：大学ノート8冊分）の翻訳については、量が多くて翻訳できないだろうから、申請をあきらめさせるため言ってきたのかと勘ぐったくらいでした。」

そのようにギネス社からのコンタクトに当初は戸惑いを感じておられた杉原さんですが、次第に「何回も言ってくるからには脈があるな」と考え始めるようになっていったそうです。

そして、最初の申請から1年9ヵ月後、何の前触れもなく認定書が杉原さんのもとに届けられました！ そのときの杉原さんの喜びは・・・

「夢ではないかと思ったくらいです。何とうれしかったか、人生の五大出来事に軽く入るくらいの出来事でした。」

杉原さんは、なぜギネス記録として自分の記録が認められたのか、考えてみてもよく分からないと書かれています。そして、日本の鉄道会社やギネスの審査員をはじめ、多くの方々に感謝の気持ちを示しておられます。

私がこの杉原さんのギネス記録認定のお知らせを読ませていただいて、いちばん印象に残ったのは、「思ってみると、自分ではつらい時もあったが、旅はずっと楽しかった」という言葉です。

楽しい、と思えたからこそ、ここまでのことをやり遂げることが出来たのだろうと思います。

以上、杉原さんからのギネス記録認定のお知らせをかいつまんでご紹介させていただきました。

今回で「日本国内鉄道全駅初下車記録編」は終了です。なんだか名残惜しいような気持ちもしますが、来週からは、また別のギネス記録申請への裏話をお届けしてまいります。

今度は個人の方ではなく、ある会社のギネス記録挑戦、申請への道のりをご紹介しますので、どうぞお楽しみにお待ちくださいね！

#### ギネス申請 裏話 25万個のプルタブ絵編（第1回）

さて、今週からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、今回はアスモ株式会社さんによる「25万個のプルタブ絵」への挑戦をご紹介します。

アスモさんのウェブサイトはこちら

<http://www.asmo.co.jp/>

アスモさんと最初にお会いしてギネス記録申請を検討しているとのこと相談を受けたのが昨年、2003年の10月のことでした。当初は具体的なことは決まっていませんでしたが、その後「プルタブで大きな絵を作ってギネス記録に申請しよう」ということに決定しました。

実は、今年、2004年は創立25周年というアスモさんにとって記念すべき年なのです。その25周年を記念して社員及び社員の家族向けのイベントを企画しておられ、そこで“ギネスに挑戦！”ということで何かやりたいとお考えだったのです。

イベントを企画する際に「皆でギネス記録に挑戦したら盛り上がるかも！」と思いついたとしても、じゃあ一体何に挑戦すればいいのか・・・となったらきっと迷ってしまいますよね。

今回、アスモさんはひとつの案をお持ちでした。

それが「25万個のプルタブ絵」です。

プルタブ絵を作ることを決定しましたが、のんびりはしてられません。25周年記念のイベントは4月に行われる予定でしたから、さっそく役割分担、スケジュールなどを決め、準備を進めていかなくてはなりません。

プルタブ絵の絵柄については、会社に関連したもの、日本独特の文化に関連したもの、いくつかの案が出ていたようです。色に関しても白黒にするか、カラーにするか・・・。「プルタブ絵」を作ると決定した後にも検討する事項はたくさんあります。

そして何よりもまず、プルタブを集めなければなりません。社員の皆さんでがんばって集めるとのことでしたが、大変なことですよ。25万個です！

あ、うっかりしていました！プルタブ絵がどんなものかという説明をしていませんでしたね・・・。

図で表すとこんな感じになります。大体どんなものかイメージは掴んでいただけたのではないのでしょうか。



プルタブ 1250 個 × 20 列 = 25000 個

プルタブに色をつけ、絵を描く  
プルタブは、上下方向のワイヤで固定  
制作はチームでワイヤ何本・・・という形

さてさて、アスモさんのプルタブ絵作りの挑戦はどうなっていくのか、25周年記念のイベントまでに間に合うのか！！

次号以降をお楽しみにお待ちくださいね！

ギネス申請 裏話 25万個のプルタブ絵編（第2回）

前回は引き続き、「ギネス申請 裏話 25万個のプルタブ絵編（第2回）」をお届けしてまいります。

前回はアスモ株式会社さんが、創立25周年を記念して、プルタブ25万個を使っ  
た絵を作り、ギネスに挑戦することになった！！ というところまで、ご紹介

しました。

前回のメルマガで、プルタブ絵がどういうものを説明させていただいた記述に間違いがございました。

「1250 個 × 20 列 = 25000 個」としておりましたが、  
正しくは、「1250 個 × 200 列 = 250000 個」となります。  
訂正してお詫び申し上げます。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040524.txt>

プルタブ 25 万個を使用して絵を作る……。これを創立 25 周年記念のイベント  
ト  
で無事お披露目するには、やはり、作業の計画を立てなければなりません。

そこで、アスモさんは以下のような流れで作業を行う予定を組みました。

プルタブを集める。（合計 25 万個！）

集めたプルタブに色付けを行う。

プルタブ絵の絵柄は、アスモさんのキャラクターに決定！  
社員の皆さんにキャラクターを募集して決定したそうです。  
どんなキャラクターかというと・・・  
アスモさんのウェブサイトでプルタブ絵の完成品の写真が  
掲載されていますので、そちらでご覧になれますよ！  
こちら [http://www.asmo.co.jp/data/a1\\_52.html](http://www.asmo.co.jp/data/a1_52.html)

プルタブを数えながら、配列、色ごとに仕分け。

例えば、1 列目に黒 100 個、白 1150 個使うとしたら、  
黒と白をそれぞれ別の袋に入れたうえで、  
それらをひとつの袋にまとめる。

## 制作

チームごとに別れて、プルタブをワイヤに通していく。  
ワイヤの本数は計 200 本。

分業で作ったそれぞれの列を並べて絵が完成！！

上記のような流れで作業を進めていくことになりましたが、制作を行う上で、アスモさんが最も慎重に行われたのが「プルタブの数のカウント」でした。

というのもこの記録は、完成した絵の大きさ（縦 センチ×横 センチ）の記録ではなく、25 万個のプルタブを使ったという、プルタブの数に関する記録として申請を行うからです。

ギネス記録申請を検討する段階で、大きさにするのか、個数にするのか、ということも検討されたようですが、プルタブをつなげてもガタガタしてしまい、ぎゅっと圧縮すれば小さくなるし、逆に隙間を開ければ大きくなる・・・、ということで、大きさにした場合、基準が明確にしづらくなります。それで、「個数でいこう！」ということになりました。

さて、実際に行われたカウントの方法はというと・・・

1. プルタブに色付けをする段階で、大まかにカウントしておく。  
（重量から数を換算する）
2. プルタブを仕分ける段階で、正確なカウントを行う。  
（カウントの結果を書面でも記録する）

そしてさらに、慎重には慎重を期して・・・ということで、

3. プルタブをワイヤに通していく段階でも、再度カウントを行う。

( カウント結果も再度書面に記録する )

このように、何度も厳重にカウントを行いました。

正確に、慎重にカウントを行っているということを書面などに記録し、提示することで、ギネス申請の際に、記録の信用度を増すことになります！

もちろん、申請のために必要となる書類は、サポートをさせていただく私どもでサンプルを作成してお渡ししています。

アスモさんのケースでは、個数のカウントの方法などもご提案いたしました。

そして、アスモさんの側で、書類のサンプルや私どもからの提案を参考に、もろもろの条件に合うように調整し、プルタブ絵の制作を行われました。

さて、その制作は計画通りに進んだのか？

などなど、実際の制作の様子などを次回以降お届けしてまいります！

お楽しみに！

アスモさんのウェブサイトはこちらです <http://www.asmo.co.jp/>

ギネス申請 裏話 25万個のプルタブ絵編 (第3回)

前回は引き続き、「ギネス申請 裏話 25万個のプルタブ絵編 (第3回)」をお届けしてまいります。

前回は、アスモ株式会社さんによるギネス記録への挑戦、「プルタブ 25万個を使った絵」の制作の流れを大まかにご紹介しました。

前回までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

( 25万個のプルタブ絵編は vol.31 ~ です！ )

プルタブ絵の制作からは少し内容がずれるのですが、アスモさんがプルタブ絵

の制作準備中に、こんな出来事がありました。

ある日のこと当社（PIT）へ、TBS系で放送されている「はなまるマーケット」から、番組に協力して欲しいとのお電話がありました。ギネス記録挑戦イベントを行うお客様を紹介して欲しいとのこと。

まあ、なんていいタイミング！！

アスモさんはまさにイベントの準備中！！多分今頃はプルタブを集めているところかな？？おお、これはアスモさんがピッタリだ！！

ということで、アスモさんにご協力をお願いしてみたところ、ご担当の方も快くご了承してくださいました。

そして早速、はなまるマーケットさんにご紹介し、すぐにアスモさんへの取材が行われました。

その後、はなまるマーケットさんから当社へ問い合わせがあった翌々日には、アスモさんが番組で紹介されました！！

もちろん私もアスモさんが登場された際の放送は拝見したのですが、ギネス記録挑戦企画に関するだけでなく、アスモさんの会社自体もクローズアップして紹介されていて、会社自体のイメージアップにもつながるような内容になっていました。

全国ネットのテレビ番組で自社の活動を取り上げてもらえ、かつギネス記録というキーワードがあれば、見ている人の印象にも残りますよね。今回のアスモさんの例は、ギネス記録挑戦を、自社のPRに活かすことの出来た好例だと思います。

とにもかくにも、今回は本当にいいタイミングでお客様ご紹介の依頼をいただき、少しでも私どもの橋渡しがお役に立てたのなら、と思うとうれしい限りです。。。

私どもでサポートさせていただくお客様のほとんどが、ギネス記録挑戦・申請

を PR 材料として活用したいとお考えです。

また、テレビや新聞、雑誌などメディアの方が情報を求めてお問い合わせをしてこられることも多くあります。

出来る限り両者を結びつけることが出来るように、と対応させていただいてますが、アスモさんのケースは、本当にナイスタイミングでした！！

そうそう、ちょうどこの取材を受けた頃、アスモさんではプルタブ集めの真っ最中でした。

2004 年 1 月から開始したプルタブ集め、25 万個という大量のプルタブを集められるかどうかということのアスモさんも心配しておられましたが、なんと、2 月 11 日の時点で、目標を軽く超える 30 万個が集まっていたのでした～！！

社員の皆さんが協力し合った結果、目標を大きく上回る量のプルタブを集めることが出来たのですが、こういうお話を聞くと、「なんでもやればできる！」という気持ちになりますね！

さてさて、プルタブが集まったといってもまだまだ先は長いのです。

仕分け、制作とやることはたっぷりあります。

その辺の様子は、次回のメルマガでご紹介します。どうぞお楽しみに！

アスモさんのウェブサイトはこちらです <http://www.asmo.co.jp/>

#### ギネス申請 裏話 25 万個のプルタブ絵編（第 4 回）

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 25 万個のプルタブ絵編（第 4 回）」をお届けしてまいります。

前回は、アスモさんの 25 万個のプルタブで絵を制作するというギネス記録への挑戦がテレビ番組で紹介されたエピソードをお届けしました。

前回までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

(25万個のプルタブ絵編はvol.31~です！)

今回の記録挑戦にあたり、アスモさんがご心配されていたこと。

「プルタブを25万個集めることができるのだろうか・・・」

そんな心配はよそに25万個を超えるプルタブを無事集めることが出来ました  
今年(2004年)1月から集め始めたプルタブも、2月11日にはすでに30万個集  
ま

っていました~!!

その後、色付け、仕分けと作業はまだまだ続きます。3月上旬には仕分け作業  
も完了し、あとはプルタブをつなげて絵を完成させる!というところまで進ん  
でいきました。

さて、実際の作業を続けている間、ギネス記録申請のための書類の準備なども  
並行して行わなければなりません。

もちろんアスモさんにとっては、ギネス記録の申請など初めてのことです。

いろいろな疑問、質問がわいてきます。

(それは当然ですよ。私だってこの仕事をしていなければ、どうやって申請  
するかなんてさっぱり分かりませんもん!)

たとえば・・・、

「立会人が必要なら、どんな方にお願いすればいいのか?」「その立会人には  
完成披露の式典にも出席してもらおう?」「記録として残す写真やVTRにはど  
の程度、どういった場面を収めておけばいいのか?」などなど・・・。

もちろん、そういったさまざまなご質問には当社から状況を考慮した上でアド  
バイスさせていただき、準備を進めていただきました。

そしてそして、3月末、ついに「仮組み」の状態でプルタブ絵が完成~!!

絵柄は、社内募集で決定したアスモさんのキャッチコピーとキャラクター。  
4月3日に行われた25周年記念イベントの中で、お披露目がされました。

なんと、そのイベントに当社の清水がご招待いただき、生のプルタブ絵を拝見してまいりました～！

実物は驚くほど鮮明で美しかったそうですよ！

実物を見たい方はこちら [http://www.asmo.co.jp/data/a1\\_52.html](http://www.asmo.co.jp/data/a1_52.html)  
(2004年4月2日の情報をクリックしてください)

「こういうイベント、ほんとうにイイ！！」と力を込めて清水も申ししておりましたが、長い期間をかけてみんなで力を合わせて作り上げていくことで生じた連帯感や、完成品を目にした皆さんの達成感が強く印象に残ったようです。

ちなみに、25万個を目標に集めていたプルタブは、最終的には50万個集まったそうです。倍ですよ、倍！プルタブ絵が二つ作れちゃいますね！

なんて、気軽に言ってますが、そんな余裕はなかったかもしれませんね。色の配置など、綿密に計画を練って制作されたのですが、プルタブのちょっとしたゆがみなどで、各プルタブ間に隙間が出来てしまうため、なかなか苦勞をされたそうです。

調整してプルタブの位置を合わせても、場所を移動したりすると、またずれてしまい、調整・・・ということが何度かあったそうです。

でも、そんな苦勞話も、完成後はきっといい思い出話になっているのではないのでしょうか！

イベントが無事終了した後は、ギネス記録申請の準備です。  
通常は、翻訳なども含めて申請書類の準備なども当社でサポートさせていただいているのですが、今回のアスモさんの場合は、アスモさんの側の「出来る限り自分たちでやってみたい！」という熱意もあり、社内ですべて行なわれることになりました。

なので、今は、アスモさんのギネス記録申請に良い結果が出ますようにと、



願っているところです。

もちろん良い結果になりましたら皆さんにもお知らせしたいと思います。

どうぞお楽しみに！

アスモさんのウェブサイトはこちらです <http://www.asmo.co.jp/>

さて、アスモさんの「25万個のプルタブ絵編」は今回で終了です。

次回からは、日本人なら一度は遊んだことがある(?)あるものについての裏話をお届けしてまいります。

#### ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れたCM編(第1回)

さて、今回からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、今回は株式会社テレビ東京さんと株式会社リクルートさんによる「一晩で最も多く流れたCM」への挑戦をご紹介します。

テレビ東京さんのウェブサイトはこちら

<http://www.tv-tokyo.co.jp/>

リクルートさんのリクナビのウェブサイトはこちら

<http://www.rikunabi.com/>

2004年1月14日

テレビ東京にて、リクルートさんの転職サイト「リクナビNEXT」の21種類あるCMを6時間で放送する、という試みが行われました。

この「一晩で最も多く流れたCM」というギネス記録はすでに存在している記録で、今回はその記録を塗り替えよう！というものでした。

-----  
1996年10月1日、グラナダ・スカイ・テレビ(英)はカースルメイン・トイズ社の「フォーエックス」ビールの17バージョンあるCMをすべて放送した。

(2002年度版ギネスブックより)

-----

というのが、すでに認定されていた記録の内容でした。

リクルートさんでは、CMのバリエーションをたくさん作るということはもともと決めておられたそうですが、その制作の流れの中でギネス記録挑戦も意識するようになったとのこと。

また、ギネス記録に認定されることで、CM制作にかかわったクリエイターの皆さんの記念碑にしたいという思いもあったそうです。

ところが、「よし！ギネス記録に挑戦しよう！」となってみると、ギネスブックから得られる情報だけでは分からないことも出てきます。

一晩というのは何時から何時までのこと？

似たような記録はあるのか？ 例えば「1日」で30種類とか・・・。

そのような疑問をリクルートさんが直接電話でギネス・ワールド・レコーズに問い合わせされました。

その問い合わせの電話で、最新の記録を知ることができ、「いける！」ということで、ギネス記録申請の実現に向けて動き出すことになりました。

そこで、私どもにサポートのご依頼をいただき、ギネス記録申請に向けて準備を行うことになりました。

記録挑戦のCM放送日は、2004年1月14日と決まっているので、当日に放送を確

かに行ったという記録を残さなければ記録達成の証明ができませんから、当日までに準備をしっかりとっておかなければなりませんし、提出書類の作成や、記録挑戦及び達成の証人となってくれる立会人の手配など、やることはたくさんあります！

ぼーっとしているヒマはありません！

放送当日のこと、その後もまだまだ続くギネス記録申請準備のことは、次回の

メルマガでお届けいたします。

お楽しみにお待ちください

### ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れた CM 編 (第 2 回)

前回に引き続き「ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れた CM 編 (第 2 回)」をお届けしてまいります。

前回は株式会社テレビ東京さんと株式会社リクルートさんが、「一晩で最も多く流れた CM」というギネス記録に挑戦するその当日前のエピソードをご紹介しました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040719.txt>

「一晩で最も多く流れた CM」のギネス記録に挑戦した全 21 種類の CM は、現在ご覧いただくことができないのが残念なのですが、とにかくすごい数ですね。通常、いくつかのバージョンを作っている CM でも 10 種類以下ではないでしょうか。

2004 年 1 月 14 日、18 : 00 ~ 24 : 00 の間に無事全 21 種類の CM が放送され、ギネス記録挑戦にも成功しました！！

記録の挑戦及び達成が確かに行われたことを証明していただく立会人の方に書いていただく書類も完成し、あとはもろもろの資料を揃えてギネス・ワールド・レコーズに提出します。

今回の記録は、テレビ CM ということもあり、映像と写真で視覚的に訴えるのが効果的だろうと判断し、各 CM の写真やビデオに録画したものを準備しました。

最終的には、15 種類ほどの資料を準備することになりました。これは、資料の

数としては多いほうですが、リクルートさんの担当の方がスムーズに準備を進めてくださいましたので、順調に資料は揃っていきました。

日本語での資料が揃ったら、次はすべての資料を英語に翻訳しなくてはなりません。翻訳は私どもで担当させていただくのですが、資料にはお名前などの「固有名詞」が数多く出てきます。そのため、固有名詞に関してはお客様に確認を取りながら翻訳を進めていきます。

この記録の場合は、通常のテレビCMと同様、テレビ番組の合間に放送されたものですので、参考資料としてテレビの番組表も提出しました。テレビ番組名の英語表記をどうするか、これは人物の名前よりもさらに悩むところでしたが、こちらが適切と思う表記を担当の方に確認していただくという方法で、無事英語に直すことができました。（ほっ）

そして、翻訳も完了し、全ての書類をギネス・ワールド・レコーズに提出できるよう準備が整いました。リクルートさんからは3月中に何とかしたいというご要望がありましたが、それにも何とか間に合いました。

2004年3月17日にこちらから担当者の方に全申請書類を送り、3月23日にはギネス・ワールド・レコーズへの送付を完了した、とのご連絡をいただきました。

さてさて、その結果はどうなるんでしょうね！！

といっても、前回のメルマガでもお知らせしてしまっていますし、世界記録申請コンサルティング部のウェブサイトをご覧いただいたらすぐにバレてしまいますので、隠すことはできません。

そうです。この「一晩に最も多く流れたCM」の記録は見事ギネス記録に認定されたのです！！

でも、その認定の結果が届くまで、ドキドキワクワク、そして時にハラハラしながら待ちました。

その辺のお話は次回のメルマガでお届けしてまいります。

どうぞお楽しみに～

テレビ東京さんのウェブサイトはこちら

<http://www.tv-tokyo.co.jp/>

リクルートさんのリクナビのウェブサイトはこちら

<http://www.rikunabi.com/>

### ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れたCM編（第3回）

前回に引き続き「ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れたCM編（第3回）」をお届けしてまいります。

今回は、株式会社テレビ東京さんと株式会社リクルートさんによるギネス記録への挑戦、「一晩で最も多く流れたCM」の記録申請を完了するまでをご紹介します。

前回までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

（一晩で最も多く流れたCM編はvol.35～です！）

テレビ東京さんとリクルートさんによる「一晩でも最も多く流れたCM」のギネス記録申請、2004年3月24日にリクルートさんよりギネス・ワールド・レコーズに全ての申請書類を送付しました。

そして、3月31日、ギネス社からメールが届いた！との連絡がリクルートの担当の方から入りました。

ギネス社からの反応の早さにも驚いたのですが、なんだかそのメールの内容も明るいものの様子

届いたメールには・・・

「Everything is fine. 今から最終確認の段階に入ります」ということが書

かれています。好感触です。これは期待が持てます。浮き足立つ世界記録申請  
コンサルティング部スタッフです。

また、そのメールには次のようなことも書かれてありました。

「一晩で最も多く流れたCM」として記録を更新しましたが、以前の記録は8時  
間で放送したという記録だったのです。それをテレビ東京さんとリクルートさ  
んは時間的にも6時間に短縮してさらにCMの種類も増やしての記録更新であり、  
申請書類にも「6時間」ということは明記しました。しかし、ギネス社側は8時  
間で達成した記録として扱います、とのこと。

まあ、「ルール違反だからこの申請は認定できません！」と言われなかったの  
だからいいのですが、どうして8時間じゃなきゃダメなの?と疑問に思いますよ  
ね。

理由はというと、8時間を平均的な一日の労働時間とみなし、それをギネス記  
録の時間計測の基準としているから、なんだそうです。

そしてこのメールでは、3~4週間のうちに最終確認ができ、再度連絡をする・  
・・と書かれてありました。

もう、ドキドキワクワクです。

と・・・ところがあああ。

5月28日にリクルートの担当の方からメールがありました。

「まだギネス社からの連絡がこない」とのこと。

3月31日からはおよそ2ヶ月が過ぎています。ギネス社に問い合わせや申請をし  
た場合、返答を得るには数ヶ月以上かかる場合がほとんどですので、その点か  
ら考えるとたいしたことでは内容にも思えますが、3~4週間で再度連絡すると  
前回のメールにあったことを考えると、やはり少し不安になります。

でもここはもうしばらく待ってみようということになりました。

そんなこんなで、やきもきしながらも7月1日にやっと、「認定されました！」  
とのご連絡をいただいたのです！！ばんざ〜い

少し待たされましたが、無事認定との結果が出て、とても嬉しく、また安心しました！

この認定の結果をぜひPRに活用していただければと思います。

また、一種のイベントとして毎年このような挑戦を行ったりしても面白いのではないかな、なんて思うのですが、どうでしょう??

さて、テレビ東京さんとリクルートさんの「一晩で最も多く流れたCM編」は今回で終了です。

テレビ東京さんのウェブサイトはこちら  
<http://www.tv-tokyo.co.jp/>

リクルートさんのリクナビのウェブサイトはこちら  
<http://www.rikunabi.com/>

世界記録申請コンサルティング部ウェブサイトでの記録のご紹介はこちら  
<http://www.sekaikiroku.com/get/recruit.htm>

次号からは、以前に予告していながら予定変更のため延期になっていた、日本人なら一度は遊んだことがある(?)あるものについてのギネス申請裏話をお届けしてまいります。お楽しみに！

#### ギネス申請 裏話 世界一の大凧編(第1回)

さて、今回からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、今回はプロジェクトゆう・はまきたさんによる「世界一の大凧」への挑戦をご紹介します

てまいります。

静岡県浜北市内の市民団体に組織された"プロジェクトゆう"と浜北市観光協会により実施された国体開催と浜北市の市制40周年を記念した事業のひとつとして2003年に行われたのが「世界一の大凧」への挑戦です。

その記念事業、"やらまい・あげまい・浜北"について、まずは少しご紹介したいと思います。

浜北市が市制40周年を迎え、国体も開催される記念すべき2003年に、浜北の伝統やゆかりあるもので、元気ある浜北を表現できる事業を、と前年の2002年11月から準備を開始されたそうです。

記念事業は、"やらまいの部"と"あげまいの部"の二部に分けられ、大凧への挑戦は"やらまいの部"として行われました。

イベントの内容は盛りだくさんで、大凧だけでなく、ざんざ節という、かつて仕事唄として唄われていた唄を復活させたり、遠州焼き（お好み焼きに似た食べ物だそうです）をふるまったり、踊りあり、花火ありの賑やかなものだったそうです。

遠州焼き？ 食べてみたーい！！ 花火？ うわー見てみたーい！！

と、内容を伺っていると、いろいろなことに興味を惹かれますが、やはり、最大のイベントはギネス記録への挑戦、そう、「大凧」ではないでしょうか？

まずは、「大凧」がどれくらいの規模だったのかが気になりますよね？

なんと！凧の尾の部分も含めた大きさは、横13.5m×縦59.45m。面積は741.14平方メートルでした！ 畳にすると約489畳敷きに相当する大きさとのこと。

と言われても、489畳というのが想像の範囲を超えています。

私の部屋は6畳・・・というところで思考回路は止まってしまいました。とにかく巨大！ということですね



その大凧、凧揚げの本番は2003年10月でしたが、もちろん凧作りはもっと前から始まっています。

プロジェクトゆうの皆さんが中心となって凧作りを進められましたが、他にもボランティア団体や市内の小中学生など、多くの方の協力のもと無事完成したそうです。

凧の本体には市章や浜北に古くから伝わる亀の絵が描かれ、尾の部分には寄せ書きがされました。本体の絵は市内の中学生によって描かれ、寄せ書きは市内の小学校と養護学校の生徒さんによって書かれたそうです。

そして、実際の凧揚げも多くの浜北市民の方々のご協力の下で行われました。なんとといっても巨大すぎる凧ですから、揚げるのにもたくさんの人の力を合わせないと無理ですよ。

当日は風の弱い日ではあったそうですが、大凧は無事に揚がり、23秒間空を舞ったそうです。ああ、その姿をこの目で見てみたかったです。

市制40周年を記念する事業で、市民の皆さんが協力し合いひとつのことを達成したことで、きっと市民の皆さんの浜北市を誇りに思う気持ちはさらに高まったことでしょうね！

こうして、ギネス記録を目指しての「大凧揚げ」は成功を収めたのですが、まだやらなければならないことが残っています。

ギネス記録申請のための書類を作成などをしなければなりません。そのあたりの裏話は次号のメルマガでご紹介します。お楽しみにお待ちくださいね！

#### ギネス申請 裏話 世界一の凧編（第2回）

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 世界一の凧編（第2回）」をお届けしてまいります。

今回は、プロジェクトゆう・はまきたさんの作った大凧の大きさや、その大凧の作成について、大凧揚げを行った"やらまい・あげまい・浜北"という事業についてご紹介しました。

前回までの内容をご覧になりたい方は、バックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040830.txt>

静岡県浜北市制 40 周年と国体開催を記念した事業のひとつとして行われたギネス記録挑戦の大凧揚げ。

先週もお伝えしたように、その凧揚げは見事成功を収めました

では、実際にギネス記録として申請するとなると、記録を証明するための書類などを準備しなくてはなりません。

プロジェクトゆう・はまきたさんから、私どもにサポートのご依頼をいただいたのは、大凧揚げに成功をした後のことでした。

今回の記録は、大きさに関することですから、その大きさをいかに正確に証明するかが重要です。

大きさに関することといっても、巨大なもの、小さなもの、複雑な形のもの、単純な形のもの・・・、といろいろありますが、そのケースに合わせてどのような計測方法をとればいいのか提案させていただきます。

今回のプロジェクトゆう・はまきたさんの場合は、依頼をいただいたのが、凧揚げも終了した後であり、凧もすでに解体したあとでした。

ここで、凧の大きさを正確に計測していなかったとなると、「大ピンチ！」ですが、プロジェクトゆう・はまきたさんの場合は、きちんと計測を行い、結果は書面に残しておられたので、問題はありませんでした。

ちなみに、「ヘロンの公式」というのを使って面積を求めたりするんだそうですが、生粋の文系の私にはさっぱり???（山下達郎さんの「ヘロン」という歌が頭の中でこだましておりました～）

今回の凧の制作にあたっては、凧の絵や寄せ書きの部分を中学生や小学生の生徒さんたちに書いてもらっているのですが、子供たちに書いてもらうということで、ギネス記録に挑戦ということ抜きにしても、大人になってからもずっと思い出に残り、自分たちの住むまちへの思いも強くなりそうですね。

実際に小学校の生徒さんたちが学校で寄せ書きを書いている写真など拝見したのですが、ワクワクするような、楽しそうな空気が伝わってきました。

さて、プロジェクトゆう・はまきたさんの「世界一の大凧編」は今回で終了です。

次回からは、円周率暗唱記録挑戦の裏話をお届けしてまいります。

その円周率暗唱記録に挑戦されるのは原口證さんという男性なのですが、実はその記録に挑戦するのがなんと、来たる9月25日(土)なんです！

6万8600桁まで暗唱することを目指しての挑戦です！

次号メルマガでは、とれたてほやほやの裏話をお届けしてまいりますよー。  
記録達成できるかどうか楽しみです！

どうぞお楽しみに～

ギネス申請 裏話 円周率暗誦編(第1回)

さて、今週からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、  
今回は個人の方によるギネス記録への挑戦！  
千葉県原口證さんによる「円周率暗誦」編です。

3.14159265358979323846264338327950288419716939937510582097494459230781  
64062862089986280348253421170679 8214808651328230664709384460955058223

上にずらずらと並んだ数字。  
皆様ご存知（のはず）の「円周率」です。

算数、数学は苦手な私でも知っております。  
でも、いったいいつごろ習ったのかすら忘れていきます。

もちろん上の数字で終わりではありません。

今の学校教育では、円周率といえば「3.14」と教えられるのでしょうか？  
（私は「3.14」と習いました）  
でも、ほんとうは、ず～っと続いている数字。

皆さんはどこまで覚えていましたか？  
（上の円周率は、140桁まで）

ギネス記録のなかには、  
「円周率を覚えて、何桁まで口に出していうことができるか」  
という記録があります。

「さんてんいちよんいちごくにろくご・・・」と、どこまで言えるか、  
という記録。

10桁？ 当メルマガの隊長・清水はこれくらいだそうです。  
50桁？ すごい  
100桁？ すごすぎる  
500桁？ コンピュータみたい

私は・・・「3.14」まで！

ある意味すがすがしい気持ちになります。

じつは、この「円周率暗誦」ですが、  
トンでもない人がトンでもない記録を続々と作っています。

ギネス記録として最新の記録は、

なんとっ！ 「42,195桁」だそうです。  
わかります？これ、マラソンと同じ数字ですね。

しかし！皆さん！  
そこでビックリするのは早いというものです。

自らの能力の限界に挑もうと、

先日、千葉県茂原市のボランティア活動中、  
原口證（あきら）さん（58歳）が、記録更新に挑戦しました。

この記録挑戦は、原口さんのご自宅のすぐ近く、  
茂原市東部台文化会館で緊張した雰囲気の中で行なわれました。

静かにピンとはった空気の中、  
原口さんが、「さんてんいちよん・・・」と暗誦をはじめます。

ときには、つまってしまうこともあります。  
確認の係の方がすかさず「ミス！」と指摘。  
そうすると”時間計測係”が、ストップウォッチで時間を図り始めます。

というのも、この記録挑戦は、ギネス社が定める公式ルールに基づいて行なう  
必要があり、そのルールのなかに、「数字と数字の間隔は、10分以内でなく  
てはならない」という項があるからです。

ほかにも、いくつか重要な注意点が合ったのですが、  
それらについても厳重にチェックを行い、  
原口さんが、完全にルールに基づいて記録挑戦ができるよう整えました。

その結果、

なんと

これまでの記録をはるかに上回る ”5,400桁” を達成しました。

朝9時ごろからはじまり、5,400桁に到達したのは午後10時。  
それまでの間、大変なドラマが繰り広げられました。  
原口さんの ”限界に挑戦” 。そして、それを支える仲間のドラマです。

さて次号では、記録挑戦を終えての原口さんのコメントや、  
記録挑戦にいたるまでの裏話をお届けしてまいります。

どうぞお楽しみにお待ちください。

すでに、新聞などでご存知の方もおられると思いますが、  
この原口さんの記録挑戦には、当社の代表清水が立会い、  
感動いっぱいでしたので、今号を含めて数回にわたり、  
原口さんの記録挑戦の様子をお伝えいたします。

ギネス申請 裏話 円周率暗誦編 (第2回)

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 円周率暗誦編（第2回）」をお届けしてまいります。

前は千葉県の原口證さんが円周率暗誦のギネス記録に挑戦、そして記録更新に成功！という速報をお届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20040927.txt>

42,195桁というこれまでの円周率暗誦のギネス記録の更新に挑戦を決意したのは、千葉県でボランティア活動中の原口證（あきら）さん（58歳）。

先月記録挑戦会を実施し、54,000桁！という桁数で見事記録を更新しました！

それでは今週は、原口さんが記録挑戦会を行うまでの裏話をお届けしてまいります。

2003年7月

当社へはじめての問合せをいただきました。

「円周率暗誦」の記録に挑戦したいが、公式なルールが知りたいとのこと。

すでにギネス記録として認定されている記録の更新を目指す場合、その種目独自のルールが定められている場合がほとんどです。

ということはつまり、ルールがなくては、記録挑戦を行なってもリスクが高いので、まずは、ルール問合せをしてみて、そこから考えることにしました。

2003年9月初め

ギネス社（イギリス）に手紙。

「円周率暗誦のギネス記録に挑戦したいので、ルールを教えてください」とい

う内容です。

待って待って待って待ちまくりました。そして・・・。

2004年2月

原口さんよりご連絡が。

「ギネス社から今のところ連絡がない。

それでも記録挑戦を行ないたい」・・・

ギネス社が規定するルールが想像もつかないくらい特殊であれば、  
ルールに沿えないというリスクはあるものの、  
原口さんの希望を優先して記録挑戦の準備を行なうことにしました。

2004年3月

かつて「円周率暗誦」ギネス記録をとった方に原口さん自身がコンタクト。  
ギネス社規定のルールなど、必要な情報が入りだしました。

2004年4月

記録挑戦の瞬間に必要なモノやコトは山ほどあります。  
立会ってもらえる人も探さなくてははいけません。

細かい準備にとりかかります。

2004年8月～9月

ようやく、記録挑戦に必要な準備がすべて完了。

日程も9月25日に決定。

せっかくの人生一度の一大イベント、マスメディアの方を招いて盛大にやろう  
と、マスコミへのプレスリリースも行ないました。

そして、ギネスから返答が無くてドキドキハラハラしたりしましたが、  
先月9月25日、自宅の近くの市民会館で、



朝9時から夜までかけて記録挑戦が行われました。

PITからは清水も応援に駆けつけました。

さて、その結果は・・・、ご存知のとおり、見事記録更新です！！  
その記録更新の中には、ほんっとうにたくさんのドラマが・・・！

その場に居合わせた当社清水の感動っぷりを皆さんに直接お見せしたいくらいですが、それはちょっと無理なので、次号メルマガで記録挑戦会のレポートをたっぷりお届けいたします。

どうぞお楽しみに

#### ギネス申請 裏話 円周率暗誦編（第3回）

前回は引き続き、「ギネス申請 裏話 円周率暗誦編（第3回）」をお届けしてまいります。

前回は千葉県原口證さんが円周率暗誦のギネス記録に挑戦するまでの裏話をお届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20041011.txt>

2004年9月25日（土）

朝9時頃、円周率暗誦の記録挑戦がスタート。

緊張した雰囲気漂います。

会場となる会議室には、原口さんと3名の記録確認係、そしてギネス社に対して”不正なく記録挑戦をしました”と伝える役割の証人が2名、その他数名。

3.14・・・・と、原口さんの声だけが続きます。

「円周率暗誦」は既にギネス記録として認定されていて、公式ルールが定められています。

公式ルールのなかには、以下のように、時間制限や言いなおしに関する規定があります。

- ・ 10分を超える中断は認められない
- ・ 言いなおしは3回まで「可」

3人の記録確認係は、あらかじめ正確な数字が書かれた紙を持っており、原口さんの暗誦にあわせてチェックしていきます。まちがえた時点で「ミス！」と3人揃ってすかさず指摘します。

そこですぐに言いなおし、OKだったらそのまま続けますが、考え込んだら、タイムキーパーがストップウォッチを厳しくチェックします。それは、10分を超える中断が認められないからなのです！

スタートから順調に進み、3時間がたとうとする13:00前には、2万ケタを達成これで現在のギネス記録42,195ケタの約半分です。

そこで、改めて気を引き締めるためか、原口さんがスタッフ・立会人全員を集めました。

「これまでのところで、気になるところはないか？」

意見やアドバイスを前向きに受け止め、少しの休憩の後継続することに。時間は13:00ごろ。

ところが、それからまもない13:15ごろ。ある箇所で記録チェック係から「ミス！」と指摘が。そして言いなおしても「ミス！」どうやら、2ケタを飛ばしてしまい、”飛ばしている”ことに気づいていないようです。

時計は進み、タイムキーパーがソワソワしはじめます。  
10分に近くなった証拠です。

原口さんは、頭をかかえたり、目をつぶったり・・・

見学者も、みんなそれぞれの面持ち。

そして  
タイムキーパーのひとつこと  
「10分です」

「申し訳ない」と、一人一人目があうごとに伝える原口さん。

そのとき  
「会場借りてる時間は夜9時までなんだから、今からもう一度始めれば、  
42,195ケタは行くんじゃない？」と、会場内から声が。

朝の3時間で2万ケタということは、  
6時間あれば4万ケタ。残り時間で、現記録更新は十分可能。

それに気づいた原口さんは、みるみる元気になり  
「よし！もう一回やってみるかー！」

会場内も、にわかに活気が戻ってきました。

しばらくの休憩後、再度イチからチャレンジ。

原口さんが入室した後は、すかさず記録チェック係が、原口さんの服装を  
調べる。不正がないかどうかを確認するためです。

13:30分、

あらたに「3.14・・・」が始まった。

失敗がプラスに働き、とても気持ちが軽くなったのか、  
快調に数字を読み上げるそのスピードは速く、  
記録チェック係りが追いつくのがやっとなほど。

順調に進み、再スタート開始から約6時間40分後の20:10頃、  
現在の記録の42,195ケタを達成。

これでギネス記録は無事更新。  
関係者・知人など参加者から拍手が沸きおこりました。

その後は自己記録をどこまで出せるか・・・の戦いです。  
数字の暗誦は順調に進んでいきます。  
スピードも、速くなることはあっても、遅くなることは殆どありません。  
快調そのものです！

ところが、会場を借りているのは21:00まで。  
スタッフが頑張って会場の人にかけあい、  
なんとか22:00まで借りることはできたが、  
それ以上は無理そうです。

会場の時間的な理由で途中で止めることは心ぐるしいが、  
このまま順調に進むと、22:00までノンストップでいきそうな雰囲気です。

22:00になっても原口さんの暗誦はとまりません。  
5万ケタ(！)を過ぎている。

キリのよい54,000ケタを暗誦し終えたところで、  
会場の借り時間の都合で、終了することに・・・。

原口さんは、「応援して下さった方々に報いる事が出来てホットした、と言う

思いが先立ちます」と喜びの声をあげました。

原口さんの、更なる可能性を秘めたまま、  
この記録挑戦会は終了しました。

以下は"おまけ"ですが、ギネス記録を PR に使えないか・・・とお考えの方には  
興味深い内容だと思います。ぜひ読んでみてくださいね！！

記録挑戦の1ヶ月ほど前に、”「円周率6万桁暗誦」 千葉県男性 堂々ギネス  
記録に挑む！」というプレスリリースを流していました。

期待したほど反応はありませんでしたが、記録挑戦会の数日前に、千葉の民報  
からの問合せが。

その民報が記録挑戦当日、「円周率ギネス記録挑戦」のことを大きく掲載した  
のがきっかけとなり、当日、共同通信社の取材がありました。

またまたそれが引き金となり、翌日の26日には各誌で報道されることに。  
そして、後から聞いた話では、取材とインタビューが相次いだそうです。

27日(月)には、朝のバラエティニュースで突然原口さんを見かけたり、  
すごい展開です。

そして、その勢いはまだまだ続き、  
テレビ・新聞・ラジオを総なめです。  
トータルすると、20以上のメディアで紹介されたのではないかと思います。

ある記者の方も「ギネスってわかりやすいから、マスコミ受けするネタだ」  
と聞いていましたがそのとおりの結果となりました。

今回の原口さんの場合はもともとが PR 目的ではありませんでしたから、これは ” 人生の良い記念のひとつ ” ということになるかと思いますが、

この PR 性、企業や自治体の場合にはもっと活用する価値がありそうです。

さて、原口證さんの「円周率暗誦編」は今回で終了です。  
次回からは、「ブーブー！」に関する記録についての裏話をお届けしてまいります。  
どうぞお楽しみに！

### ギネス申請 裏話 ブーブークッション編（第1回）

さて、今週からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、  
今回は滋賀県の草津市制 50 周年を記念して行われたギネス記録挑戦！

想像するだけで楽しい気分になる（？）

「ブーブークッション」編です

この記録挑戦、去る 10 月 17 日に行われたのですが、  
その直前に発行された当メルマガでもお知らせをしていました。

このメルマガを読んで記録挑戦に参加してみた！

という方はいらっしゃらないかしら??

もしもいらっしゃったら感想などと共にご報告いただけたら嬉しいです。

（こちらまで！ [info@sekaikiroku.com](mailto:info@sekaikiroku.com)）

ではさっそく裏話を始めたいと思いますが、

皆さんおそらくブーブークッションがどういうものかはお存知ですよ？

見た目は風船のような感じで、空気を入れると丸くて小さめの座布団のようになります。それをイスの上にそっと置いておきます。

そして知らずにそこに座ってしまうと・・・、「ブー！！」とオナラそっくりの音が鳴ってしまうのです。何も知らずに座ってしまった人は、驚くやら恥ずかしがるやら・・・。

ブーブークッションでのイタズラにひっかかった人、  
あるいはイタズラをした人、  
このメルマガの読者の方の中にもたくさんいらっしゃるのでは？

(ブーブークッションって何？さっぱりわからない！という方は、  
楽天市場などのショッピングサイトで「ブーブークッション」を  
検索してみると、写真が見られると思います)

さてさて、そのブーブークッションですが、  
それを使ったギネス記録というのが以前からありました。

「もっとも多くの方がいっせいにブーブークッションに座った記録」です。

滋賀県の草津市制 50 周年記念事業実行委員会では、市制 50 周年を記念して  
草津市民の皆さんが一致団結して行えるようなイベントを  
「草津市民の日(2004 年は 10 月 17 日)」に行おうと検討していましたが、  
ギネス記録に挑戦するというのはどうだろうか、ということになり、  
すでにギネス記録に認定されているブーブークッションの記録に挑戦しよう！  
ということになったそうです。

関係者の方から初めて当社へお問合せをいただいたのが 2004 年 6 月、  
イベント実施までまだ十分な期間のある時期でした。

最新のブーブークッションのギネス記録はいかほどか？  
ギネス社による記録挑戦のルールはあるのか？  
などなど、記録挑戦に当たって気になることがあります。  
まずは、その疑問を解消するためにギネス社へ問合せを行うことに。

問合せは、ギネス社のウェブサイトにある問合わせ用の送信フォームから行い  
ます。送信フォームからはお客様に直接送信していただくので、当社では問合  
せ内容を英語に翻訳するところまで行います。

今回の場合も、実行委員会の方に直接送信をしていただきました。  
その後、ギネス社から記録挑戦についてのルールと最新の記録についてのメールがありました。

最新の記録はというと、2004年3月にアメリカで達成された3614名とのこと。

ちなみにギネスブックで調べてみると、2004年版では、その記録の人数は2002年1月に達成された982名、そして2005年版では、2004年1月に達成された1504名という記録が掲載されています。

2005年版が最新のギネスブックですから、そこに掲載されている記録が最新のものであり、それを更新できれば大丈夫！と思いついてしまうかもしれませんが、今回のように最新のギネスブックの内容からさらに記録更新されている場合もあるんですね。

それにしても「もっとも多くの人がいっせいにブーブックッションに座った記録」は、大人気ですね。

話題にもなりやすいでしょうし、挑戦するのに特別な練習を必要としないというのが、大きな理由かもしれませんね！

ルールも送られてきましたから、次は記録挑戦に向けて本格的な準備の開始ですが、準備に関する裏話は、次号のメルマガでお届けいたします。

どうぞお楽しみにおまちください。

#### ギネス申請 裏話 ブーブックッション編（第2回）

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 ブーブックッション編（第2回）」をお届けしてまいります。

今回は滋賀県の草津市制50周年を記念して行われた「もっとも多くの人がいっせいにブーブックッションに座った記録」挑戦に向けて本格的な準備が始まるまでの裏話をお届けしました。



詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20041108.txt>

さて、2004年7月中旬、ギネス記録挑戦に向けて本格的準備が始まりました。

前回のメルマガでお伝えしましたが、ギネス社への問合せ後、ブーブークッションに関するルールが草津市制50周年記念事業実行委員会に届きました。

まずは、そのルールを解読しなければなりません。

英語で書かれたルールを日本語に訳し、それで「はい了解！」ということになればいいのですが、そうは問屋が卸さなかつたりするのです。

ややこしい表現があったりもしますし、いくつか解釈が出来るような表現が使われていたりすることもあります。

そのため、ルールをまずはしっかりと読み込んで、その後はっきりとしない点についてはギネス社に再度問い合わせて、「このような意味ですか？」と確認をする。

記録挑戦の実施日までの日数はもちろん限られていますから、このやり取りをすぐにも行う必要があります。

というのも、ギネス社が忙しかつたりすると、返答をもらうまでに時間がかかる可能性があるからです。

ギネス社からの返答をもらわないことには準備を開始できない事項、ということもありますから、企画の進行が止まってしまう恐れもあるのです。

今回のブーブークッションの場合は、無事ギネス社から返答を得ることが出来ましたので、さらに具体的な準備を進めていきます。

目標としている人数分のブーブークッションを手配することはもちろん、ブー と鳴らすときに座るということは人数分のイスも必要となります。

それらの準備を行うと同時に、当日にどのような人員が何名必要になるかを検討し、人員の手配も行わなければなりません。

例えば、来場者の人数を数えるための人員、記録達成の事実を第三者的に証明してくれる人などなど。

また、最終的にギネス社に申請する際に必要となる書類について、どのようなものをどのような形で準備するか・・・など、次から次へとやることは尽きません。

さらに今回の場合、記録挑戦への参加が事前申込制ではなく、草津市の市制50周年のイベント「草津市民の日」の会場にいる人に当日その場で集まってもらって・・・という企画です。

そのため、当日になるまでいったい何名くらい集まるのか予測の出来ない部分があります。

「ギネスに挑戦！」といううたい文句は人の好奇心をそそりますから、全く集まらないということはないでしょうが、記録更新の人数に足りなかったら困ります。

そこで、「ギネス記録」というキーワードにはマスコミの方も興味を持ってくださるので、プレスリリースを行いましょ！ということになりました。当社でも、いつ、どういうタイミングで行うのが効果的かなどということについて提案をさせていただき、計画的にプレスリリースを行っていくことにしました。

そのプレスリリースは効果を発揮したのでしょうか？！  
さらに、当日スムーズに人は集まったのだろうか？！

そのあたりの裏話は、次号のメルマガでお届けしてまいります。  
どうぞどうぞお楽しみに

ギネス申請 裏話 ブーブークッション編（第3回）

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 ブーブークッション編（第3回）」を

お届けしてまいります。

滋賀県の草津市制 50 周年を記念して行われた「もっとも多くの人がいっせいにブーブクッションに座った記録」挑戦に向けての準備そして広報に関する裏話をお届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20041122.txt>

前回のメルマガで少しだけお話ししましたが、このブーブクッションのギネス記録挑戦への参加は事前申込制ではなかったため、当日人が集まらず挑戦は失敗、なんてことにならないように、挑戦日前から積極的かつ計画的に PR を行いました。

この PR がとても効果的でしたので、どのように PR を行ったのか、以下にその流れを掲載しますので、ぜひ参考にいただければと思います。

#### 9 月下旬

ギネス記録挑戦イベント開催のお知らせのプレスリリースを配信。  
その後、草津市制 50 周年記念事業実行委員会にいくつか問合せがあったそう。

今回のプレスリリースは、PR 効果を狙ったものでした。  
この様子だと、当日の取材も期待できそうです。

#### 10 月上旬

再度プレスリリースを配信。  
実施日が迫っていますので、「あと 10 日！」のような内容でした。

#### 10 月上旬

当社清水がたまたまこの時期に KBS ラジオ（京都のラジオ局です）の「～笑顔が見える！～村上祐子のラジオかまい隊」という番組に出演する機会があり、ラジオ局の方に「こんな面白いイベントがあるんですよー。担当の方を番組に呼んでみたらどうですか？」と提案したところ、ラジオ局の方も興味

を持った様子。

そして、ブーブクッションの挑戦企画に携わる4名の方々が、その番組にゲストとして参加。大々的にPRすることが出来ました！

上記のプレスリリース、ラジオに加えて、当社が発行するメルマガなどでも紹介させていただきました。

結果的に当日は、10社以上来てるかな？と思えるほどたくさんのテレビ局の方が取材に来ていました。事前PRの効果が得られ、お手伝いさせていただいた側の私たちにとってもとても嬉しいことでした。

翌日のテレビではもちろんこのイベントのことが紹介され、新聞でも各誌で紹介されていました。インターネットでも「ブーブー」という文字がたくさん見られました。

さて、肝心の記録挑戦ですが、当日は当社清水も参加させていただきました。この記録挑戦は草津市制50周年を記念した「草津市民の日」というイベントのひとつとして行われたのですが、会場ではステージや出店などで大にぎわいです。

スタート予定時間を少し過ぎたころ、会場がほぼ埋まり、ついに挑戦！全員でリハーサルを行った後、カウントダウンにあわせて、会場に集まった約3795名の「ブーブー」が秋の空に響き渡りました。

……実は、目標としていた人数にちょっと足りなかったりもして、司会者が近所の方に「来てくださーい」と声を張り上げる場面も。

ですが、最終的には関係者や市民の皆さんの力を合わせて、無事記録挑戦に成功することが出来ました。ばんざーい！！

地域活性化イベントの目的は、

- ・市民とのコミュニケーション
- ・全国の人に知ってもらう

という大きな二つが一般的に考えられると思いますが、草津市ではギネス申請を用いて、上手くこの目的を果たすことができました。

さてさて、ギネス社への申請はこれからです。  
どのような結果が出るのか、楽しみです

皆さんによいお知らせができることを願いつつ、  
「ブーブクッション編」は今回で終了となります。

次号からは、とーってもきれいなあるものに関する裏話をお届けします。  
お楽しみに！！

#### ギネス申請 裏話 花のタペストリー編（第1回）

さて、今週からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、  
今回からは京都府宇治市の宇治市植物公園にある「花のタペストリー」の  
ギネス記録申請についてお届けしてまいります！！

まずは、記録の内容からご紹介いたしましょう。

草花を植えたプランターを3,675個使用し、立体的に作られた  
巨大な花のタペストリーです。

プランターを並べた雑壇の大きさは、横62.5m、縦22.2m、  
高さ13.5m、奥行き17.7mで、  
これを「最大の花のタペストリー」として、ギネス記録に申請しました。

財団法人宇治市公園公社が運営する宇治市植物公園から初めてご相談を

いただいたのは、今年の夏もまさかり、猛暑と戦っていた頃のことでした。

お話によると植物公園には、大きな花の絵があるとのこと。  
詳しく伺ってみると、花の絵といっても地面に直接花を植えて  
絵になるように配置するのではなく、  
草花を植えたプランターを勾配のついた雑壇に並べていくことで、  
平面的ではなく立体的な花の絵になっています。

宇治市植物公園では、季節ごとに絵柄を変えてタペストリーを  
作っているそうで、  
このタペストリーを「最大の花のタペストリー」として申請したいと  
ご相談でした。

世界記録申請コンサルティング部のある京都市からもすぐに行ける宇治市に  
あることで何気に親近感も覚えつつ、  
長年のギネス記録申請コンサルティングの経験から、  
「これはギネスっぽいなぁ〜」と直感が働き、ウキウキワクワクする私たち。

(もちろん、無責任に「認定されますよ！」なんて事をお客様には  
申し上げられませんから、心の中で思っているだけです)

そして、正式に申請のお手伝いをさせていただくことになりました。

このような施設の場合、集客のイベントを行うことが必須であり、  
かつ大変なことだと思いますが、ギネス申請という話題性を作れば、  
人目も引きやすいですし、メディアへの露出もしやすくなります。

さてさて、これからが申請の準備などなど本番です。  
そのあたりのお話は次回のメルマガでお届けするとして、  
今回はその宇治市植物公園の花のタペストリーについてご紹介いたします！

ギネス記録申請の際には花の絵の部分に焦点を当て  
「最大の花のタペストリー」として申請を行ったのですが、  
実際の名称はその花の絵の前に位置する池や噴水も含めて

「花と水のタペストリー」といいます。

そのときの絵柄のデザインにあわせ色とりどりの草花を植えたプランターを配置して、一つの絵柄を完成させます。

絵柄は宇治市にちなんで源氏物語を題材にしたものや、時の話題などをモチーフにしています。

申請の準備をしていたころは、「アテネオリンピック」を題材にしたものでした。2004年末の現在は来る2005年の干支である酉がモチーフになっているようです。

宇治市植物園のウェブサイトで紹介されているので、ぜひご覧になってみてください。

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~ucbpark/migoro.html>

「これまでのタペストリー」というところをクリックすればこれまでに制作されたタペストリーを見る事ができます！  
ずらっと並んでいるとなかなか壮観ですね！

また、世界記録申請コンサルティング部のウェブサイトおよびブログ（「キャッチアップ！ギネス世界記録」）でもご紹介させていただいております。こちらもどうぞご覧くださいませ！！

<http://www.sekaikiroku.com/now/041013.htm>

<http://blog.sekaikiroku.com/archives/8553514.html>

では、次号メルマガでは、申請の準備などについてご紹介していきます。どうぞお楽しみにお待ちくださいね

ギネス申請 裏話 花のタペストリー編（第2回）

前回に引き続き、「ギネス申請 裏話 花のタペストリー編（第2回）」をお届けしてまいります。

前は京都府宇治市の宇治市植物公園の「花と水のタペストリー」を「最大の花のタペストリー」としてギネス記録に申請することになったという内容でお届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20041220.txt>

「最大の花のタペストリー」として申請することになったのは、草花を植えたプランターを3,675個使用し、立体的に作られた巨大な花のタペストリーです。

さて、今回のメルマガでは、申請の準備について詳しくお届けしてまいります。

まず、この記録は『大きさ』に関する記録です。

『大きさ』に関する記録の場合、その大きさを正確に、そして信用できる形でギネス社に提示しなければなりません。

記録の内容によっては資格を持った測量士による計測が必要となる場合があります。

もちろんお客様によってはすでに大きさを示した資料をお持ちの場合もありますし、逆にお持ちでない場合もあります。

さらにお持ちの場合でも、その資料が客観的に見て信用に足るかどうか、ということも考慮しなければなりません。



ですので、状況によって測量士による計測を  
改めて行ってもらうかどうかの判断を行います。

今回の「花のタペストリー」の場合はというと・・・  
すでにサイズを示した図面をお持ちでした。

その図面を一度見させていただいたところ、  
十分信用に値する資料でしたので、  
再度計測は行わず、その図面を資料として提出することに決定。

もちろん、提出に必要な資料は図面だけではありません。  
記録の内容を詳細に説明した資料、花のタペストリーの写真など、  
宇治市植物公園の花のタペストリーの特徴が上手く伝わるように、  
資料を作成していきます。

そして、約3ヵ月後、資料の準備もすべて整い、  
ギネス社へと資料を送る事ができました！

当社の清水が実際に宇治市植物公園にお邪魔して  
実物を見てきているのですが、  
「ホントに美しかった～」と感動しておりました。

この申請を通して、  
さらに多くの人に花のタペストリーの存在を知ってもらい、  
そして、実際に見に来てもらえるように、  
プロモーションに活用してもらえればいいですね。

ちなみに、当社清水はときどき KBS 京都ラジオの  
「村上祐子のラジオかまい隊！」という番組に出演し、  
ギネス記録についてのお話をさせていただいているのですが、  
今回の宇治市植物公園の記録申請は、地元のニュースですので、  
ラジオでもご紹介させていただきました。

このラジオを聴いて、宇治市植物公園に足を運んでくださった方が  
いるとしたら、こんな嬉しいことはないですね。

このメルマガをお読みの皆さんもぜひ一度宇治植物公園に  
「花のタペストリー」を見に行かれてはいかがでしょうか？

上にも書いたように当社の清水は一度実物を見ているんですが、  
実は、私はまだ実物を見たことがなかったりするのです・・・。  
行こう行こうと思っているうちに日々過ぎていくものですね。  
「花のタペストリー」以外にもいろいろな植物を楽しめるようですし、  
今年こそは一度伺いたいと思っています。 近所ですしね！

宇治市植物園のウェブサイト

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~ucbpark/migoro.html>

「これまでのタペストリー」というところをクリックすればこれまでに  
制作されたタペストリーを見る事ができます！  
ずらっと並んでいるとなかなか壮観ですね！

世界記録申請コンサルティング部のウェブサイトおよび  
ブログ（「キャッチアップ！ギネス世界記録」）でも  
ご紹介させていただいております。こちらもどうぞご覧くださいませ！！

<http://www.sekaikiroku.com/now/041013.htm>

<http://blog.sekaikiroku.com/archives/8553514.html>

さて、今回で「花のタペストリー編」は終了です！  
次回からは、記録挑戦がマスコミでも話題になっていたあの記録の裏話  
をお届けする予定です。

何の記録かな～と予想しつつ、楽しみにお待ちくださいませ。

ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れたCM編（第1回）

さて、今週からまた新しく始まりますギネス申請 裏話、  
今回からはNTT 西日本 兵庫支店による「一晩で最も多く流れたCM」の  
ギネス記録挑戦についてお届けしてまいります！！

昨年、2004年12月10日に記録挑戦が行われたこの記録、  
初めて記録挑戦についてのご相談をいただいたのは、  
昨年の秋のことでした。

「一晩で最も多く流れたCM」については、2004年1月に、  
株式会社リクルートと株式会社テレビ東京が、「リクナビNEXT」という  
リクルートのウェブサイトのCMを21種類放映するという記録を達成し、  
2004年半ばに新記録としてギネスから認定を受けていました。

・・・この記録についてはこちらでご紹介しています！

<http://www.sekaikiroku.com/get/recruit.htm>

その記録更新に挑戦しよう！ということで、  
今回はNTT 西日本のブロードバンド商品についてのCM、24種類の  
放映を目指すことになりました。

・・・「NTT 西日本 兵庫支店」のウェブサイトはこちら

<http://www.ntt-west.co.jp/hyogo/>

今回の記録挑戦の主演となる24種類のCM、  
すべてがカラフルなイラストで制作されていて、とても楽しそうなCMです。

・・・CMの絵コンテはこちらでちらりとお覧いただけます

<http://blog.sekaikiroku.com/archives/10742602.html>

これらのCMが放映されたのは兵庫県のサンテレビ。  
サンテレビの映る地域の方の中にはCMをご覧になった方が  
いらっしゃるかもしれませんね。

私の自宅のテレビでは、サンテレビが映らないので実際の放映を見ることはできなかったのが残念です。

\* . . . . . \* . . . . . \*

では、「一晩で最も多く流れたCM」のギネス記録挑戦までの流れをご紹介します！

上記の通り、この記録はすでに存在しているギネス記録を更新するタイプの挑戦です。

「この記録用のルールが設定されているかもしれない」ということと「もしかしたらリクルートとテレビ東京が達成した記録を上回る記録が生まれているかもしれない」ということの確認をし、最新情報を手に入れるために、イギリスのギネス社に問い合わせをしました。

ルールや最新の記録は、準備の早めの段階で入手しておかないと、最終的な決定ができずに準備が滞ってしまいかねません。そこで、なにはともあれ問い合わせ！です。

それも、確実に！早く！返答を得たいので、ギネス社が行っている有料のサービスを利用して問い合わせを行いました。

これは、「料金を支払えば、すぐに返事をしますよ」というものです。通常の問い合わせの場合は、返答を得るまでに少なくとも数週間はかかってしまいますので、より確実な方法を選びました。

そして、数日後にギネス社からの返答がありました。実は、返答が少し遅れてハラハラしたり、なんてこともあったのですが、無事返答を得ることができました。

その返答によると、最新の記録はリクルートとテレビ東京による記録のまま、まだ、更新されていないとのこと。  
同時に記録挑戦に関するルールも送られてきました。

このルールに従う形で、記録挑戦に関わるさまざまなことを決定し、準備を進めていきます。

それとともに、申請の際に記録をいかに魅力的にギネス社にみせていくか、についても、検討を始めます。

まだ、記録挑戦も行っていない段階ではありますが、記録達成後できる限り早く申請資料を準備できるよう、前倒しで準備をしておきます。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そうこうしている間に、記録挑戦日は、すぐ目の前に迫ってきていました！

次号メルマガでは、記録挑戦の前日からの様子をご紹介します。  
どうぞお楽しみにお待ちくださいね

#### ギネス申請 裏話 一晩で最も多く流れたCM編（第2回）

前回に引き続き、「一晩で最も多く流れたCM編（第2回）」をお届けしてまいります。

前回は記録の内容や事前に問い合わせを行ったときの様子などを届けしました。

詳しくはバックナンバーでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050117.txt>

NTT 西日本 兵庫支店による「一晩で最も多く流れたCM」のギネス記録への挑戦、今回は記録挑戦直前の様子からお届けしてまいります。

記録挑戦日は2004年12月10日（金）。

その前日の12月9日に、ギネス記録挑戦を告知するプレスリリースを行いました。

私どもがサポートさせていただくお客様のほとんどが、何らかのプロモーションを目的とし、ギネス記録申請を行っています。そのため、私どもでも申請を行うためのサポートだけでなく、プロモーションに関するサポートについても最大限のことができるよう努めています。

今回も、メディアの方から関心を持ってもらえるよう、あーでもない、こーでもないと内容を検討し、プレスリリースを行いました。

そして、嬉しいことにその成果はすぐにあらわれました！！  
プレスリリース当日からメールや電話で多くの記者の方からの問い合わせ！！  
新聞・雑誌など、かなり有名な媒体から問い合わせがあり、  
かなりの手ごたえです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そしてそして、迎えた記録挑戦当日、2004年12月10日。

兵庫県のテレビ局「サンテレビ」にて、13時～18時にわたり、NTT西日本のブロードバンド商品についての24タイプのCMを放映。

(CM はこんな感じ <http://blog.sekaikiroku.com/archives/10742602.html> )

この結果は、リクルートとテレビ東京による「一晩で最も多く流れたCM」の最新記録を塗り替えたということになります。

ギネス社の審査でルール違反は無し、と判断されれば、今回の記録は間違いなく新記録として認定されるだろうと思います。

\* . . . . . \* . . . . . \*

記録挑戦直後、挑戦告知のリリースから間もないのですが、「挑戦します！」というお知らせをしているので、新記録を達成しましたという報告のため、再度プレスリリースを行いました。

その結果、12月13日(月)発行の日刊スポーツ新聞にギネス記録挑戦に関する記事が掲載されました。

かなり大きな記事で載せていただきました。

(記者の方によると、スポーツ新聞には、ギネス記録ネタはピッタリなんだそうです)

記録挑戦も無事終わり、今後ギネス申請の準備を整え、ギネス社に申請資料を送ることになります。結果が出るまでにはしばらく時間がかかると思いますが、結果を聞くのが楽しみです。

「NTT 西日本 兵庫支店」のウェブサイトはこちら

<http://www.ntt-west.co.jp/hyogo/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

ちなみに、今回の挑戦では5時間で24タイプのCMを放映しましたが、ギネス記録としては、5時間ではなく8時間で放映した記録として

扱われます。

どうやら、ギネス社の規定で「時間で～」というタイプの記録に関しては、基準となる時間が定められているようで、その定められた時間に合わせられてしまうようです。

さて、今回で「一晩で最も多く流れたCM編」は終了です！

この記録はこれから申請を行いますが、良い結果が得られるといいですね。良いお知らせが届いたらもちろん皆さんにもお知らせしますね

そして次号はなんとこのメルマガが50号を迎えることとなります！

そこで、次号のこのコーナーはいつもとちょっと違ったスペシャルバージョンでお届けします。

どうぞ楽しみにお待ちくださいませ！

回~~~~~

ギネス申請 裏話  
こけし三姉妹編（第1回）

~~~~~回

ここ数回、「特別編」と題して、ギネス記録の中からピックアップした世界記録をご紹介します。

今回からは、またいつもの「ギネス申請 裏話」に戻りまして、私どもがサポートさせていただいたギネス記録申請にまつわる楽しいお話をお届けしてまいります。

先週までの特別編など、これまでのバックナンバーはこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/>

さて、今回から始まりますのが「こけし三姉妹編」。

「こけし」は皆さんどういうものかご存知かとは思いますが、



「三姉妹」???

私たちも最初にお客様からお問合せをいただいたとき、

「三姉妹？ それって何？」と興味津々で、妙に盛り上がったのです。

皆さんも興味津々ですか？

では、さっそく始めてまいりましょう

\* . . . . . \* . . . . . \*

ある日、ご相談をいただきました。

福島県にある土湯温泉観光協会の方からでした。

「世界一大きなこけし三姉妹」をギネス記録に申請したいのだが・・・  
とのこと。

巨大なこけし、というだけでなく、それが「三姉妹」なんです！  
何度もしつこいようですが、興味わきますよね？

さて、巨大というからにはその大きさはいかほどでしょうか。

こけしその 1==> 高さ 3.01m、重さ 510kg

こけしその 2==> 高さ 3.03m、重さ 550kg

こけしその 3==> 高さ 3.05m、重さ 530kg

私が今いる部屋の天井よりも確実に高いです。

重さは 500kg 超えています。三姉妹ともに！

ぼけーっと見上げていたらきっと首が痛くなりますね。

これほど大きなこけしを皆さんご覧になったことはありますか？  
それも三姉妹！

このこけし、毎年4月に土湯温泉で行われている「土湯こけしまつり」にて、  
昨年披露されました。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

まずは、「こけし三姉妹」誕生の地である  
福島県の土湯温泉について少しご紹介します。

土湯温泉はその名が示すとおり、東北地方の温泉郷です。  
国立公園内に位置し、自然に恵まれた風光明媚な湯治場として  
古くから知られており、豊富な湯量と10種類以上の泉質が自慢だそうです。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

もちろん、温泉だけではありません。  
東北地方にはこけしの産地が点在しているそうですが、  
その中のひとつとしても有名です。  
東北地方でこけしづくりが始まったのは約300年前とのこと。

こけしって、知っているようで実はよく知らないもののひとつでは  
ないでしょうか？

「こけしについて説明して」と言われたら、きっと私には出来ません。

同じような方、きっと多いのではないかと思います。

こけしとは、東北地方特産の郷土玩具のひとつ。

乾燥させたカエデやサクラの木をロクロという器具で円筒状に削って  
胴を作り、その上に丸い頭をつけて、女の子の顔を描き、  
胴には赤、青、黄などで彩色した木製の人形がこけし。

土湯のこけしの特徴は比較的頭が小さく、胴も細めで女性的なことで、  
クジラ目にたれ鼻、おちょぼ口が明るい表情をつくっています。

また、頭が胴にはめ込み式になっているので、  
首を回すとキイキイと愛らしく鳴くんだそうで、  
それが最大の特徴とのこと。  
ちょっと「キイキイ」いうのを聞いてみたいですね。

現在、土湯には「こけし工人」が十数名いらっしやり、  
こけしづくりの伝統を絶やさないようにとがんばっておられます。

土湯温泉郷は、こけし無くしては語れないほど長く、  
こけしと文化や歴史を共にしてきたんですね。  
柔和で優しく温かい表情の土湯のこけし。  
こけしには「土湯の歴史と風土と人のこころ」が  
込められているとのこと。

こけしについてほとんど何も知らなかった私ですが、  
このようなお話を聞いているとあたたかい気持ちになってきます。  
伝統を継承していくには、きっと大変なこともたくさんあるだろうと  
と思いますが、こけしづくりの伝統がこれから先もずっと  
受け継がれていくといいですね。



~~~~~回

前回の「こけし三姉妹編（第1回）」はお楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050328.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \*

第1回では、「こけし三姉妹編」の舞台となる福島県土湯温泉のこと、そして特産のこけしについてお届けいたしました。

さすが特産なだけありまして、毎年こけしのお祭りが開催されているんです。「土湯こけしまつり」というお祭りで、昨年（2004年）で30回目の開催だったそうです。

土湯温泉に春の訪れを告げるイベントとして毎年4月に開催されているこのお祭り、こけしの製作実演、絵付けコンテストなど、こけしに親しめそうな、そして楽しめそうなイベントが満載です。

全国各地に「こけし愛好家」がいらっしゃるそうで、全国津々浦々からお祭りに参加する方がいらっしゃるそうです。

「こけし愛好家」という言葉を聞くのは初めて、そして「こけしまつり」なるものの存在を知るのも初めてという私ですが、なんだか楽しそうなお祭りです。

そして、昨年（2004年）の「こけしまつり」は、なんと！  
第30回目という記念すべき回だったのです。

その第30回を記念して制作されたのが「巨大こけし三姉妹！」  
完成した三姉妹は「こけしまつり」にてお披露目されました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

では、その「巨大こけし三姉妹」についてご説明いたしましょう！

土湯温泉観光協会ではこの「こけし三姉妹」を  
「世界一大きなこけし三姉妹」としてギネス記録に申請を行います。

これら3体のこけしたちは、2004年4月に開催された  
「第30回土湯こけしまつり」に間に合うよう、  
土湯伝統こけし工人組合の工人たちによって3ヶ月かけて制作されました。

通常のこけしの大きさは、高さ24～45cmくらい、とのことなんですが、  
この三姉妹、通常とはまったく比べものにならないくらいの巨大さです。

こけしその1==> 高さ3.01m、重さ510kg  
こけしその2==> 高さ3.03m、重さ550kg  
こけしその3==> 高さ3.05m、重さ530kg

どうです、想像することすら難しい大きさではありませんか？

3体それぞれの大きさが微妙に違っているのは、

すべて手作りだからだそうです。

「こけしまつり」でお披露目された後は、  
土湯の道の駅や旅館などに1体ずつ分かれて展示されているそうです。

この「こけし三姉妹」のお披露目は、「巨大三姉妹お目見え！」として  
その写真とともに新聞の紙面を飾りました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ところで、余談かもしれませんが・・・、  
当メルマガ「世界記録探検隊」隊長の清水が  
このこけし三姉妹には名前はないのかな？との疑問を持っておりまして、  
どうやら本人で名前を考えてみたようです。

土子  
土美  
土雄

土湯温泉から「土」という字を取ったというのはよ～くわかるのですが、  
なぜ最後に「土雄」なのか。「三姉妹」のはずなのに・・・。

どなたか清水隊長を問い詰めてはいただけませんか。  
私にはとてもそんなこと・・・。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、余談は忘れていただきまして、この「こけし三姉妹」、  
土湯温泉に行かれた際にはぜひご覧になってみてはいかがでしょうか。

私は、ギネス記録申請用の資料の準備でこけしの写真など  
たくさん見る機会が得られたのですが、いくつも見ているうちに、  
「かわいい・・・」と思うようになりました。

京都からは遠いこともあり、なかなか行くことも出来ませんが、  
私もいつか機会があれば、この目で見てみたい！

今年の「土湯こけしまつり」は4月16日(土)・17日(日)の開催です。  
近郊にお住まいの方はぜひお出かけになってみては？  
もちろん近郊でなくてもご興味のある方は春の遠足に土湯温泉まで  
足をのばされてはいかがでしょう？  
今の季節はちょうど水芭蕉も楽しめるですよ。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ここでギネス記録申請について少しお話ししましょう。

今回の「こけし三姉妹」は、大きさに関する記録です。  
大きさなどサイズが関わる記録については、その数値を正確に測り、  
それを資料にまとめ申請資料を準備しなければなりません。

「こけし三姉妹」の場合は、重量についてはもともと正確な計測がされて  
いましたので、その他高さなどの本体の各部のサイズを計測しなおしました。

「こけし」は日本の伝統的なものですから、イギリスのギネス社の方にも  
どういうものか理解していただけるような資料なども準備します。





それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \* .

第2回では、「こけし三姉妹編」の舞台となる福島県土湯温泉にて開催される「こけしまつり」のこと、そして、こけし三姉妹のギネス記録申請のための準備のことについてお届けいたしました。

「世界一大きなこけし三姉妹」としてギネス記録認定を目指す「こけし三姉妹」ですが、まずは、あらためてその大きさをご紹介します。

こけしその1==> 高さ 3.01m、重さ 510kg  
こけしその2==> 高さ 3.03m、重さ 550kg  
こけしその3==> 高さ 3.05m、重さ 530kg

何度聞いても「大きい！」の一言です。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

土湯温泉の「こけしまつり」ですが、前回のメルマガでご案内したとおり4月16日（土）・17日（日）に開催されました。

当メルマガ読者の皆さまの中で「こけしまつり」に行かれた方がいらっしやったら、ぜひご報告くださいませ！

こけしの販売はもちろんのこと、こけしの制作実演や絵付けコンテスト、

こけし山車の巡行など、他にもいろいろなイベントが盛りだくさんの2日間だったようです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

また、今年の「こけしまつり」には、うれしいニュースもありました。

以前より、私どももお手伝いさせていただき進めていたギネス記録申請の準備が完了し、「こけしまつり」直前の4月12日に無事申請を行うことができました。

「せっかくお祭りがあるのだから、それに間に合うように申請できるように準備を進めよう！」と準備を進めていましたので、お祭りの開催に間に合い私どももひとまず「ほっ」としました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そして、ギネス記録申請というニュース性の高い話題をそのままにしておくわけにはいきません。

今回の記録の申請者である土湯温泉観光協会でも申請後マスコミに情報発信をしようと計画をされていたので、私どもでもプレスリリースを配信するという形でお手伝いをさせていただきました。

「巨大こけし三姉妹」というその言葉だけでも十分に興味をひきつけることができますが、それに「ギネス記録申請」という話題がプラスされています。

プレスリリースの結果、  
多くのメディアで「こけし三姉妹」を取り上げていただくことができました。

例えば・・・インターネットではこんな感じです。

ぜひご覧になってみてください。  
(巨大こけしの写真もご覧いただけますよ！)

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050414-00000006-maip-soci>

<http://www.mainichi-msn.co.jp/search/html/news/2005/04/14/20050414ddm041040177000c.html>

(クリックしてもご覧になれない方は、改行ナシで URL をコピーし  
ブラウザに貼り付けてください)

\* . . . . . \* . . . . . \*

今回は、お祭りの開催直前に非常にタイミングよく、  
ギネス記録申請というニュースを配信することができました。

このようにタイミングよく記録申請を行うには、  
やはり期限ぎりぎりに準備を始めるのでは間に合いません。  
期間的に余裕を持って準備を開始し、計画的に準備を進めれば、  
大きな効果が期待できるでしょう。

\* . . . . . \* . . . . . \*

今回のプレスリリースは「ギネス記録申請」についてのものでした。

そうです。現段階では申請は行いましたが、それがギネス記録として認定されるかどうかの最終的な結果は出ていません。

ですから、今後結果が出て「見事！ギネス記録認定！」ということになれば、再度メディアに情報発信を行うことができます。

「申請」だけでも十分な話題性がありますが、  
「認定」となればさらに話題性が高まります。

その事実をうまく活用していくことで、土湯温泉の場合でしたら、「こけし」という伝統文化の継承、または、地域の活性化に大きな効果をもたらすことができるでしょう。

\* . . . . . \* . . . . . \*

先ほども申しましたとおり、まだ最終的な結果は出ていません。

結果が出るまでには、まだしばらくの時間がかかるとは思いますが、よい結果のお知らせをいただけることを楽しみに待ちたいと思います。

また、結果が出ましたら、皆さんにもお知らせしたいと思います。

\* . . . . . \* . . . . . \*



## 長~いコラムニスト編（第1回）

~~~~~回

前回までの「こけし三姉妹編」お楽しみいただけましたでしょうか？

バックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

今回からは新たなギネス記録申請の裏話をお届けしてまいります。  
題して「長~いコラムニスト編」。

長~い？

すべて読み終える人がいないほどの長いコラムを書いたのか？

いいえ、違います。

この「長~い」は、期間を意味しているんです。

つまり、「超」がつくほど長い期間にわたり、コラムを書き続けてきた！  
という記録なんです。

ではまず、その記録の内容をご紹介します！

コラム名：「世迷言」（東海新報）

コラムニスト：鈴木正雄さん

期間：1958年12月5日～2005年2月1日（46年2ヶ月26日間、全14,029回）

開始された1958年には私はまだ生まれてさえおりません。

私を産んでくれた母にしても、まだぴちぴちのティーンエイジャー！

そんなころからずーっと続けてこられたのです。  
これはもう「すごい！」の一言ですね！

では、まずは、そのコラムが掲載された「東海新報」と  
コラム「世迷言」についてご紹介いたします！

\* . . . . . \* . . . . . \*

当メルマガ読者の皆様の中に発行されている地域の方がいらっしゃったら、  
よくご存知かもしれませんが・・・  
まずは、コラムが掲載された「東海新報」について・・・。

株式会社東海新報社が発行する「東海新報」は、  
東北・岩手県の旧気仙郡の2市1町（大船渡市、陸前高田市、住田町）で  
愛読されている地方紙です。

コラム「世迷言」の執筆者である鈴木正雄氏が、  
岩手新報、河北新報などの記者としてご活躍後、昭和33年に創刊されました。

創刊当時は新聞版1枚（1面・2面）で2ページ建ての紙面構成でしたが、  
現在では8面の紙面構成となっており、  
大部分は地域の情報で構成されています。

対象エリアの人口は8万人弱、世帯数は2万数千でありながら、  
17,500部という購読者に支えられ、独自の言論を展開しているとのこと。

2万数千の世帯数に17,500部ということは、  
その地域の人ならほとんどが少なくとも一度は目を通したことがある



といってもいいのではないのでしょうか。

地域の皆さんの情報源として信頼されているということでしょうね。

ということは地域の方でしたら、コラム「世迷言」を読んだことがある！  
という方が、たくさんいらっしゃるでしょう。

\* . . . . . \* . . . . . \*

では次は、そのコラム「世迷言」について・・・。

東海新報紙面、第1面に「世迷言」というコラム欄があります。  
「世迷言」は、東海新報社現会長である鈴木正雄氏が執筆する、  
創刊当時から続く、時事や季節に関するコラムです。

鈴木氏は創刊号（1958年）からこのコラムの執筆を担当し、  
2005年2月1日に至るまで46年2ヶ月26日間、  
継続してコラムを書き続けてこられました。

同様の記録としては、産経新聞のコラム「産経抄」で  
長期間筆を奮っておられた石井英夫氏が2004年12月28日に  
筆を折られましたが、  
同氏は35年間継続してコラムを書き続けておられました。

鈴木氏は、日本では間違いなく「最も長く新聞のコラムを担当した  
コラムニスト」であり、その功績の大きさからも、  
世界記録として認定を受ける価値は十分にあると考えられます。



前回から引き続きお届けする「長~いコラムニスト編」。

「東海新報」という地方紙にひとりの人が46年2ヶ月26日間にわたりコラムを書き続けたというすごい記録があります。

この記録は、「東海新報」発行元である東海新報社の現会長、鈴木正雄氏によるもので、「最も長く新聞のコラムを担当したコラムニスト」としてギネス記録に申請する予定です。

記録の内容について、詳しくはバックナンバーをご覧くださいね。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050509.txt>

こちらでは簡単にご紹介・・・

コラム名：「世迷言」（東海新報）

コラムニスト：鈴木正雄さん

期間：1958年12月5日～2005年2月1日（46年2ヶ月26日間、全14,029回）

東海新報社のホームページはこちら

<http://www.tohkaishimpo.com/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

この記録に関して、初めて私どもにご相談をいただいたのは、今年（2005年）の3月ごろのことでした。

コラム執筆継続期間の記録については私どもでは

あまり良くは知らなかったのですが、  
46年間という年月には、ただただ驚きました。  
歴史を感じますね。

さて、ちょうどそのころ NHK から弊社に取材協力のご依頼をいただきました。  
タイミングが良かったので、東海新報さんにもご協力をお願いし、  
打ち合わせを行う様子を取材していただくことになりました。

弊社の代表清水が、NHK の取材の皆さんとともに、  
雪の降る中、岩手県の東海新報社へと向かいました。  
厳しい寒さの中ご同行くださった NHK の皆さんのおかげで、  
とてもいい感じに取材していただくことができたそうです。

東海新報社では、今回ご紹介している記録の達成者である  
東海新報社の会長さん自らが、心のこもったおもてなしをしてくださり、  
驚き、感謝、そして感激の気持ちでいっぱいになったとのこと。

そして、46年間続けてこられたコラムへの熱い思いを  
たっぷり伺ってまいりました。

打ち合わせ & 取材から戻った清水から「会長さん、ステキな人なのー」と  
うわさを聞いておりましたが、その後放送された番組を私も拝見したところ、  
会長さんのそのステキな人柄が存分に伝わってきました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

上述のとおり、取材もかねて打ち合わせに伺ったのですが、  
その際、課題としてあげられたのが、14,029回という膨大な数を  
どのように証明するか、ということでした。

東海新報の担当者の方も「どうするんだろう？」と気になっていたとのこと。

コラム自体は、保管状態が良く、きちんと保存紙になって  
一定期間ごとに保存されていたので、

「第1回目から最後まで、このように保管しています」ということを  
示すための写真を撮ったり、第三者の方に確認をしてもらったりして、  
記録が事実であることを証明することとなりました。

また、今回は回数（期間）として記録の申請を行いますが、  
おそらく、最年長の記録でもあると思われるので、  
会長の年齢を証明する資料もあわせて提出を行うことに決定しました。

実は、このコラムは3冊の本として出版もされており、  
また、会長は社会的にもさまざまなご活躍をされているため、  
この記録についてもさまざまなメディアでこれまでに紹介されていました。  
そのため客観的な証明がしやすいという面がありました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そして、現在、資料の準備はひとまず整い、  
その資料を英語に翻訳する作業を行っています。

申請を完了するのは、おそらく来月になってからということになると  
思いますが、今からすでに「執筆期間の長さと一緒に  
最年長のコラムニストでも記録認定されたいのになー」と  
楽しみにしております！



ということくらいしか思いつきませんでした。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、  
まずは『大正琴』のご紹介を・・・

大正時代に名古屋の森田吾郎さんという人が考案した楽器で、  
日本の二弦琴とタイプライターの押しボタンにヒントを得て作られました。

大正琴の楽譜は、数字でドレミを表しているので、  
初めての方でも気軽に挑戦できるそうです。

大正琴の写真を見ると、いわゆる『お琴』とはずいぶん違いますね！

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、その大正琴の大規模な演奏会を開いてギネス記録に挑戦したのは、  
名古屋を拠点に大正琴の教室を全国展開する『琴修会』さん。

私どもに初めてご相談をいただいたのが2003年10月下旬のこと。  
今が2005年ですから、もうずいぶん前のことになります。

そのときに伺ったお話によると・・・  
2005年に愛知県で万博が開催されるので、  
同時期に『大正琴の大演奏会』を行いたい、とのこと。

普段からギネスブックなどでいろいろな記録を見ていますが、  
大規模な演奏会に関する記録はどこかで見たことがあるような・・・  
あるとすれば、ギネス社が規定するルールがあるだろう・・・

ということは、記録の有無、そしてルールを問い合わせる必要があります。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そこで、その後すぐ2003年11月はじめに、ギネス社のウェブサイトを利用し、琴修会さんが直接ギネス社に問合せを行いました。

その問合せの結果、ギネス社から、  
「大規模なアンサンブルに関するルールに従って記録挑戦会を行ってください」  
という内容の返事がありました。

つまり、ギネス社から送られてきたルールにのっとって記録挑戦を行えば、ギネス記録に認定される可能性は十分にあるということです。

ギネス社から却下されなかったのが、ひとまずホッしました。  
(却下されたら認定はもとより、挑戦すらできませんからね！)

ギネス社からの返答を受けて、ギネス記録挑戦の企画を本格的に進めていくことになりました。

ですが、挑戦が行われるのは2005年。  
問合せを行った時点では、まだ少し先の話です。

本格的な準備を開始し、忙しくなるのは、2004年末頃から。



そのあたりのお話については、次号のメルマガでお届けいたします。  
どうぞお楽しみにお待ちしております。

回 ~ ~ ~ ~ ~

ギネス申請 裏話  
大正琴アンサンブル編 (第2回)

~~~~~ 回

前回の「大正琴アンサンブル編 (第1回)」はお楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。  
<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050606.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！  
<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

前回のメルマガでは . . .

ギネス社へ問合せをして、『大規模な演奏会』に関するルールを入手した！

ギネス社からの手紙に「認定できませんよ」とは書かれていなかった。  
つまり、認定される可能性はある！

では、本格的にギネス記録挑戦をいたしましょう！

. . . と、なったところまでの経緯をお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

ギネス社から『大規模な演奏会』に関するルールを入手したのが、  
2003 年も終わりのころ。

そして、演奏会は『愛・地球博』の時期に行う予定でした。  
みなさんご存知の通り、『愛・地球博』はただいま開催中。  
つまり、実際に挑戦を行うまで、1年以上の時間的な余裕があったのです。

まだまだ先だなーなんて思っていたんですが、時間のたつのは早いものですね。

あっというまに時間は過ぎてゆき、2004 年末から本格的なギネス記録挑戦会、  
そして記録申請のための準備をスタートしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

まずは、基本から・・・ということで、  
ギネス社から入手したルールなどの資料をじっくりと検討します。  
同時期に今回の記録挑戦者である『琴修会』のギネス記録関連のご担当の方、  
『琴修会』の代表者である岩間さん、そして弊社の清水でミーティングも。

ギネス社から送られてくるルール。  
もちろん英語で書かれたものなのですが、この解読も結構大変です。  
ひとつの文章に対して、いくつかの解釈が可能という場合もありますし、  
気になることがはっきりと説明されていないこともあります。

ですから、ルールが届いて日本語に訳してみて、  
「はいOK！じゃあ準備にかかりましょう！」とならないこともあるのです。  
いろいろな疑問がむくむくとわいてくることも結構あります。

そういう場合は、不明な点をまとめて  
再度ギネス社に確認のための問合せを行います。  
ときには、そういう再確認が数回にわたることもあります。

\* . . . . . \* . . . . . \*

今回の『大規模な演奏会』についても、ルールについて  
はっきりとわからない部分などをギネス社に再確認しました。

たとえば・・・

参加人数の規模に関する記録なので、その人数の証明方法。  
演奏する曲の選択に何らかの規定はあるのか。  
など、かなり細かいことをいくつか問い合わせました。

問合せから約1ヶ月、ギネス社からの返事が届きました。  
「これでいいのかな？」と思っていた疑問はすべて解消！

ちょっとひと安心です。  
母国語である日本語の場合でも、何かのルールなどを読んでいて、  
いくつか解釈が可能だったり、疑問が生じることがあると思います。  
それが、もとの文章が日本語ではなく英語であるとなると  
さらに心配が増しますよね。

そういう場合の解決法はやっぱりひとつだけです。  
疑問が解消し、きちんと理解できるまで、問い合わせを行い確認すること。

疑問を持ったまま記録挑戦を行って、

解釈を間違っていたためにルール違反となり、認定をしてもらえない・・・、  
なんてことになったらせっかくの努力が水の泡です！

・・・ということで、今回は再確認を行い、疑問も解消、  
あとはどんどん準備を進めるのみです！  
記録挑戦会の日はどんどん近づいてきますからね！

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

さて、その準備はどのように行われたのか？  
そして、当日の挑戦はどうなったのか？

そのあたりの裏話は次号でお届けしてまいります。  
どうぞお楽しみにお待ちくださいませー

回~~~~~  
ギネス申請 裏話  
い~い足湯だな編(第1回)  
~~~~~回

ギネス申請 裏話、今号からは「い~い足湯だな編」の始まりです

足湯。

みなさんおそらくどんなものかはお存知なのではないでしょうか。

足の部分だけをお湯につかる入浴法ですが、  
健康法ともいえるのでしょうか。

足の部分だけお湯につかることで、  
血行が良くなったりなど、健康に良い効果があるそうですね。  
(冷え性の私はこういうことにはグッとひきつけられます・・・)

その足湯、もちろん自宅でも行うことはできるのですが、  
最近足湯のできる施設が日本各地でたくさん誕生しているようです。

私の記憶では数年前にはそれほど多く見られなかったように思うのですが、  
温泉地などに行くと「足湯」と書かれた看板をよく見かけるようになり  
ました。

足元だけなので気軽に利用できていいですね。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、そんな高まる人気の中、またひとつ新しい足湯が誕生しました。  
その足湯は、今年(2005年)4月17日(日)、  
鹿児島県垂水市にオープンした『道の駅たるみず』にあります。

この足湯、ただの足湯ではありません。  
長さがなんと、『60m』もあるのです！

『道の駅たるみず』のオープンを記念し、  
『道の駅たるみず開駅記念式典』が行われたのですが、  
その式典のメインイベントとして、  
その足湯の長さを活かしたある挑戦が行われました。

『同時に何人の人が足湯に入ることができるか？』  
そう、この長さがあってこそ成し遂げられる記録に挑戦しようというのです。

この記録挑戦のイベントは、  
同市のボランティア団体『阿呆倶楽部（ぼっけくらぶ）』（代表：酒井隆氏）  
が中心となって主催されました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録としても申請できないかということで  
初めてご相談をいただいたのは、  
イベントも間近に迫った3月24日のことでした。

実際にサポートを開始したのは4月になってから。  
イベント実施日は4月17日。時間がありません。

ギネス記録に申請したいという前提で行うイベントでは、  
事前の準備が何かと大変です。

しかも、実施当日にも立ち会ってもらう必要のある人がいたりするので、  
事前の準備はとても重要です。

ですから、通常の場合だと、準備に3ヶ月間ほどの余裕を持ちたいところ。  
でも、今回の場合はそうも言ってられません。  
とにかく準備をスタートします。

\* . . . . . \* . . . . . \*

いつもサポートを開始するときには、準備すべき事柄や注意事項、

手配の必要な事柄や必要人員、そして、作るべき書類・・・  
などなどについて、詳しく書面でご案内しています。

これらの事項は、ギネス記録申請を無事行うために  
とても大切な事なのですが、このご案内の書類が  
「すごく分かりやすい」と大評判なんです。  
( そのようなお声をいただけると本当にうれしいですね )

さて、今回は、「同時に～～を行う」という記録なので、  
人数を正確に把握し、それを客観的にギネス社に示すことが必要。  
それができないと、「勝手に言ってるだけじゃないか」と疑われかねません。

また同時に、「長い足湯」(長さ60m!!)ということも  
ひとつのポイントになるのでは・・・ということで、  
長さを客観的に示せるような資料も準備していただくことになりました。

こういう、長さを証明する資料などを準備するのは、  
お客様にとっては結構大変なことでもあります。

手配の提案をするときに「大変かも・・・」と思うことはあるのですが、  
やはりせっかくギネス記録に申請するのですから  
信憑性が欠けているがために落とされた・・・ということになっては  
もったいないですから、ちょっと大変かも・・・と思うことでも  
ご提案させていただいております。

さて、ご案内の書類や、お電話やメールでのご相談などで、  
一通りギネス申請に関してのことをご理解いただけるようになりましたら、  
次は具体的にイベントに向けてスタートです！





その最多人数に挑戦！

そしてその記録をギネス記録に申請を！

というイベントが

同市のボランティア団体『阿呆倶楽部（ぼっけくらぶ）』によって主催され、私どもでギネス記録の申請に関するお手伝いをさせていただくことに・・・

さあ、具体的にイベントに向けてスタートだ！

・・・と、なったところまでの経緯をお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録申請のお手伝いをさせていただくということは、当然のことですが、その記録挑戦イベントについての詳細を知る必要があります。

そこで今回の場合はイベントの企画書を見させていただいたのですが、企画書を見ているだけでもとっても楽しそうなイベントです。

最近の足湯ブームで、足湯施設を利用しての「何人入れるか？」というイベントが、各地で行われているそうです。

その中でも、どうせやるなら「一番！」をめざそうというワクワク感。たまりませんねー。

そして、今回は『道の駅たるみず』の開駅イベントでもありました。イベントを大いに盛り上げて、『道の駅たるみず』の誕生を全国の方に知ってもらい、良いスタートを切るためには

最適なイベントではないでしょうか！！

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

そうはいつでも、ただギネス記録挑戦会を行うだけでは十分ではありません。  
きちんとした広報活動をしなくては、誰も知る人はいませんよね。

その意味では今回のイベントを企画した垂水市のまちおこしボランティア団体  
『阿呆倶楽部（ぼっけくらぶ）』は、しっかりとした広報をされていました。

その結果、イベント開催まで2週間を切った4月5日、南日本新聞に  
「道の駅17日開業 ギネスに挑戦」という見出しの記事が掲載されました。  
新聞に掲載されたことが、多くの人にイベントの開催を知ってもらう  
きっかけとなったでしょう。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

また、当社ピットからも「ピットのお客様がこんなことをします」  
という内容のプレスリリースを配信しました。

特に当社とかかわりがあるマスコミの方は、このような  
「当社のお客様がギネス記録に申請する」だとか、  
「挑戦会を開く」だとかいう情報を楽しみに待っています。

今回は、ピットからはイベント開催の10日ほど前にプレスリリースを配信。  
イベントが間近に迫っていたので、記者の方が具体的な情報を  
入手できるよう、イベントについての詳細もそのリリースに含めました。

このイベントに参加をするには、事前の申込みが必要でしたので、「参加したい人はこちらまで」という申込み先も加えました。

そして、一連の広報活動が実り、新聞や全国的に販売されている雑誌などさまざまなメディアで紹介されたり、また、記者の方から問合せがあったそうです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

もちろん、広報活動と同時にイベント自体の準備も進めていました。そうこうしているうちにあっという間にイベント当日です。

当日の挑戦はどうなったのか？！

そのあたりのお話は次号でお届けしてまいります。どうぞお楽しみにお待ちくださいませー

【おまけのミニコラム 1】 -----

今回のような“ギネス記録挑戦イベント”で注意したいことがあります。イベントで参加者がバラバラな行動をしないよう、ルールを決めることがあります。

たとえば・・・

- ・事前申込制にする
- ・受付でサインをしてもらう

など、記録挑戦会がうまくいくように、ギネス社が規定しているルールに加えて、



前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050718.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \*

“60m”もの長～い長～い足湯施設が、  
鹿児島県垂水市の『道の駅たるみず』にあります。

その“60m”の足湯にいったい何人の人が同時に入ることができるのか？

その最大人数に挑戦！

そしてその記録をギネス記録に申請を！

というイベントが

同市のボランティア団体『阿呆倶楽部（ぼっけくらぶ）』によって主催され、  
私どもでギネス記録の申請に関するお手伝いをさせていただくことに・・・

前回までのメルマガでは・・・

記録挑戦イベントまでの準備や広報などなど

実施当日までの経緯をお伝えしてきました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて！

2005年4月17日。

『同時に何人の人が足湯に入ることができるか？』という記録に挑戦する  
イベントの本番の日がやってまいりました。

私も参加できれば良かったのですが、京都からとなるとやはり  
ずいぶん遠いため、残念ながら涙をのむことに。  
終了後、ご担当の方からご連絡をいただけるのを楽しみに待つことに！

また、イベントの直後にマスコミに挑戦結果報告のプレスリリースを  
配信したかったのですが、そのリリース作りにも熱を込めました。

「イベントでは必ずインパクトのある写真が撮れているはずだから、  
その写真も入れて・・・」

「たくさん問合せが来るだろうなあ・・・」

そんなことを考えているとワクワクしてきます。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そして、イベント翌日の18日。

ご担当の方からご連絡が・・・。  
記録挑戦は無事行われたとのこと！

気になる記録の結果はというと、同時に“220名”が足湯に入りました。  
会場となった『道の駅たるみず』が国道220号に面していることから、  
220名としたそうです。

この“国道220号” “220名”のように関連性を持たせると、  
広報を行うときにもマスコミへの印象が濃くなりますので、  
見習いたいところですね。

ひとまずは記録挑戦が計画通りにうまくいき、ひと安心です

また、このイベントでは、足湯でのギネス記録挑戦だけでなく、参加された方がめいっぱい楽しめるよう、特産品を使った別のイベントも行うなど、いろいろな工夫をされていました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、記録挑戦が無事終わったのですから、次はプレスリリースです。

当社ピットでは、このイベント結果をマスコミ関係者に知らせするためのプレスリリースの手配を 19 日に完了。

プレスリリースは内容の鮮度が命です。早く配信できてほっと一息。

同じ内容のリリースでも、イベント実施後すぐに配信できたのと、それよりも 10 日も遅れて配信するのでは、結果には雲泥の差が生じます。

今回のような町おこしなどのイベントの広報を担当されている方は、『プレスリリースは鮮度が命！』と肝に銘じておかれるとよいでしょう。

今回のプレスリリースでも、かなりの反響があり、新聞などで取り上げられました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

記録挑戦が終わりました。

プレスリリースも大切ですが、ギネス記録として申請するための準備も忘れてはいけません。

申請するための資料の準備を始めます。

『どんな資料が必要か・・・』

これは、すでにご担当の方にすべてご案内しています。

たいていは、ここからがご担当者の悩みどころです。

少しでも負担を減らすことができるよう、どのような資料が必要なのか、どのように準備すればいいのか、丁寧に説明するよう心がけています。それでもやはり、準備に手間取ってしまうことも多いようです。

今回の阿呆倶楽部のご担当の方は、とても資料作りがうまく、1ヶ月ほどの間でビックリするばかりの立派な資料をご準備してくださいました。

とはいえ、この段階ではまだ道半ば。

揃えていただいた資料は日本語で作られています。

ギネス社はイギリスにあるので、申請資料をすべて英語に翻訳する必要があります。

お客様が準備してくださった資料には、本来ギネス記録申請用の資料としては必要のない“ぜい肉”的な情報があったりもしますので、そういった不要部分を取り除いたりしながら、または必要な場合には補足説明を加えながら、英語の申請資料を作っていきます。

そして、英訳その他もろもろの作業を終え、7月1日に資料の準備が完了し、すべてをまとめてご担当の方に送付しました。

その資料は7月13日にギネス社へと送付されたとのこと。





前回の「い～い足湯だな編（第3回）」はお楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050801.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \*

前回までのメルマガでは・・・

“60m”もの長～い長～い足湯施設が、  
鹿児島県垂水市の『道の駅たるみず』にあります。

その“60m”の足湯にいったい何人の人が同時に入ることができるのか？

その最多人数に挑戦！

そしてその記録をギネス記録に申請を！

というイベントが

同市のボランティア団体『阿呆倶楽部（ぼっけくらぶ）』によって主催され、  
私どもでギネス記録の申請に関するお手伝いをさせていただくことに・・・

その記録挑戦も無事終了！

ギネス社への申請も完了！

・・・と、なったところまでの経緯をお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録挑戦のイベントが終了してから2ヶ月ほどたった6月中旬のこと、ご担当の方が、その後の『道の駅たるみず』の様子を教えてくださいました。

そのご報告のメールがとてうれしいものでしたので、皆さんにもお伝えしたいと思います。

(以下、ご担当の方からのメールの内容です)

さて、その後の道の駅たるみずの様子です。

ギネス挑戦イベントの実施により、オープン直後は、あらゆるメディアに紹介されました。

その甲斐もあって、土日はもとより、平日もたくさんの人出で賑わい、特に「足湯」はそこから望む景観もさることながら、全長60mというインパクトがありますので、人気スポットとなっています。

また、メディアだけでなく、個人のブログにもレポートされたりと、大きな宣伝効果となりました。

参考までに、当駅の1年間の目標は、年間30万人来場・1億8,000万円の売り上げが目標だったみたいですが、6月12日現在(開駅57日間)で、20万人の来場・1億円の売り上げを達成したそうです。

こういった実績を目の当たりにすると、私もそうですが、清水さんも励み(実績づくり)になるかと思い近況報告しました。

メルマガで紹介されることで、また、PRにもなるだろうし、ギネス申請・認定ともなると、ブームが落ち着いた後のテコ入れ策としての戦略も立てられます。

ギネス申請書類の件ですが、色々と不備な点多々あったこと  
と思います。書類としての完成度など全般的な感想を  
お聞かせいただければ幸いです。  
今後とも、よろしく申し上げます。

こういったご報告、お声をいただくと本当にうれしいですね。

そもそもこの「足湯」のギネス記録挑戦は「地域活性化」の一環として  
行われていたものです。

その意味で言うと、  
「ギネス記録に認定はされたけど、地域の認知度はあがっていない」  
なんてことになったら、  
そもそもの目的は全く達成されなかったことになってしまいます。

ですが、イベント後2ヶ月というこの時期に、このような明らかな成果。

それはやはり「ギネス記録挑戦会」という切り口がマスコミ受けがよく、  
その結果マスコミを通じて多くの一般の方に情報がいきわたった結果、  
ということですね。

「ギネス記録に挑戦！」と聞くと、単純にそれだけでワクワクしますよね。  
それはもちろん企画をする側も挑戦に参加する側も！  
マスコミも！ そのニュースを聞いた人も！  
そのワクワク感は地域を盛り上げるのにつけてはありませんか？

このような成功事例を参考に、もっともっとたくさんの市町村で  
「ギネス記録挑戦イベントを活用した地域活性化」をして欲しいですね

\* . . . . . \* . . . . . \*

4回にわたりお届けしてまいりました「い～い足湯だな編」ですが、  
今回で終了となります！

申請までは無事に完了しておりますので、  
後は結果を待つのみです。

ギネス社からの返答はそうそう簡単にはやってまいりませんので、  
しばらくは待つのみです。

皆さんが、忘れてしまったところに、「認定されましたよー！」とご報告し、  
ビックリさせられるといいなーと思います。

よい報告をお楽しみにお待ちくださいませ。

道の駅たるみず『湯っ足り館』のウェブサイトはこちら  
<http://www.city.tarumizu.kagoshima.jp/yuttarikan/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、次号からはまた新しいシリーズが始まりますよ！  
どうぞお楽しみに～！！



さてさて、今回から始まる新シリーズ、  
その主役はもちろん「花火」です。

ある町で花火を使ったギネス記録挑戦会が行われました！

\* . . . . . \* . . . . . \*

その「ある町」とは、合併して加東市となる兵庫県の滝野町。

合併するのは2006年3月、つまり、今年2005年の夏が、  
滝野町としての最後の夏なのです。

その最後の夏に、後に残るイベントがしたい！！との思いから、  
町の人に参加できるイベントをして、その規模でギネス記録に挑戦しよう！  
という企画が実現しました。

そのイベントというのが・・・  
タイトルにもある「千戸（せんこ）の線香花火」

千戸（千のグループ）が参加する最大規模の線香花火イベントとして、  
ギネス記録に申請しよう！というもの。

7月中旬までに参加者を募り、イベント当日には  
その参加者全員でいっせいに線香花火に点火！という予定。

なんとも楽しそうです。  
しかもスケールが壮大です。  
さらにプラスしてギネス記録申請です。

このイベントへの参加は、きっと参加者の皆さんの記憶に  
滝野町の思い出とともに長く長〜く残るに違いありません！

\* . . . . . \* . . . . . \*

そのイベントの内容はといいますと・・・

日時：平成 17 年 7 月 30 日  
会場：兵庫県滝野町総合公園  
内容：【する花火】千戸の線香花火（その規模でギネス記録申請）  
【見る花火】20 分程度の仕掛け花火など  
参加費：1000 円（1 グループ）

家族で参加するのにつけて  
もちろん友人同士と一緒に参加もいい思い出になりそう

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、この「千戸の線香花火」ギネス記録挑戦イベント、  
その企画はすんなりと決まっていたわけではありませんでした。

上述しましたように、  
2006 年 3 月、滝野町は合併して加東市になります。



そして、2005年の夏は滝野町の最後の夏。  
最後の夏に残るイベントがしたい！ということになりました。

そんなとき・・・

広報職員さんが弊社のホームページで、  
九州の柳川市が「最大規模のナイアガラの滝花火」に挑戦し、  
ギネス記録認定を受けたという情報をご覧になったそうです。

-----  
2003年8月24日、3125.79mのナイアガラの滝花火  
主催：有明海花火フェスタ実行委員会>  
[http://www.sekaikiroku.com/get/niagara\\_yanagawa.htm](http://www.sekaikiroku.com/get/niagara_yanagawa.htm)  
-----

この情報をもとに、  
「ナイアガラの滝花火の記録を塗り替えたい！」ということになり、  
企画が開始されました。

そして2005年1月1日、  
「未永く世界的に滝野町の名を刻もう！」ということで、  
企画の新聞発表を行いました。

また、町長さんから「できたらいいね」という内容の  
コメントが寄せられました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、その新聞発表ですが、なんと！大反響を呼びました！

企画の行方はどうなってゆくのでしょうか？

そのあたりの裏話は次号メルマガにてお届けしてまいります。  
どうぞお楽しみにお待ちしております

回~~~~~

ギネス申請 裏話  
千戸の線香花火編（第2回）

~~~~~回

前回の「千戸の線香花火編（第1回）」はお楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらをご覧くださいませ。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050829.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \*

2006年3月、兵庫県の滝野町は合併して加東市となります。

2005年夏、つまり合併前の最後の夏に、  
後に残るイベントがしたい！！ということで、  
花火を使ったギネス記録に挑戦することになりました。

そのギネス記録挑戦イベントの企画を新聞発表したところ、  
それが大反響を呼んだ！

・・・と、なったところまでの経緯を  
前回のメルマガではお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

その大反響を呼んだ新聞記事は、

「未永く世界的に滝野町の名を刻もう！」という思いのもと、  
「最大規模のナイアガラの滝花火」の記録更新に挑戦したい！  
というものでした。

その新聞記事は大反響を呼び、  
地元の小学生や一般の人たちから実施の要望が多く寄せられました。

つまり、夢物語では済まされなくなったのです。  
そこで、関係者の方々は決意を新たにします。

「記録と記憶に残る花火大会をしよう！！」

\* . . . . . \* . . . . . \*

ところが・・・

当初、町を流れる加古川で長～いナイアガラの滝花火を行い、  
ギネス記録更新に挑戦だ！と考えておられたそうですが、  
安全対策などの理由で、加古川で実施するのは厳しいことが判明。

ナイアガラの滝花火は断念せざるを得なくなりました。

そしてその後

「記録と記憶に残る花火大会」として打ち出された企画が以下のものでした。

- ・ナイアガラ他鑑賞花火（鑑賞する花火：記憶）
- ・いっせいの線香花火（参加する花火：記録）

弊社にご相談いただいた当初は、参加する花火として、3つほどの候補が挙げられていました。

- ・千人がいっせいに火をつける線香花火　千人の線香花火
- ・ナイアガラ花火を手持ちに加工して　手持ちナイアガラ
- ・手持ち花火が消えないうちに次の人にリレー  
など。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

ギネス記録として申請するには、「数値」に置き換えられないものは認められにくい傾向があります。

そのため、今回の滝野町のギネス記録挑戦では、「いっせいに火をつける線香花火」で行うことに決定しました。（後に「千戸の線香花火」と名称変更）

参加人数の多さで記録を申請するわけですから、たくさんの人に参加してもらわなければなりません。

企画立案時の参加者見込み数はというと・・・

該当地域には

- ・ 小学校（1～6年）1000人いる
- ・ 中学校（1～3年）300人いる
- ・ プラス保護者

-----

合計1000人くらいにはなるだろうと見込みを立てました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、イベントの内容が決定したら  
次は実現に向けて準備を進めなければなりません。

弊社のサポートも本格的にスタートします。

そのときすでに2005年7月。  
残された期間は1ヶ月です。

普通のイベントとは違い、「ギネス記録申請」を目的とする場合は、  
客観的に記録の正確さを示すために、たくさんの準備が必要です。

たとえば、書類作成や立会い人など。  
イベントの内容によって異なってきますが、  
準備は一様に大変なものです。

その準備の裏話は次号のメルマガでお届けしてまいります。

どうぞお楽しみにお待ちくださいませ

回 ~ ~ ~ ~ ~

ギネス申請 裏話  
千戸の線香花火編 (第3回)

~ ~ ~ ~ ~ 回

前回の「千戸の線香花火編 (第2回)」はお楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20050912.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* \* . . . . . \*

2006年3月、兵庫県の滝野町は合併して加東市となります。

2005年夏、つまり合併前の最後の夏に、  
後に残るイベントがしたい！！ということで、  
花火を使ったギネス記録に挑戦することになりました。

「千戸(せんこ)の線香花火」というイベントを行い、  
大人数がいっせいに線香花火に火をつける記録に  
挑戦することに決まりました。

そして、本格的な準備の開始です・・・

・・・と、なったところまでの経緯を

前回のメルマガではお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録として申請し、審査してもらうには . . .

準備をする段階でもさまざまな注意をすべき事項がありますが、参加者を募り、その人数の多さなどの記録を申請する場合、とても大事なことがひとつあります。

そして、準備の際にとっても苦勞をされている方が多いのもそれです。

それは、参加者の署名簿を作成することです。参加者全員に直筆で署名をしてもらうのです。

大人数で挑む記録の場合、まさか参加者が2~3名ということはありません。何千人、多ければ何万人という人が参加しての挑戦となります。間違いや抜けのないように署名してもらうことは大変な作業です。

\* . . . . . \* . . . . . \*

当日スムーズにいくように前もって準備をしておくわけですが、注意すべき点もたくさんありますし、いろいろな疑問もわいてきます。

たとえば . . .

- ・ 名簿に記載すべき項目は？
- ・ 自筆？ 印刷？
- ・ 子どものサインは？ 親がするの？

- ・学校の先生がたくさん子どもを連れてきたら、サインは誰が？
- ・個人情報保護法の影響で、あまりいろいろ書かせるのは・・・
- ・「〃」などは使っちゃダメ

などなど。

\* . . . . . \* . . . . . \*

また、署名簿だけでなく、  
何名が「きちんと線香花火の点燈をしたか」ということを  
把握することがとても大切です。

たとえば、1000人受け付けたとしても、その1000人全員が、  
きちんと線香花火の点燈をできない場合があるかもしれません。

子どもなら、途中で隣の子とふざけあって手を離してしまったり・・・

そういう人数などは、係員を配置してしっかりと把握する必要があります。

今回は次のような工夫をされました。

750組を縦30個×横25個のマスに入れて配置。  
マスの大きさは2m四方。  
縦のラインの間を監視員が歩いて、  
「参加者がきちんと線香花火をしているか」を確認し、  
報告書を書く。

こういった工夫をすることにより、この記録は事実に基づいたもの、  
という客観性が出ます。



大変なことです、とても大切なことです。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

準備している段階で、心配なことがありました。

小さなお子さんの参加が多いことです。

- ・ 花火をきちんと行うことができないかも。
- ・ 親がサポートしたらダメなのか？

「いっせいに何かを行うイベント」では、「できなかった」人の数は記録人数に入れるわけにはいきません。  
ですから、明らかに無理な場合はエントリーからはずしたほうがいい、ということになります。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

サポートの最初に弊社から書面でいろいろなお説明をしていますので、準備は順調に進んでいきましたが、イベントが近づき、書類の作成なども始まりますと、やはり、細かな点についてのご質問など出てきます。

そのようなご相談をEメールやファックスを利用して行いました。

そして、とうとうイベントの日がやってきました。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

イベント後すぐに、ご担当の方から  
「こんなイベントになりました！」と写真をいただきました。

結果的に、2104名が花火に点燈したようで、  
写真をみてもわかるように、かなり幻想的です。  
そして、その壮大な光景。

<http://www.town.takino.hyogo.jp/town/sintyaku/hanabi/bosyuu.htm>

ご担当者の方も、しきりに「参加された方の記憶に残るような  
イベントにしたい」と仰っていらっしゃいました。  
その思いが、この大規模なイベントを成功に導いたと言えるでしょう。

花火イベントで、しかも家族参加が多かったのに、  
一切危険なことは起こらなかったのも、これも、  
主催者側の思いが形になったのに違いありません。

当日は、とても色々な作業が発生し、  
あっという間に時間が過ぎてしまいます。

ご担当の方も、「ゆっくり見る間がなかった」と一言。  
でも、「とてもよかった」という参加者の一言で、  
そのご苦労もパッと飛んでいった、とのことです。

ギネスにチャレンジする、というのは、  
イベントに付加価値を持たせるということです。

「参加者の思い出に残るイベントになった」という最大の結果を



「千戸（せんこ）の線香花火」というイベントを行い、  
大人数がいっせいに線香花火に火をつける記録に  
挑戦することに決まりました。

前回までのメルマガでは、  
イベント当日までの様子をお伝えしてまいりました。

今回は、イベント終了後、担当者の方からお聞かせいただいた  
感想などお届けいたします。

\* . . . . . \* . . . . . \*

<ギネス記録イベントを担当して（終えて）、全体を通してのご感想>

なにしろ世界で初めての試みです。  
どこまで準備すれば完璧なのか誰も分からないままの  
不安の1ヶ月でした。

6月20日から参加申込を受け付けましたが、PRの仕方がまずかったのか  
7月15日の締切日での申込者は300組1000人。  
これはまずいと、あわてて町営ケーブルテレビで  
プロモーションビデオを作り、新聞にもあの手この手で  
掲載してもらった結果、以後の10日間で400組1300人の申込が  
ありました。人数的には何とかなっただかなと思っています。

参加者700組には、(1)ますの位置、(2)受付テントの位置、  
(3)駐車場の位置を事前に通知、説明することで、当日は2200人の  
受付を1時間で十分行うことができました。  
事前の通知は大変でしたが、良かったと思います。

いよいよ花火の点火の時間となりましたが、監視員の配置状況、  
照明担当への指示、自分の記録写真の準備などで、

「ほとんど憶えていない」のです。無事に火が点いたら泣くかもと思っていましたが、そんな暇はなかったです。

ただ、当日は、天候、駐車場、受付、ギネス挑戦、打ち上げ花火鑑賞と何もかもが予想以上にうまくいきました。参加者 2200 人のモラルと従事してくれた 50 人の役場職員のがんばりのおかげと、ただただ感謝しています。

当日一番感激したことは、4 回花火を一斉点燈しましたが、花火が燃え尽きるたびに自然と拍手が起こったことと、3 回の予定がマスコミにせがまれて 4 回目を行うことになったのですが、「もう一回やりたいですか？」と参加者に聞くと万雷の拍手でアンコールをいただいたことです。よろこんでいただいたと実感しました。

#### < イベント終了後、参加者などの反応（喜びの声など） >

イベント終了後すぐに届いたメールの原文を紹介します。  
「小学生の子ども、私たち大人も一生涯の思い出の 1 ページとなる花火大会でした。  
滝野町民となって 10 年の若造ですが、  
様々なイベントに参加する度に、滝野住民の意識が強くなり、  
故郷はこうして自分の中で形成されて行くものなんだと  
実感しているところです。

花火の美しさはともかく、自分がこの美しさの一端を担っているという充実感が、  
故郷意識を強めてくれた気がしています。  
第 2 部の打ち上げ花火を見ながら飲んだビールが  
満足感と哀愁で、甘くもあり、苦くもあり、  
線香花火と共に思い出に深く残る味となりました。」

< 当社のサポートについてのご感想 >

ギネスと銘打って企画したイベントで、ギネス申請できなくなるような失敗をしては目も当てられません（してないつもりです）。このイベントはコンサルタントなしではとてもできなかったと思います。そして、これからの申請作業においても、やはりコンサルタントなしでは何もできないでしょう。

とても適切な助言を、しかも速やかに具体的にいただき、非常に感謝しております。

< 「大規模花火」ではなく、「ギネスにチャレンジ」という企画にしてよかったと思うこと >

参加者がこちらの説明に対して非常に良く耳を傾けてくれたこと、ルールを守り（ギネス挑戦だけでなく安全対策など）行動してくれたことは、たくさんの人と一緒に記録をめざしているんだという特別な意識が働いた結果だと思います。

「ギネス挑戦」とすることで、労力は3倍ぐらいかかりましたが、成果は計り知れないほどのものがあつたと思います。

「ギネス」というブランドイメージの力をあらためて認識しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

イベント当日の様子が目の前に浮かぶようなご報告をいただきました。  
このようなご報告をいただけることは私どもにとって大きな励みになります。



<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

2005年7月18日、千葉ポートパークが沸きました！！

ニュースなどすでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、人気バンド GLAY のボーカル、TERU さんがなんとファン 1 万人を招待しての大・大・大規模な野外公開録音を行いました。

なんとファン思いなのでしょう！

このイベントは、TERU さんがパーソナリティをつとめるラジオ番組、bayfm (ベイエフエム) の「TERU ME NIGHT GLAY」の 10 周年を記念して行ったものです。

【TERU ME NIGHT GLAY】

<http://www.bayfm.co.jp/artist/>

東京ベイエリア夏の風物詩「bayfm サマーキャンペーン」、サマーキャンペーンは 1990 年より毎年行われていますが、数年前から、その幕開けを飾るイベントとして、千葉ポートパークで大規模イベントが行われるのが恒例となっています。

その恒例イベントスタートから 3 年目の  
2005 年真夏のベイエリアイベント！

TERU さんの番組 10 周年という記念でもあり、bayfm 史上最大、1 万人を招待しての



「野外公開録音」をすることになりました。

プラス、「史上最大規模のラジオ番組公開録音」として、ギネス記録に申請したい！！

・・・とのことで、そのご相談をはじめて受けたのは、今年の春。春といっても5月のことでしたので、7月のイベントまではあと2ヶ月しかありませんでした。

そのため、ちょっと急ぎ足のスタート。

大がかりなイベントですが、スムーズにギネス社に申請資料を届けられるよう、そしてギネス社がきちんと判断できる内容のものを提出できるよう、当社で、これまで培った経験と知識を総動員してサポートします。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ご担当者とお打合せからサポートの開始です。

最初にしっかりとお打合せすることで、その後のあらゆることをスムーズに進めることができます。

まずは、ご担当者にイベントの内容や目的などを伺いました。

そして、他にも具体的にイベント当日の注意事項などについてのアドバイスをさせていただきました。

「あとの祭り」にならないよう、  
イベント当日までに準備しなくてはいけない事柄や、  
イベント当日の注意点、そして準備する必要のある資料などについて、  
細かい説明を行いました。

特に、このように大きなイベントの場合、  
注意したいのが「人数の確認方法」です。

このイベントでは1万人のファンの方を招いて、  
「史上最大規模のラジオ番組公開録音」を行うのですが、  
「ほんとに1万人？」というところを  
どうやってギネス社に示すか、ということがとても重要です。

あまりにも信憑性がないと、  
「勝手に言ってるだけでは？」と  
疑問を持たれることになるかもしれません。  
(そうなっては困ります！！)

今回は、あらかじめ参加者に「葉書タイプの招待状」を配る、  
ということでしたので、招待状の一部を「半券」にしておき、  
ファンの方が受付をするときに、受付でその半券をもらい、  
数を正確に数えましょう、という方法を提案しました。  
(実際には10,050名の参加があったそうです。)

\* . . . . . \* . . . . . \*

・・・というような具合に、サポート開始時のお打ち合わせでも、  
記録挑戦に関するご案内や、挑戦方法についてのご提案など、



前回の「史上最大規模のラジオ番組公開録音編（第1回）」は  
お楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20051024.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \*

人気バンド GLAY のボーカル TERU さんが、ファン 1 万人を招待しての  
ラジオ番組公開録音を行い、  
その記録を「史上最大規模のラジオ番組公開録音」として  
ギネス記録に申請しよう！という挑戦のいろいろなお話を  
お届けしています。

前号では . . .

TERU さんがパーソナリティを務める bayfm (ベイエフエム) の  
「TERU ME NIGHT GLAY」とその番組の公開録音についての簡単なご紹介と、  
ギネス記録申請をされるということで、  
当社にサポートをご依頼いただき、まずは最初の打ち合わせを終了し、  
さあ、これから本格的なサポートの開始！というところまでの  
お話をご紹介しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、イベントまでのサポートの開始です。

当社では、それぞれのお客様に合わせて「ご案内セット」という数種類のご案内資料を最初におつくりし、お渡しすることにしています。

書面の量は多いのですが、しっかりと最初に理解してもらうほうが、その後ご担当者が「迷走」したりしなくてすむので、書面で、注意点や準備すべきことから、場合によっては手配すべき人員、ギネス社に提出する資料の説明など、ゴールが見えるまで説明しています。

もちろん、各申請案件に応じて内容は異なってきます。準備が必要な資料などもそれぞれに異なるというわけです。

よく初めての方からお問合せのお電話で「ギネスに申請したいんだけど、何をそろえればいいのか？」と聞かれることがあります。一概にはなんともいえません・・・

ギネス社に提出する資料は、けっこうな分量があるのですが、新しく作る必要のある資料についても、細かくご説明し、「分かりません！！」ということが無いようにしています。

\* . . . . . \* . . . . . \*

イベントの当日は、第三者に記録（イベント）を確認してもらう必要があるのですが、その第三者を誰に頼むか、ということも決めなくてははいけません。

また、記録のタイトルも単純明快でインパクトのあるものにしたいものです。そんなことも電話やメールでのやりとりで決めていきます。

そんなことをしているうちに、  
あっという間に7月18日のイベントを迎えました。

ご担当者より、  
「無事終わりましたー」というメールをいただき、  
当社でも一安心。  
(無事終われないと、申請ができませんからね)

\* . . . . . \* . . . . . \*

そして翌日、楽しみなのは「ニュース」です。  
いつも、ギネス記録挑戦イベントがあると、  
翌日以降「どれだけマスコミをにぎわしてるかな」というのが  
とても気になります。

なぜなら、  
「ギネス挑戦イベントします」というような  
話題性があるニュースは、  
マスコミにとっては  
「欲しい!欲しい!そのニュース」というようなニュースであり、  
高い確率で記事などで取り上げてもらえるからです。

だから、お客様には、  
「イベントの前後は必ずプレスリリースを配信してください」  
と言います。  
そうじゃないと、せっかく大規模なイベントを行っても、  
成果は半減どころかそれ以下になります。

ワクワクしながら

インターネットのニュースサイトを色々見てみると・・・  
ザックザックと出てきました。

「TERU、1万人の前でラジオ公開録音！ギネスに申請」  
というニュース。

たとえばこんな感じです

<http://www.sanspo.com/geino/top/gt200507/gt2005071902.html>

また、新聞などの従来メディアだけではなく、  
最近のブログ流行を受け、個人の方のブログでも、  
こういう話題が紹介されることも多くなってきました。  
今回の場合も、多くのブログでTERUさんのギネスイベントが  
紹介されていました。

大きな話題を呼んだギネス記録挑戦イベント。

TERUさんも

「10年間続けてきたことへのごほうびかな」と  
感無量だったようです。

今回の挑戦は、bayfmのサマーキャンペーンの  
オープニングを飾るイベントであると同時に、  
TERUさんの番組10周年を記念するものでもありました。

その挑戦を無事終えられたことは、  
TERUさんにとっても、ファンの皆さんにとっても  
ずっと記憶に残るいい思い出になったのではないのでしょうか。

これで、ギネス記録に認定されれば、  
本当に忘れることのできない思い出になりそうですね。  
(認定されることを願わずにはおられません)





人気バンド GLAY のボーカル TERU さんが、ファン 1 万人を招待してのラジオ番組公開録音を行い、その記録を「史上最大規模のラジオ番組公開録音」としてギネス記録に申請しよう！という挑戦のいろいろなお話をお届けしています。

前号では・・・  
公開録音が無事行われ、その後多くのマスコミでその様子が紹介されたことなどをお話しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

公開録音は無事終わりましたが、それで終わりではありません。ギネス記録申請の準備がまだ残っています。

ここから、ギネス社に提出する資料をまとめたり、膨大な作業が始まります。ギネス社がきちんと判断できるよう、簡潔かつ明瞭な資料にすることが求められます。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そんな中、8 月中ごろ、ご担当者からメールが届きました。

「TERU さんが清水さんに会いたいと言ってるので、京都に行きます」

何ですって？

驚きです。

「京都に行きます」とおっしゃっていただいたのですが、清水にはそのときたまたま、翌週に東京出張の予定があったので、東京でお会いすることになりました。

そして9月1日、TERUさんと番組スタッフの皆さん、清水で、品川のホテルでお会いしました。

ちょうどbayfmさんのほうで揃えていただく資料が揃った段階でしたので、TERUさんから清水に「宜しくお願いします」と手渡されました。

ギネス社に提出するため、イベントの様子をコンパクトにまとめたDVDを作っていたのですが、20分ほどのDVDを見ながら、  
「30度を越す暑さの中、開場前にもこんなに長蛇の列、  
ありがたい限りですね」だとか、  
「当日は千葉市がすごく賑わって、地域活性化にも繋がったかな」という話や、  
「とにかくファンの方のためと思ってやったイベント。  
清水さんお願いしますね」  
というような熱い気持ちを伝えてくださいました。

そういった言葉に、当社の清水も・・・

「30度を越す炎天下の中、一日中屋外でイベントに参加したファンの皆さんのためにも、しっかりした申請資料を作ろう」と感じたそうです。

今回の会見の様子は9月下旬のbayfmで放送されました。当社は京都なので「残念！オンタイムで聞けないー！！」と思っていたら・・・、なんと！「ネット配信してますよ」とのこと。

ということで、放送を無事聞くことができました！

そのネット配信、

こちら <http://www.bayfm.co.jp/streaming/index.html> から

聞くことができるのですが、

残念ながらその9月下旬放送の分は今では聞くことはできません・・・。

最近放送分が聞けますので、

TERUさんの番組「TERU ME NIGHT GLAY」に興味があるけど、

自宅じゃ聞けない・・・という方、

アクセスしてみてくださいね。

そしてなんと！！

イベントまでや、イベント当日の様子（映像）が、

今なら bayfm のウェブサイトで見ることができます！

これは TERU さんファンの方、当社清水のファンの方、

必見ですよ！！

（清水は登場しませんが・・・）

こちらからどうぞ

<http://www.bayfm.co.jp/teru/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

さてさて、そうこうしているうちに、

bayfm のスタッフの方々のがんばりにより、

書類や写真や DVD、いろんな資料が揃いました。

これらはすべて翻訳をし、調整を繰り返して、



<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* \* . . . . . \*

「世界一高い」

そんなノッポの記録はギネス記録にたくさん登録されています。

たとえば、

「もっとも高い記念塔」

「もっとも背の高いリムジン」

「もっとも背の高い扉」

などなど・・・。

(「ギネス世界記録 2005」より)

「世界一高い」や「世界一大きい」といった種類の記録は、  
数値化が簡単で、比較がしやすいため、  
ギネス社としても、検討がしやすいと想像できます。

\* . . . . . \* \* . . . . . \*

今回からは、当社から最近申請した、  
あるものについてのノッポの記録のご紹介です。

まずは写真だけご覧下さい。

[http://www.sekaikiroku.com/now/now\\_051005/SK3500D01.jpg](http://www.sekaikiroku.com/now/now_051005/SK3500D01.jpg)

なんだか想像つきますか？

「足」の部分を見れば簡単かもしれませんね。  
そう、これは「ビル解体機」です。

この「ビル解体機」、高さなんと『65m』もあります。  
もういちど写真を見てみてください。

[http://www.sekaikiroku.com/now/now\\_051005/SK3500D01.jpg](http://www.sekaikiroku.com/now/now_051005/SK3500D01.jpg)

写真の中の他の建築物との比較してみてください。  
高~~~~いってこと、わかりますよね。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、この超ノッポ・ビル解体機、  
「SK3500D」という名称なのですが、  
これを開発、製造したのは、東京都品川区に本社のある、  
コベルコ建機株式会社様。  
建設機械、運搬機械の製造、販売などを主な業務とされています。

コベルコ建機様に「超ノッポ・ビル解体機」の製造を依頼したのは、  
東京都江東区に本社のある、渡辺解体興業株式会社様。

「SK3500D」は、渡辺解体興業株式会社様（通称ナベカイというそうです）に  
納入されています。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、

最初にご相談をいただいたのは、  
2005年8月のこと。真夏の、いちばん暑いときでした。

ご相談を伺うと、

「SK3500D」を「世界一高いビル解体機」として申請したい、ということ。

やはり最終的にギネス社の審査結果が出るまでは、  
認定を受けられるかどうかは分からないのですが、  
「高さ」という、明確な基準があるものについての記録なので、  
ギネス社としては判断しやすく、少なくとも、  
「それはちょっとお～。まったくお話にならないです」  
とはならないと判断。

もちろん判断する一瞬のあいだに、  
当社のこれまでの経験を総動員させ、総合的に判断します。

最初にご相談をいただいた時点で、  
「これはギネス記録としては相当（認定を受ける可能性が）薄いな」  
と判断した場合には、お客様に素直にそのようにアドバイスしますが、  
今回の場合は、少なくとも、  
ギネス社の興味の対象からまったくはずれているわけではありません。  
ギネス記録には「ノッポ」についての記録は山とあるからです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

しかも、コベルコ建機様はすでに下調べも行っておられました。





ご相談を受けた時点で、コベルコ建機様はすでにいろいろな下調べもしておられました。

-----  
「最大の油圧ショベル」というカテゴリはギネス社に登録されている。  
(“最大”とは、“重さ”について)  
-----

なるほど。  
似たような種類の記録ですね。

ですが、コベルコ建機様の記録は“高さ”についてのものです。  
“重さ”と“高さ”という違いがあるので、その差を明確にすれば、  
新規(新しいタイプ)の記録としての道が開けるのではないか！！  
と、当社清水は考えました。

そしてさらに詳しく伺うと・・・  
申請に役立つような色々なことが見えてきました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

コベルコ建機様は、2002年に  
「SK1600D」という高さ50mのビル解体機を開発し、  
これが当時、最も高いビル解体機だったそうです。  
(「SK1600D」については、「D & R i」という世界的な業界紙に、  
"世界で最も高いビル解体機"として紹介されていました。)

その後、他社が2003年に「50m+」のビル解体機を開発し、  
高さで世界一となりました。

そして、今回コベルコ建機様が 65m の「SK3500D」を開発し、  
世界一となったわけです。

ご相談いただいた 2005 年 8 月時点では、  
「SK3500D」はまだ完成しておらず、  
完成まであと 1 ヶ月ほどかかる、という状況でした。  
ただ、ほぼ完成していて、  
すでに高さ計測（\*）などは行っている、とのことでした。

---

（\*）高さ計測

この記録は、「高さ」に関する記録なので、  
どのような形であれ、高さを客観的に示すことが必須です。  
当社では、申請する記録の種類や性質に応じて、  
どのような方法での高さ計測が必要なのか、  
つまり、専門家にデジタル機器で計測してもらう必要があるのか、  
または、素人が定規などで直接測定する程度でよいのか・・・  
など、ご提案することがあります。  
今回は、正確な計測を行っている、とのことなので、  
（もちろん、素人の直接計測ということはありませんので・・・）  
その資料を提出資料のひとつにすることにしました。  
といっても、専門的な資料は一般の人にとっては  
非常に見にくいことが往々にしてあるので、  
当社の経験から、必要最低限の部分に注釈を添えるなど、  
ギネス社の理解を助け、また、審査時間の短縮にもつながるよう  
工夫しています。

---



「重さについての同様の記録があるが、

こちらは『高さ』についての記録として申請しよう！」  
ということで、高さをアピールしていく方向で本格的な準備が  
始まりました・・・というところまでをお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

前回まででお伝えしたように方向性も定まり、  
ここからが本番です。

当社では、『サポート開始直後』に、一番注力しています。  
「さぁ今からだ！！」と思ってヤル気いっぱいのお客様が、  
「どうしたらいいのー」と路頭に迷うことは絶対にいけません。

サポートを開始してすぐに、  
ギネス記録申請について詳しく説明した資料をお渡しします。

それに加えて、お客様の案件を当社の経験をもとに分析し、  
「この案件については、こんな資料を添えれば客観証明となるし、  
ギネス社にとっても審査しやすいだろう」といった、  
いわゆる『記録証明のための資料』についてもご説明し、  
お客様がスムーズに資料などの手配に移れるようにします。

書面で詳しくご説明するのとならないのでは、  
お客様の理解は雲泥の差となりますし、  
その後数ヶ月にわたるコンサルティング期間のなかで、  
メールやTELでの、お客様からのご相談の回数が、劇的に異なります。

これは、お客様にとって「時間的メリット」となりますので、

当社では、サポート開始直後にお渡しするご説明資料を特に重要なものと考えています。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、その後色々ご相談などを受けながら、お客様のほうで資料が揃ったのは2005年9月初旬のこと。

本来であれば、資料がすべて揃った時点から一気に当社で資料の翻訳をしますが、今回は、色んな事情があり、特別に、ずいぶん早くから資料の翻訳を開始していました。

そんな努力が実り、超特急で申請資料が完成していきました。お客様が資料を用意してから、当社でいったん引き取り、そこから何度もチェックしたり、翻訳したり、その後またチェックや、資料の調整、そして『取捨選択』も大事なポイントです。ギネス社が検討しやすく、そしてポイントをついた資料にするため、資料の取捨選択だけではなく、ある一つの資料についても「ここは提出、ここは提出しない」など細かな取捨選択を行います。

そうして最終的な申請資料が完成したのは、2005年10月初めのことでした。

\* . . . . . \* . . . . . \*

こうして、コベルコ建機株式会社様が製造し、渡辺解体興業株式会社様が保有する「SK3500D」を、「最も高いビル解体機」として、ギネス記録に申請しました。



\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

ミスコンテストタイトル受賞最多記録  
1983年～2001年の18年間で、ミスタイトルを53冠獲得

『ミスコンテスト』

ミス日本やミスユニバースなどの、だれでも知っているものから地域ごとのミス を選ぶものまで、さまざまな『ミスコンテスト』があります。

アイドルなどに憧れるのと同様、  
「いつか“ミス ”に選ばれてみたい！」と  
幼いころに憧れた女性も多いのではないのでしょうか？

テレビなどでコンテストの様子が放送されているのを見た記憶が私にもあります。

その『ミスコンテスト』  
かつては盛んに行われていましたが、現在では、  
以前ほど盛況ではないそうです。  
確かにそう言われてみると、テレビや新聞などで、  
そういった話題を目にすることは少なくなっていますね。

そんななか、  
「日本で再度ミスコンテストを盛り上げ、  
若い女性に夢をもってもらうためのきっかけをつくりたい」

という女性が、PITに相談に来られました。

実はその方が、18年間でミスタイトルを53冠も獲得した、という『アイドル国宝』がキャッチコピーの白石さおり様。最初のご相談は昨年、2005年の春のことでした。

ちなみに、『アイドル国宝』とは、コラムニスト中森明夫氏命名だそう。(太田プロWEBサイトより)

\* . . . . . \* . . . . . \*

さらっと言ってしまいましたが、  
【1983年から2001年までの18年間でミスコンテスト53冠】

これは.....

頷けるほど、実際、とてもお美しい方です。

#### <プロフィール>

1969年12月5日生まれ。福岡県出身。  
1983年 13才で第2回ミスマガジンに選ばれ、タレント活動を開始。  
1990年 「ANGEL」で歌手デビュー。  
女優・パーソナリティとしても活動中の2001年にミスコンテストタイトル53冠を達成。  
現在タレント業と並行して、日本初のオーディション評論家としても活躍中。  
太田プロ所属。

#### <家族・参考>

夫：小野寺 丈(俳優)、養父：石ノ森 章太郎(漫画家)



【著書一覧】

オーディションに受かる！（扶桑社）

オーディション合格「秘」（ の中に秘）テクニック（ノアール出版）

オーディション必勝術（日刊スポーツ 連載）

オーディションの裏側（夕刊フジ 連載）

【市販ビデオ一覧】

21世紀のマナー Vol.1 ワクワク面接編

2 イキイキ社内編

3 タレントオーディション必勝法

（ザ・ヒューマン株式会社）

公式サイト：<http://www.saolistclub.net/>

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

53冠・・・すごいですよね。

数年で達成できることはありませんし、

コンテストで受賞するためには、自分自身も磨き続けねばなりません。

そして、53冠ともなるとその証明のための資料の量もかなりのものです。

それぞれのコンテストでの受賞を証明しなければなりませんから！

そのギネス申請用資料の準備の様子などのお話は

次号のメルマガでお届けしてまいります。

お楽しみにお待ちくださいませ

回 ~ ~ ~ ~ ~

ギネス申請 裏話  
ミスコンテストタイトル受賞最多記録 (第2回)

~ ~ ~ ~ ~ 回

前回の『ミスコンテストタイトル受賞最多記録編 (第1回)』は  
お楽しみいただけましたか？

前回の内容はこちらでご覧いただけます。

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20060116.txt>

それ以前のバックナンバーはこちらから！

<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

前回のメルマガでは、  
18年間でミスタイトルを53冠も獲得し、  
現在その記録をギネス記録として申請中の  
白石さおり様について、記録の内容、  
プロフィールなど、ご紹介いたしました。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

さて、今回のメルマガでは、  
「ミスコンテストタイトル受賞最多記録」のギネス申請のための  
コンサルティングの様子などをレポートいたします。

ギネス記録申請 . . .  
当社でサポートさせていただくほぼすべてのお客様にとって  
「初めての経験」となります。

となると、当然のことですが、  
ノウハウなどは何もご存じないのが当たり前です。  
ですので、お客様が理解できるよう、  
ていねいにわかりやすいコンサルティングを心掛けています。

「ギネス申請」とは  
「ある記録をギネス社に審査してもらうために申請書類を作成し、  
ギネス社に送付する」ことです。  
ということはつまり、  
当社のコンサルティングは、「申請資料を完成させる」ためのものです。

提出する資料は各種ありますが、  
お客様が、どんな資料をどのような形で作成すればよいかについて、  
迷うことのないよう、丁寧に書面でご案内します。

\* . . . . . \* . . . . . \*

白石様の「ミスコンテストタイトル受賞最多記録」を  
ギネス社に正確にアピールし、審査してもらうために、  
どのような資料を作成していくか・・・  
についてのコンサルティングがスタートしました。

1983年からの18年間にわたる記録ですから、  
かなり前に開催されたミスコンテストもありますので、  
証明できる資料を揃えるのには、やはり時間がかかりました。  
今回は、「証明できる資料」としては、  
写真や雑誌記事、トロフィーの記事や賞状などを用意。

その他、各種資料の準備が昨年10月の初旬に完成しました。

さて、これからは当社の仕事です。  
お客様が用意した資料を、再度くまなく精読。  
「この資料は提出する必要があるか、ないか」  
「この資料のうち、どの部分が必要か」

という、いわゆる取捨選択を行います。  
コンパクト、かつ記録の信憑性を示せる資料にするために  
当社の経験を総動員します。

その後、資料を英語に翻訳し、資料は9割完成です。  
英語に翻訳した資料を、「ギネス申請資料」として  
最適な形に仕上げ、10割完成！

白石様のギネス申請資料は、11月中旬に完成し、  
白石様が直接ギネス社へと発送しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

白石様は

【日本で再度ミスコンテストを盛り上げ、  
若い女性に夢をもってもらうためのきっかけづくりとして、  
自分の記録を「ミスコンテストタイトル受賞最多記録」として  
ギネス記録に申請したい】

という、社会貢献的な目的をもって、ギネス申請をされました。

個人の申請の場合の多くは、  
「記念に残したい」という、自分の満足を満たすもので、

それはそれでまったく問題なく、  
きっとすばらしい記念になることと思いますが、  
この白石様の姿勢には、脱帽します。

現在はギネス社からの回答を待っているところですが、  
認定を受けることを願わずにはおられません！！

そして、このメルマガで皆さんにご報告できる日を  
楽しみにしております！！

白石さおり様 公式サイト

<http://www.saolistclub.net/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

今回でこの『ミスコンテストタイトル受賞最多記録編』は終了です。  
皆さん、楽しんでいただけたでしょうか。

私は、今後は『ミスコンテスト』のニュースに  
注目していこうと思います。  
コンテストに参加することで白石様の目的達成に  
協力できればよいのですが・・・それはさすがに・・・  
年齢ですでにアウトでしょうから・・・  
陰ながら応援させていただこうと思います。

皆さんも、『ミスコンテスト』に注目されてみては？  
チャンスがあればコンテストへの応募も！  
その場合には、ぜひご報告くださいませ！

さて、次号からは、また新しいシリーズが始まります。  
どのような内容の記録なのか、どうぞお楽しみに



まずは、その大きさをご紹介します。

縦 11.136m

横 59.904m

表示面積 667.09 平方メートル

家庭用のテレビと比較すること自体間違ってますね。

さて、この『ポートくん』、  
住之江競艇場にて 2004 年 4 月 13 日に公開されました。  
そして、2004 年 12 月 10 日にギネス社から認定を受けた  
『世界最大の大型映像表示装置』でもあります。

住之江興業株式会社からの依頼で、  
パナソニック SS マーケティング株式会社が制作しました。

では、そのギネス記録申請までに、どのようなエピソードが  
あったのか・・・、早速始めましょう！

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録申請について、ご相談があったのは、2003 年冬のこと。  
着工は、2004 年 1 月、  
竣工は、2004 年 3 月末の予定、ということでした。  
そしてお披露目が 2004 年 4 月 13 日。

申請内容は・・・  
大型映像表示装置（LED 方式）の表示面積が世界最大であること。  
仕様は縦 11.136m × 横 59.904m = 667.09 平方メートル

当時はまだ着工していませんでしたので、  
どのような資料をギネス社に提出するか、という具体像が  
なかなか想像しにくい状況でした。

そうそう、似た記録はないのかなと思って聞いた見たところ、  
「香港競馬場に世界最長記録 縦 8.0m × 横 70.4mの大型映像表示装置」  
がある、とのこと。

これなら上回っているから認定を受けるだろう、と確信しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

大きいものなので、記録の証明も大変そうです。  
大きさについての記録を申請するときには、  
ギネス申請用に計測を行ってもらって、  
その報告レポートを提出することが多いのですが、  
建築物など、「巨大」な場合は、  
納入の際のチェックレポートなどがしっかりしているので、  
それを使える場合は、申請用資料として使います。

『ポートくん』が公開される前から、内々で準備を進め、  
公開後一気に申請！の予定だったので、  
大きさを証明するための資料をどうするか・・・については  
ちょっと複雑でした。

ギネス社は、記録を申請した人が用意した資料  
(多くは紙媒体で、一部写真やビデオ)を見てしか  
記録を判断できないので、何を送り、





その記録の内容、そして、証明資料の準備について少しお話しました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

今回は、資料の準備についてもう少しお話ししましょう。

申請資料は基本的にお客様が用意をします。  
その際にアドバイス指導を行うのが当社の役割です。  
その後、資料の翻訳については、当社で行います。

そして、翻訳作業がひととおり完成近いかな・・・  
と、目処が見えたのが2004年3月後半。  
翻訳というのは、結構大変で、  
「確認」という作業がつきまといます。

申請資料のなかに数多くでてくる、「固有名詞」  
会社の名前や個人の名前、住所など、種類もさまざまです。

これらの「固有名詞」については、  
お客様に確認を取る必要があるため、  
何度かやりとりをする必要があります。

ですから、最終段階に来てから長くかかってしまう、  
というケースもあります。

そして申請資料が完成したのが、2004年4月のこと。  
一旦お客様が資料を受け取り、中身を確認し、

ギネス社に送付します。

\* . . . . . \* . . . . . \*

その後はギネス社からの連絡を待つのみです。  
7月になっても、ギネス社からの連絡がないようなので、  
ギネス社のWEB サイトより、問合せをしてみることに。

といっても、WEB サイトは英語。  
問合せ方法については、くわしい説明資料をお渡しして、  
お客様のほうでWEB サイトから送信していただきます。

わりとすんなりとギネス社から返事があり、  
さらっと「10 週から 12 週かかる」と書いてありました。。

えー！、まだそんなにかかるの！  
と、ご担当者も思われたかとは思いますが、  
まあ、そんなものです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

そうこうしているうちに、  
8月にギネス社からメールが届きました。

「最長のテレビ・ディスプレイ(the longest television display)」  
という記録がある。  
(香港ジョッキークラブの三菱ダイヤモンドビジョン)

今回申請してくれたディスプレイは、これより長くはないが、面積は大きい。  
もし、三菱ダイヤモンドビジョンのものと性質上同じなら、「最大のテレビ・ディスプレイ(the largest television display)」として検討しましょう。

大まかには、こんな内容でした。

そこで、「そのとおりです」という内容で返事をしたところ、10月に一通のメールが届きました。

そこには嬉しいことが書かれている様子。  
まだ100%と断言することはできませんが、「認定をする予定です」ということをにおわす感じ・・・。  
「記録を正式に認定する準備をしている」といったニュアンスでした。

そして登録する内容について「ご確認ください」とのこと。

これは・・・  
これは・・・

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、その後どうなるのでしょうか。  
この続きは、次号メルマガにてお届けいたします。

どうぞお楽しみにお待ちくださいませ



うかつに誇大なことは言えないのですが、  
はっきり言って、「認定しますよ」といっているようなものでした。

そして、その年の12月、  
ギネス社から認定証が送られてきました！！  
認定を受けたときにはお客様は「認定証が来たみたいですよ」  
とTELをくださり、その後に認定証をFAXしていただくのですが、  
なんとも感慨深いものがあります。

FAXしていただいたお客様の認定証は、  
すべて当社のオフィスに、記念に飾ってあります。

\* . . . . . \* . . . . . \*

さてさて、

このディスプレイのギネス記録申請。

大きさ世界一の画面が住之江競艇場にあるという  
話題性の向上のために、申請をしたそうです。  
住之江競艇場に来たことが無い人が足を運びきっかけとなり、  
より多くの人に、住之江競艇場を知ってもらい、  
その結果ファンが増えればーという目的だったようです。

その目的のために、どのようなことを行ったのでしょうか？  
成果はあったのでしょうか？

聞いてみますと、記録申請を完了した段階で、

「ギネス記録申請しました」という内容のプレス発表を、  
数誌に対して行ったところ、100%の掲載率だったそうです。

やはり、ニュース素材としての斬新さと、インパクトが効くのです。  
さらには、来場者へちょっとしたものを配ったり、広告PRを展開したり、  
総合的な広告・広報プロモーションをしたそうです。

この段階では、「申請した」にすぎません。  
でも、100%のプロモーション成功率でした。  
「ギネス」が持つニュース素材としての価値の高さがわかります。

それでは、認定を受けてからは、どうだったのでしょうか。

認定を受けた後にも、数誌に対して発表をしたそうですが、  
このときも掲載率100%。  
広報活動の成功率が100%というのは、  
はっきりいってありえない成果です。

この、マスコミ戦略大成功の結果を生んだ、  
ギネス記録認定の『ポートくん』、  
パナソニックのウェブサイトでも紹介されています。  
<http://panasonic.biz/astro/news/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

見事、ギネス記録認定を受けた『ポートくん』、  
その裏話を3回にわたってお届けしてまいりましたが、  
お楽しみいただけましたでしょうか。





(たぶん、95%くらいの方は、知らないですよ。  
ふつうは知らないはずだと思います)

イギリスのギネス社にいて、直談判するのでしょうか。  
それとも、テレビで見たことがある審査員を呼んで、  
記録を見てもらうのでしょうか。  
それとも、ギネス社に電話をするのでしょうか。

(ギネス社に行けばいいのですか？と聞かれることもありますが、  
それは違いますのでご注意を！)

当社がギネス記録申請コンサルティングを始めてから  
5年以上になります。  
これまでは「ギネス記録申請って、こうやってこうやってこうやるの」  
という決まりごとはありませんでした。  
しかし、最近になってギネス社が  
「ギネス記録申請をするときには、こんな手順を踏んでくださいね」  
という方針というかルールみたいなものを決めたので、  
これを機会に、ギネス記録申請に興味のある人のために、  
「どうやってギネス記録申請をするか」について、  
ごくごく簡単に説明したいとおもいます。

では  
早速具体的な「方法」を。

\* . . . . . \* . . . . . \*

## 【1】申請をしたい記録を探してみる

「これをギネス記録として申請したい」  
「ギネス記録挑戦イベントを開催しよう」

と考えたときには、まずは自分で出来る範囲で調査しましょう。

#### 調査に役立つもの

- ・ギネスブック（ギネス世界記録 2006）  
記録がカテゴリ分けされていて見やすい。
- ・ギネス社の WEB サイト  
検索ができるので便利。  
一方、すべて英語。
- ・インターネットで検索  
たくさんの情報を集めることができる。  
しかし、信憑性は？

とにかく出来る限りを尽くして、情報収集をしましょう。

#### そして

「自分が申請（記録挑戦）したい記録と同じ、  
または似ている記録」があれば、  
まずは、その詳細を把握してください。

同じ、または似ている記録があれば、  
今回の申請は、「記録更新」になるかもしれませんが、  
まったく似ていない記録がなければ、  
「新規の記録としてどうですか？」  
といった提案も含んだ申請になるかもしれません。

出来る限り、ギネス社が発表している  
信憑性の高い情報を入手できるようにがんばりましょう。  
そうでないと、インターネットで調べた情報のなかには、  
いいかげんなものも多くあります。  
企業が「ギネス記録申請しました」と発表すれば、  
それをみたどこかの人が  
「 社がギネス記録認定うけたんだって」と書いてしまっていることも  
往々にしてありえます。  
インパクトの強い情報のほうが広がりがありますから、  
「申請した」と発表したのに、  
「認定を受けた」が広まってしまっている・・・  
なんてことが起こりえます。  
だから、情報の信憑性については、注意したいところです。

自分の申請（記録挑戦）した記録が、  
「すでにある記録の更新」なのか、  
「まったくあたらしい記録」なのか、  
あらかたつかめたら、次は、  
ギネス社の WEB サイトを見てください！！！！

\* 補足

ギネス社の WEB サイトでは、  
「こんな記録はギネス社は興味ありませんよ」といった、  
大まかなことを説明しています。  
自分が申請したい記録は、  
「ギネス社が興味をもたなさそうな記録」ではないかどうか、  
あらかじめチェックしておくといいでしょう。

\* . . . . . \* . . . . . \*

【 2 】ギネス社の WEB サイトでジャブを入れよう

次に行く「とっても大切なこと」は、  
ギネス社のWEBサイトをから「問合せ」をすることです。

ギネス社としては、  
「まずはWEBサイトのフォームに記入して送ってください。  
私たちが興味をもった記録については連絡しますので、  
その後、記録挑戦や申請について進めてください」  
といった方針をもっています。

非常に簡単にいうと、  
「WEBサイトからジャブを入れてね。  
本格パンチはこの後にしてくださいね」  
といった感じでしょうか。

WEBサイトから問合せをした際、もちろん、  
箸にも棒にもかからないようなものは  
「興味ありません」とふるいにおとされてしまいます。  
ギネス社が「興味をもった」もののみ、  
具体的に申請や記録挑戦について進めていきます。

さて、ギネス社のWEBサイトを見てみましょう。

そこでまずクリックするところは  
『Make a record attempt』と書いてあるところです。

クリックすると、なにやらページが表示されてきて、  
『Next』と何度かクリックするようになっています。  
この、クリックする過程のなかで、

ちょっとした質問をされたりするので (Yes No クイズ)  
それに答えながら、Next Next と進んでいきます。

ようやく、問合せ事項を記入するフォームが表示されます。  
記入する項目は、「記録についての詳細」と、  
「あなたについての詳細」です。

「記録についての詳細」は、5W1Hを記入するだけです。  
そのときに、  
【1】で調べた結果「同じ記録（類似した記録）」があれば、  
その内容も書いて、  
「こういった記録があるという情報を仕入れたので、  
この記録の更新になると思います」と書いておきます。

補足ですが、ギネス社のWEBサイトは英語で書かれていますし、  
問合せの内容も英語で書く必要があります。

ギネス社のWEBサイトに必要項目を記入し『Submit』ボタンを押せば、  
問合せ内容がギネス社に届きます。

その後、ちょっとこまごまとした手続きがあり、  
ギネス社からメールでA4用紙25枚くらいの書類のセットが届きます。

その書類セットは大切なことがたくさん書かれていますので、  
きちんと読んでください。

書類セットのなかには、  
日本語でいうと「同意書」という資料が含まれているのですが、  
そこに必要事項を記入してギネス社に送らなくてはなりません。



さて、今回はその続き、【3】から始まります。

【1】【2】が掲載された前回のメルマガを未読の方はこちらから  
<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/20060327.txt>

\* . . . . . \* . . . . . \*

### 【3】ジャブの結果をまとう

ギネス社のほうで「同意書」を受け取った後に、  
WEB サイトから問合せをした内容についての検討が始まります。

そして、こちら側では、ジャブの結果を待ちます。  
ちょっと時間がかかることもありますが、

- (A) 「OK、記録挑戦（申請）を進めてください」と  
嬉しい返事が来たら万歳です。
- (B) 「あなたが言ってきた記録は、この記録に似ていますね」  
と逆に提案をされることもありますし、
- (C) 「NO 残念ながらギネス社としては興味ありません」と返答が来たら、  
これ以上は進めることができません。

(A) や (B) の場合には、  
その記録についての特別なルールを送ってきてくれることがありますので、  
今後の記録挑戦や記録申請は、このルールを参考にして行います。

ここで注意！  
問合せしたことに対して、

(A) 「OK、記録挑戦(申請)を進めてください」  
という返答を受けたとしても、  
それがイコール「認定しますよ」という意味ではありません。

あくまで、ギネス社の興味の範疇外ではなかった・・・と  
ほっと胸をなでおろす程度にとどめたほうが、いいでしょう。  
もちろんこの時点でマスコミなどに「ギネス認定」などという  
発表をするのはもってのほかです。  
ジャブであることを認識しましょう。

\* . . . . . \* . . . . . \*

#### 【4】記録挑戦(申請)の準備を進めよう

【3】で、(A)や(B)の答えを受けた場合、  
「その記録についての特別ルール」を一緒にもらえる場合があります。  
「ギネス記録申請についての一般的なルール」というものも別にあり、  
それは【1】の段階でギネス社からメールで添付されてくる  
書類のセットに含まれているのですが、  
この2つのルールをこれから参考にしていきます。

記録挑戦イベントを行う場合は、  
けっして準備にぬかりが無いように注意します。  
ときには、人員・機材・資料についての規定が  
ルールに書いてあることもありますので、  
「ルール違反!」とならないように十分注意します。

おそらく分からないことや不安なことが  
たくさん出てくるはずなので、  
そのような場合には、  
ギネス社のWEBサイトから問合せを行います。  
(ID番号などが与えられ、ログインできるようになっています)



また、記録申請資料の準備についても、  
入手したルールにもとづいて行います。  
記録申請資料は、ときに膨大な量になりますが、  
すべて英語に翻訳して準備します。

\* . . . . . \* . . . . . \*

### 【5】申請資料をギネス社に送ろう

準備をした資料に抜けやダブリ、不整合性がないかを  
注意深くチェックしてOKであれば、ギネス社に送付します。

あとは、認定の結果を待つのみです。

審査には、結構時間がかかります。  
もし不安だったら、  
ギネス社のWEBサイトにログインしましょう。  
ログインをすると、「申請した記録の現状」が  
おおまかに見えるようになっていきますし、  
そこから問合せをすることもできます。

そして・・・

認定を受ける場合は、A4サイズの認定証が送られてきます。  
反対に、認定を受けられない場合は、  
その旨を説明した文書が送られてきます。

\* . . . . . \* . . . . . \*

以上が「ギネス申請の方法」です。  
参考になりましたか？

\* ) 補足 「ギネス申請しました」っていつから？

ちょっと補足ですが、  
いつの時点で「ギネス申請しました」と言えるのでしょうか？  
これには明確な定義はないと思います。

【1】のギネス社のWEBサイトから問合せを行った時点で、  
「事実としてギネス社と接触をとっているんだから、  
“ギネス申請した”ということにはならないのか？」といわれれば、  
「うーん、そういわれるとーん」という感じもしますが、

私どもでは、そうは考えておらず、  
最終的に申請資料をギネス社に送付した時点で  
「ギネス記録申請した」という事実が発生した、と考えています。

それは、【1】の時点はやっぱりあくまで「ジャブ」ですので、  
「ギネス記録申請した」というには軽すぎます。  
商標登録などを行うときにも最初に調査をしますが、  
そんな程度のものだと考えているからです。

また【1】の後にギネス社が検討し返答を受けるわけですが  
それも絶対的なものではなく、  
「申請準備に進んでもいいですよ」程度なものですので、  
当社では、この段階では「申請した」とは考えていません。

だからこの段階で「興味なし」と言われた場合でも、  
「申請したがダメだった」というのではなく、  
「ギネス社から、“ギネス社としては興味ない”という



ギネス申請 裏話、今号からは  
「最大の花火編」の始まりです

これまでのバックナンバーはこちらから！  
<http://www.sekaikiroku.com/merumaga/index.htm>

\* . . . . . \* . . . . . \* .

夜空に大輪の花を咲かせる打上花火、  
家族や友人などと楽しめる手持ち花火、  
どちらもそれぞれに美しく、ワクワクさせられます。  
花火が嫌い！という方は、  
なかなかいらっしやらないのではないのでしょうか。

さて、その花火に関するギネス記録というの  
もちろん存在します。  
当社でも、「最長のナイアガラ花火」の  
記録申請サポートを過去に2回行っており、  
花火大会運営の大変さと、花火が人々に与える感動について  
大いに勉強になりました。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

今回からご紹介するのは、  
2005年8月2日に新潟県長岡市で行われた、  
震災復興祈願花火「フェニックス」。

「フェニックス」は、  
2004年10月23日の新潟県中越地方の地震（\*）からの  
復興を願う花火のことです。

(\*) 中越地震(ちゅうえつじしん)

2004年10月23日17時56分におきた新潟県中越地の大規模な地震。

震源地方は新潟県中部、震源の位置は北緯37.3度東経138.9度、

深さは約13kmでマグニチュードは6.8。

最大震度は7を記録。

その後、同程度の規模の余震が数日間に何度も起きた。

(本震は震度7、震度6の余震は4回)。

避難者は当初10万人を超え、住宅損壊9万棟、

被害額は3兆円を超えるといわれている。

「フェニックス」は、災害時に物資支援や応援などで  
お世話になった多くの方々への感謝の気持ちと、復興への決意、  
災害の風化防止などの意味をこめた打上花火の企画です。

実行委員会では、この「フェニックス花火」を

「最大の花火」としてギネスに申請しよう!という考えでした。

「フェニックス」の名前の由来

エジプト神話にでてくる霊鳥(不死鳥)である「フェニックス」のように

地震による被災から復興することを願い、

名称を「震災復興祈願花火 フェニックス」としたということです。

震災復興祈願花火「フェニックス」

・ ・ >> <http://phoenix-hanabi.jp/>

\* . . . . . \* . . . . . \*

さて、復興祈願の思いを込めた「フェニックス」は  
成功するのでしょうか?

「フェニックス」の企画段階からイベント当日、

そしてその後まで、詳しくお伝えしましょう。

### 【記録の調査】

花火に関するギネス記録はいくつかあります。  
やはり文化柄か、日本で達成された記録が多いようです。

「最長のナイアガラ花火」については、  
2001年に福島県岩瀬村商工会が2001mのナイアガラを実施し  
ギネス記録認定を受けました。  
その後、次々と記録が更新されています。

また、「フェニックス」が更新を狙う「最大の花火」については、  
1998年、北海道・洞爺湖の、1.2kmの花火が  
ギネス記録として登録されています。

ギネス社のWEBサイトで検索したところ、  
下記の内容で登録されていました。

---

#### Largest Firework

The five-color Universe I Part II - the world's largest firework - exploded at the annual Lake Toya Firework Festival in Hokkaido, Japan on July 15, 1988. The 700 kg (1,543-lb) shell of the fantastic fire cracker burst to produce light display with a massive 1.2 km (0.75 mile) diameter!

WANT TO KNOW MORE?



\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

前回のメルマガでは、  
2005年8月に、新潟県長岡市にて、  
その前年の越中地震からの復興を願っての  
打上花火「フェニックス」を打上げるにあたり、  
ギネス記録に認定されている「最大の花火 1.2km」の  
記録更新を目指すことになった、  
というところまでをお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

#### 【様々な意見】

さて、ギネス記録更新を目指した企画がスタートするわけですが、  
協賛金の募集活動を通じてギネス申請について、  
様々な意見があったようです。

「復興祈願が趣旨なのにギネス申請は  
趣旨に合わないのではないか？」

「花火のための協賛金をギネスの経費に  
さくべきではないのではないか？」

などの意見です。

ある目的に対して協賛金をお願いするわけですから、  
その使い道に違う項目が入っていれば、意見が出るのも当然のこと。  
「付加価値」をどのように考えるかについては、  
まちおこしのイベントの現場でもたびたびおこることでしょう。  
参考になりますね。



「フェニックス」の場合は、色んな議論の末、  
正式に「ギネスに挑戦しよう！」ということになったそうです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

### 【当社へのご相談】

ギネス記録挑戦をする際には、ギネス社のWEBサイトから  
「このような記録挑戦をしたいので、関連ルールをください」と、  
ルールを取り寄せることから始まります。

ところが、その頃、ギネス社のWEBサイトのシステムの不具合により、  
問合せができない状態でした。

そこで、当社にご相談いただいた結果、  
申請についてはかなり複雑になることから、  
当社が申請についてのサポートを行うことになりました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

### 【花火の準備】

目指すは1.2kmを超える「最大の花火」です。

花火の製作は、3社の花火会社で行いました。

ギネス記録として申請するために、  
何を（どの種類のどの大きさの玉を）、いくつ準備したか、

また、火薬の重量についても詳しく書面にまとめてもらったほうがいい、とアドバイスをしたところ、  
花火会社の方が協力をしてくださったようで、  
申請資料はとても詳しくまた見やすい資料になりました。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . .

### 【花火の計測】

万全の準備を整え、イベント当日がやってきました。

イベント当日には、とても大きな仕事があります。  
それは『花火の計測』です。

「大きさ」に関する記録ですから、  
大きさは出来る限り正確に測る必要があります。  
そこで「測量士などの資格を持った方に測量の依頼をしたほうがいいですよ」とアドバイスをしました。

「大きさ」についての記録挑戦の際には、  
測量士など有資格者に頼んでくださいと言うことが多いのですが、  
お客様にとっては「えっ！大変！」となるそうです。  
自分たちの組織以外の人に依頼するというのは、  
「引き受けてもらえるかな」という心配もありますし、  
何より「どのくらい払わなくてはいけないかな」と考えてしまいます。

「フェニックス」についても、  
長岡市内の設計事務所の協力を得て、  
無事に測量を行うことができました。



\* . . . . . \* . . . . . \* .

前回のメルマガでは、  
2005年8月に、新潟県長岡市にて、  
その前年の中越地震からの復興を願っての  
打上花火「フェニックス」を打上げるにあたり、  
ギネス記録に認定されている「最大の花火 1.2km」の  
記録更新を目指すことになりましたが、  
打上当日、無事ギネス記録を上回る 1.6kmの  
花火を打ち上げることができた！  
というところまでをお伝えしました。

\* . . . . . \* . . . . . \* .

### 【申請資料の準備】

2005年8月2日、  
震災復興祈願花火「フェニックス」が打ち上げられ、  
約 1.6km を記録。  
これまでの記録 (1.2km) を大きく更新することができました。

さてここからは、申請資料の準備です。

申請資料とひとことに言っても、様々な資料が必要です。  
資料の種類や分量よりも、「どのようにつくるか」が  
とても大事です。

というのは、ギネス社はイギリスにありますので、  
日本とは文化において大きな差があります。

さすがに Fireworks ということばは通じるかもしれませんが、  
「スターマイン」「フェニックス」など、  
申請資料の中で、普通に使ってしまいそうな単語についても、  
やさしく解説を入れないと、ギネス社にとっては、  
まさに「外国語を読んでいるよう」になってしまうかもしれません。

また、記録について、その信憑性を証明しながら、  
できる限りシンプルに作ることに注意したいものです。  
数々の記録申請資料を見るギネス社の立場に立って、  
「どのような資料なら分かりやすいか、判断しやすいか」を  
考えて作っていきます。

もちろん最終的には英語ですべて作るのですが、  
まずお客様には日本語の資料を準備してもらいます。

そして、2005年10月の中旬に、日本語の資料がすべて揃いました。

さて、次は日本語の資料を英語に翻訳しなくてはなりません。  
資料を英語に翻訳するのは当社で行うことがほとんどです。

資料の量がかなり多くなりますので、  
翻訳にも時間がかかるのですが、  
申請資料としてふさわしい形に作り上げていくことにも、  
相当の時間がかかります。  
各種ある資料の数字に誤差がないか、  
固有名詞の表記に誤差がないか・・・など。  
翻訳の段階では、  
お客様が準備した資料をそのまま英語に訳しますので、  
お客様が記載ミスをしていてもそのまま英語に変換されます。  
そういったミスがないか・・・  
などについてもチェックが必要です。

かなりの時間がかかりましたが、  
年が変わって 2006 年 1 月中旬にギネス記録申請資料が完成しました。

「フェニックス」実行委員会からギネス社へ  
申請資料を送付するのですが、  
「せっかくだから」と、長岡郵便局の本局へ行き、  
局長に手渡しされたそうです。

数日後には「フェニックス」花火の申請資料は、  
ギネス社のもとに届きます。

そこからはギネス社からの返答を待つのみ！

ギネス記録申請の結果は、  
100%ギネス社の判断によるものですが、震災復興祈願という、  
多くの人の思いを乗せたフェニックスの記録申請が、  
認定を受けますことを願ってやみません。

#### 参考

震災復興祈願花火実行委員会様による  
ギネス記録申請に関するレポート

<http://phoenix-hanabi.jp/guinness.html>

当社ウェブサイトでのご紹介

<http://www.sekaikiroku.com/now/060120.htm>

\* . . . . . \* \* . . . . . \*



・・・とあります。

む、むずかしいですね・・・。  
まあ、（私と同様）なんとなーくという人も  
いらっしやるかもしれませんが、  
「特許権」というもの、ご存知だと思います。

その特許権の取得数で世界一に認定されました！  
というのが、今号からお話しする記録です。

\* . . . . . \* . . . . . \*

その記録を達成されたのは・・・

株式会社半導体エネルギー研究所（SEL）代表取締役であり、  
工学博士である山崎舜平さん。

なにになに？  
どんなことで特許権を取得したのかひとつずつ知りたい、ですって？

無茶言わないでください。  
そんなことしようと思ったら、この「特許権取得数編」を  
何回続けなければならないか・・・。

まあ、まずはその数を見てください。

特許権取得数世界一（総取得件数：3,245件）  
米国特許での発明件数： 1,200件  
米国外特許での発明件数：2,045件



(ともに 2004 年 5 月 31 日時点)

その分野は、半導体装置、薄膜トランジスタなどです。  
(私にとっては、聞いたことはあってもよく分からない  
単語が並んでいます・・・)

3,245 件、という数を見ただけで、  
「3 千?!」と圧倒されると思います。

ちなみに、  
発明王のエジソンが生涯で取得した特許権数は、  
合計 2,186 件だったそうです。

山崎舜平さんは、  
エジソンよりもはるかに多く、世界一であることは間違いなし、と、  
ギネス記録としての申請を行ったのですが、  
それが見事認定されたのです。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録への申請から認定までを振り返ってみますと・・・

ハラハラさせられたこともありました。

申請用書類をギネス社に提出したのが 2004 年 1 月のこと。  
その後、結果が出るまでが長かったのです。

ギネス社のウェブサイト上で、ID ナンバーなどを入力することで、

自分が申請した記録の審査の状況などを確認することができるのですが、

「Status（状況）」という欄に、想像外の表示がされていて、  
「今どうなってるの？」と現状が分からなかったこともありましてし、

「Date Attempted（挑戦の日付）」が表示される欄に、  
妙な表示がされていて、これまたどうなっているのか分からない・・・  
というときもありました。

「状況がわからない」というのは、やはり不安なもので、  
記録の達成者である山崎舜平さんや、関係者の皆さんはもちろんですが、  
当社ピットのスタッフもドキドキ、ハラハラしていました。

そのようなドキドキ、ハラハラの後に届いた認定の知らせは、  
いっそう嬉しいものでした。

結局、認定を受けたのが同じ年、2004年の9月のことでしたから、  
認定を受けるまでに8ヶ月もかかってしまいました。

というと、皆さん「8ヶ月も！」と思われるかもしれませんが。  
でもそれは、それほどビックリするようなことではないのです。

当社でサポートさせていただいたお客様の中には、  
それ以上、1年以上たってようやく・・・という方もいらっしゃいますし、  
とにかくギネス記録申請をしようと思ったら、  
気長に考えよう、というスタンスで望むのがいいようです。  
(もちろん自分の側でする準備を急いで、少しでも結果が出るのを  
早めるという努力はできます)

\* . . . . . \* . . . . . \*



特許権取得数世界一（総取得件数：3,245 件）

米国特許での発明件数： 1,200 件

米国外特許での発明件数：2,045 件

（ともに 2004 年 5 月 31 日時点）

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

今回のメルマガでは、  
ギネス記録として認定されて、その後、どのような効果があったのか、  
ということについてお話したいと思います。

山崎舜平さんの特許権取得数は、  
2004 年 9 月にギネス記録に認定され、  
その後、この事実を知らせるプレスリリースを、  
各メディアに対し配信しました。

結果、山崎舜平さんのギネス記録認定のニュースは、  
業界紙や専門誌に掲載され、同業種、または専門を同じくする人たちの  
目に触れることになったのです。

\* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \* . . . . . \*

会社への何らかのメリットを求めてギネス記録申請をする、  
といっても、その求める結果はみな同じではありません。

例えば、会社のイメージアップを目的にする場合。  
自社の業務とは全く関係ないことでギネス記録認定を  
目指してもいいのです。

「ギネス記録に挑戦するなんて、面白い会社やなー」と、  
これだけでも、イメージアップにつながるでしょう。

また、ごみ拾いに関する記録に挑戦して、  
環境に対する姿勢を示すことで、  
イメージアップにつながることもあるでしょう。

それとは別に考えられる目的に、  
ギネス記録に認定されることによって、  
自社の商品・サービスなどの信頼性を高めたい、あるいは、  
自分たちの持つ技術の裏づけをしたい、  
というものがあります。

今回の特許権取得数の記録に関して言えば、  
ギネス記録認定によって、後者の目的を見事に達成できた  
と言えるでしょう。

また、今後も  
信頼性を高め、技術の裏づけをするために、  
ギネス記録認定という事実を活用していくことができます。

\* . . . . . \* . . . . . \*

ギネス記録に認定されるのは簡単なことではありません。

証拠資料を準備するのに四苦八苦するかもしれません、  
挑戦イベントを開くには大変な労力が必要となるかもしれません。

そのような苦労を経てギネス記録に認定されたとしても、



2003年9月に創刊した当メルマガ『世界記録探検隊』は、  
今回が最終号となります。

3年弱の間、たくさんの方にご購読いただき、  
本当にありがとうございました。

\* . . . . . \* . . . . . \*

このメルマガは『まぐまぐ!』から配信していたのですが、  
今後もギネス記録に関する情報をメールで受け取りたいと希望される方には  
当社の別のメルマガ『めざせ!ギネス記録』をお届けいたします。  
(月1回ほど、不定期に配信しています)

メルマガ『めざせ!ギネス記録』は、『まぐまぐ!』などの配信システムを  
利用せず、当社からご希望の方に直接配信しているものですので、  
ご購読を希望される方は、info@sekaikiroku.com まで、  
『めざせ!ギネス記録購読希望』と明記の上、  
購読を希望するメールアドレスをお知らせください。  
翌月より『めざせ!ギネス記録』を配信させていただきます。

ギネス記録への挑戦・申請に関する情報をお届けしておりますので、  
ご興味をお持ちの方はぜひご購読ください。

\* . . . . . \* . . . . . \*

「このメルマガを始めてから3年近くたつのか!」と  
改めて驚いてしまったのですが、  
読んでくださる方がいらっしゃったからこそ  
3年近くも続けてくることができました!  
ご購読、本当にありがとうございました!